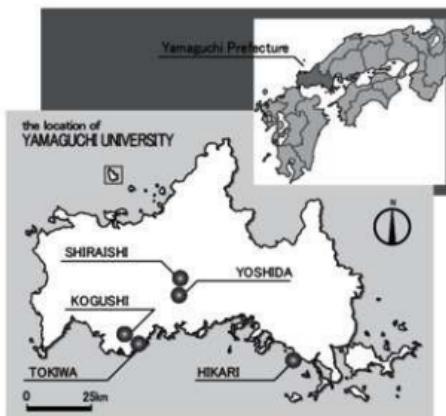


山口大学構内遺跡調査研究年報XIX

2022

山口大学埋蔵文化財資料館

山口大学構内遺跡調査研究年報XIX



2022

山口大学埋蔵文化財資料館

序 文

この年報には、山口大学埋蔵文化財資料館が実施した平成11年度の発掘調査成果を収録しています。当館では、平成15年度以降の発掘調査成果については『山口大学埋蔵文化財資料館年報』として刊行していますが、現在、未報告となっている平成7・14年度分の発掘調査報告については、今後引き続き整理作業を進めて、『山口大学構内遺跡調査研究年報』として刊行する予定です。

本書の刊行にあたって、宇部市教育委員会、宇部市都市開発部、埋蔵文化財資料館運営委員会、施設部をはじめとする関連部局、関係機関・関係各位のご高配に厚く御礼申し上げるとともに、今後ともご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

山口大学埋蔵文化財資料館
館長 根ヶ山 徹

例　　言

1. 本書は、山口大学埋蔵文化財資料館が、埋蔵文化財資料館運営委員会の指示を受けて、平成 11 年度に山口大学構内で実施した調査と宇部市域遺跡発掘調査団が山口大学医学部構内遺跡で実施した宇部市土地区画整理事業関係の調査報告書である。
2. 現地における調査・研究は、資料館員 村田裕一（～平成 15 年 3 月 31 日 現人文学部准教授）・田畠直彦・金子大輔（平成 10 年 4 月 1 日～平成 13 年 3 月 30 日）が担当し、同館員 中村仁美（平成 11 年 4 月 1 日～平成 14 年 3 月 30 日）が補佐した。出土遺物の整理と報告書の作成は平成 10 ～ 15 年度及び平成 29 ～令和 3 年度に行い、中村、神田真理子（平成 13 年 4 月 1 日～平成 16 年 3 月 30 日）・乃美友香（平成 19 年 4 月 1 日～）が携わった。整理と報告書作成の統括は田畠が行った。
3. 本調査・研究における平成 11 年度の事務一般は、事務局庶務課研究協力係が統括し、実施面においては、各関係部局の事務部があたった。
4. 現地における遺構の実測などは、村田・田畠・金子・中村が行った。
5. 遺物実測は田畠、製図は田畠が行った。
6. 現地の写真撮影は村田・田畠・金子が行い、遺物写真の撮影は田畠が行った。
7. 韓式系土器については、岡山理科大学生物地球学部教授 亀田修一氏、愛媛大学埋蔵文化財調査室特任准教授 三吉秀充氏、京都大学大学院文学研究科教授 吉井秀夫氏、近世陶磁器については、元北九州市芸術文化振興財団埋蔵文化財調査室 佐藤浩司氏、石器の器種同定については村田裕一氏、山口県埋蔵文化財センター 岩崎仁志氏、石器の石質鑑定については、山口大学大学院理工学研究科名誉教授 加納隆氏に助言を仰ぎ、懇切なご教示を得た。
8. 英文の校正については、株式会社アウルズに委託した。

9. 本書の執筆・編集は館員の補佐を得て田畠が行った。
10. 吉田構内、白石構内、光構内の調査担当は次のとおりである。
- 平成11年度
- | | | | |
|--------|----------|--------|------------------------------------|
| 調査主体 | 埋蔵文化財資料館 | 館長事務取扱 | 未島 浩(～平成11年7月15日) |
| | | 館 長 | 加納 隆(平成11年7月16日～) |
| | | 館 員 | 村田 裕一 |
| | | 同 | 田畠 直彦 |
| | | 同 | 金子 大輔(事務局庶務部教務補佐員) |
| | | 同 | 中村 仁美(事務局庶務部事務補佐員) |
| 事務局 | | 事務局長 | 高石 道明 |
| 事務局庶務部 | | 部 長 | 橘 仁至(～平成11年10月31日) |
| | | | 金田 忠一(平成11年11月1日～) |
| | | | (平成11年11月15日～平成11年12月31日 人事課長事務取扱) |
| 庶務課 | | 課 長 | 貴志 徹 |
| | | 課長補佐 | 荒石 光明 |
| | | 専門員 | 岡村 秀幸 |
| 研究協力係 | | 係 長 | 宍戸 好隆 |
| | | | 高藤 裕行 |
- 令和3年度
- | | | | |
|------|----------|-----|------------------------|
| 調査主体 | 埋蔵文化財資料館 | 館 長 | 根ヶ山 徹 |
| | | 副館長 | 藤間 充 |
| | | 館 員 | 田畠 直彦 |
| | | 同 | 横山 成己 |
| | | 同 | 水久保洋子(総合技術部技術企画課技術職員) |
| | | 同 | 乃美 友香(学術基盤部学術推進課技術補佐員) |
| 事務局 | 学術基盤部 | 部 長 | 多賀谷勇治(総務企画部長併任) |

	次 長	田中 俊二 (学術基盤部学術推進課長併任)
学術基盤推進課	副 課 長	田村 広明
総務係	係 長	大島 洋子
		今秋 玲子
		浅野 貴子
		福原由希子
		三浦 恵子

11. 吉田構内、白石構内、小串構内、光構内の調査研究にあたって下記の方々の多大なご協力と援助を受けた。

平成 11 年度

事務局庶務部	人事課長 宮田久義 (～11月14日)、鈴木成巳 (1月1日～) 同 課長補佐 岩佐豊典、同専門員 柳井 進、任用係長 井下健二、 同係 三浦勝弘、西本志保、石田恭子、岡田育恵
経理部	部長 小林和久、主計課長 及川洋輝 (～7月31日)、渡邊悟司 (8月1日～) 同課長補佐 中村文徳、経理課長 結城昌伯、同課長 補佐 川本敏男、総務係長 山本直行、予算係長 中川憲治、監査 係長 伊藤篤紀、管財係長 篠原敏夫、管理係長 重本隆之
施設部	部長 山下 曙、企画課長 上田孝雄、同専門員 (企画係長併任) 小川賀津夫、建築課長 清川 昇、同課長補佐 齢田秀正、設備課 長 才木敏雄、総務係長 中光博輝、企画係長 河田徹也、建築第一係長 中谷幸一、同係 新里英明、建築第二係長 中谷幸一、 同係 澤谷弘美、電気係長 松田清司、同係 弘中智則、前田康 孝、機械係長 岡田吉彦、同係 板垣健一、藤林聖司、中村兵衛
学生部	部長 井上 武、学生課長 兵地正彬、同課長補佐 田村博幸、總 務係長 佐村研治、厚生係長 山根賀浩
教育学部	事務長 有吉 明、会計係長 高崎明祈、附属光小学校長 河合洋 祐、同副校長 佐藤純一、附属光中学校長 宮崎擴道、同副校長 井上需攻、光附属学校係長 伊藤伸司
医学部	事務部長 最所親志、同次長 粒見和義 (～1月3日)、中村徹 (

1月4日～）、総務課長 山西昭一、同課長補佐 石川恒夫、管理課長 木林 透、同課長補佐 牧原和仁、中島一雄、総務係長 久保賢治、施設管理係長 萬代英夫、同係 永富まり子、林 直人、建築係長 川西智幸、設備係長 山本安雄

光市シルバー人材センター

12. 小串土地区画整理事業関係の調査は下記の体制で行った。

平成11年度

調査主体 宇部市域遺跡発掘調査団

団長 西村太一（宇部市教育長）

副団長 大塚 徹（宇部市教育次長）

調査指導 豊谷和之（奈良県田原本町教育委員会文化財保護課）

調査員 村田裕一（山口大学人文学部助手 埋蔵文化財資料館）

田畠直彦（山口大学人文学部助手 埋蔵文化財資料館）

金子大輔（山口大学事務局庶務部 教務補佐員）

事務局 林 英樹（宇部市教育委員会社会教育課課長）

坂野卓史（宇部市教育委員会社会教育課課長補佐）

林 英樹（宇部市教育委員会社会教育課課長補佐）

唐沢陽司（宇部市教育委員会社会教育課文化係長）

渡辺英明（宇部市教育委員会社会教育課事務職員）

石川 健（宇部市教育委員会社会教育課事務職員）

作業員 宇部市シルバー人材センター

令和3年度

事務局 石津洋子（宇部市教育委員会学びの森くすのき・地域文化交流課課長）

石川 健（宇部市教育委員会学びの森くすのき・地域文化交流課係長）

鈴賀智幸（宇部市教育委員会学びの森くすのき・地域文化交流課職員）

凡 例

- 吉田構内における調査区および層位・遺構の位置は、日本測地系に基づいた国土座標を基準として北から南へ1～24、西から東へA～Zの番号を付して50m方眼に区画した、構内地区割の A-24 区南西隅を起点（構内座標 x=0, y=0）とする構内座標値で表示している。なお、平面直角座標系第III系における座標値 (X, Y) と構内座標値 (x, y) とは下記の計算式で変換される。

$$x = X + 206,000$$

$$y = Y + 64,750$$

- 各遺構は下記の記号で表記することがある。

土坑……SK, 溝……SD, 柱穴・ピット……Pit, 落ち込み・不明遺構……SX

- 調査区位置図で使用した方位は、白石構内が磁北で他の構内は真北を示す。また、方位の標記がない図は上が真北を示す。

- 標高数値は海拔標高を示す。

- 本文中の遺物番号は、挿図・図版・出土遺物観察表の番号と一致させた。

- 土層および土器の色調記号は、農林省農林水産技術会議事務局監修『新版標準土色帖』(1976) に準拠した。

- 土器・陶磁器の実測図は、下記のように器種分類した。

断面黒塗り……須恵器、陶磁器

断面白抜き……繩文土器、弥生土器、土師器、土師質土器、瓦質土器

本 文 目 次

第1章 平成11年度山口大学構内遺跡調査の概要	(田畠) ...	1
第2章 宇部市土地区画整理事業（柳ヶ瀬丸河内線）に伴う発掘調査		
1 調査の経過	(田畠) ...	5
2 層序・遺構		5
3 遺物		15
4 小結		18
第3章 教育学部附属光小・中学校上水道（給水管）改修工事に伴う 試掘・立会調査	(田畠) ...	21
第1節 試掘調査	(田畠) ...	21
1 調査の経過		21
2 層序・遺構		22
3 遺物		29
4 小結		39
第2節 立会調査		44
第4章 平成11年度山口大学構内の立会調査	(田畠) ...	47
第1節 吉田構内の立会調査		
1 第2学生食堂増築その他に伴う屋外電力線路施設整備工事に伴う立会 調査		47
2 九田川河川局部改良工事に伴う立会調査		51
3 第2学生食堂北西擁壁新設工事に伴う立会調査		52
4 サッカー場南側防球ネット新設工事に伴う立会調査		52
5 第1体育館・共通教育本館スロープ新設工事に伴う立会調査		53
6 基幹環境整備工事（外灯新設）に伴う立会調査		54

付 篇

山口市荻崎遺跡出土土器について	(田畠)	55
山口大学構内遺跡調査要項		
山口大学埋蔵文化財資料館規則		63
山口大学埋蔵文化財資料館運営委員会規則		64
山口大学構内の主な調査		66
Summary		81

図 版 目 次

＜宇都市土地区画整理事業（柳ヶ瀬丸河内線）に伴う発掘調査＞

- PL. 1 小串構内全景（南から）

PL. 2 (1) Gトレンチ調査前全景（南東から）
 (2) Gトレンチ全景（南西から）

PL. 3 (1) Gトレンチ全景（俯瞰）
 (2) Gトレンチ北東壁土層断面①（南から）

PL. 4 (1) Gトレンチ北東壁土層断面②（西から）
 (2) Gトレンチ南東壁土層断面・土坑3（南から）

PL. 5 (1) Gトレンチ用水路（南西から）
 (2) Gトレンチ用水路H—I断面（西から）

PL. 6 (1) Gトレンチ用水路J—K断面（東から）
 (2) Gトレンチ土坑1・2検出状況（南西から）

PL. 7 (1) Gトレンチ土坑1土層断面（北西から）
 (2) Gトレンチ土坑1完掘状況（南東から）
 (3) Gトレンチ土坑2（南から）
 (4) Gトレンチ土坑3（南東から）

PL. 8 (1) Hトレンチ全景（北西から）
 (2) Hトレンチ土層断面（西から）

PL. 9 出土遺物①（土器）

PL. 10 出土遺物②（土器）

PL. 11 出土遺物③（土器・石器・金属器）

PL. 12 出土遺物④（錢貨）

<教育学部附属光小・中学校上水道（給水管）改修工事に伴う試掘・立会調査>

PL. 13 光構内全景（南西から）

PL. 14 (1) A トレンチ全景（南西から）

(2) A トレンチ南東壁土層断面（北から）

PL. 15 (1) B トレンチ全景（北西から）

(2) B トレンチ北東壁土層断面（南西から）

PL. 16 (1) C トレンチ第1 遺構面遺構検出・土器出土状況（拡張前 南東から）

(2) C トレンチ第1 遺構面遺構検出・土師器出土状況（拡張前 東から）

PL. 17 (1) C トレンチ第1 遺構面遺構検出・土器出土状況（拡張後 南東から）

(2) C トレンチ第1 遺構面完掘状況（南東から）

PL. 18 (1) C トレンチ第1 遺構面SK1半截状況（南東から）

(2) C トレンチ第1 遺構面Pit1～4・SD1（南東から）

(3) C トレンチ第1 遺構面土師器出土状況（北東から）

(4) C トレンチ第1 遺構面磁器出土状況（南西から）

PL. 19 (1) C トレンチ第2 遺構面遺構検出状況（南東から）

(2) C トレンチ第2 遺構面遺構半截状況（南東から）

(3) C トレンチ第2 遺構面遺構完掘状況（南東から）

(4) C トレンチ第2 遺構面Pit6・南西壁土層断面（北東から）

PL. 20 (1) C トレンチ全景（南東から）

(2) C トレンチ北東壁土層断面（南西から）

PL. 21 (1) C トレンチ北西壁土層断面（南東から）

(2) C トレンチ南東壁土層断面（北西から）

PL. 22 (1) D トレンチ北東壁土層断面（南西から）

(2) E トレンチ南東壁土層断面（北西から）

PL. 23 (1) F トレンチ北東壁土層断面（南西から）

(2) G トレンチ全景（南西から）

PL. 24 (1) G トレンチ北西壁土層断面（南東から）

- (2) G トレンチ北西壁・南西壁土層断面（東から）
- PL. 25 (1) G トレンチ北東壁土層断面（南西から）
(2) G トレンチSK1検出状況（北西から）
(3) G トレンチSK1土層断面（北西から）
(4) G トレンチSK1完掘状況（北西から）
- PL. 26 出土遺物①（土器）
- PL. 27 出土遺物②（土器）
- PL. 28 出土遺物③（土器）
- PL. 29 出土遺物④（土器）
- PL. 30 出土遺物⑤（土器）
- PL. 31 出土遺物⑥（土器）
- PL. 32 出土遺物⑦（土器・鉄製品）
- PL. 33 (1) 立会調査区（北西から）
(2) H 地点埋甕検出状況①（南西から）
(3) H 地点埋甕検出状況②（南西から）
(4) I-1 地点（南西から）
- PL. 34 出土遺物（土器）

<平成11年度山口大学構内の立会調査>

- PL. 35 吉田構内全景（南から）
- PL. 36 (1) C 地点全景（北西から）
(2) C 地点第5層検出状況（南から）
- PL. 37 (1) C 地点遺構検出状況（南から）
(2) C 地点遺構完掘状況（南から）
(3) C 地点北壁土層断面（南から）
(4) D 地点（西から）
- PL. 38 出土遺物（土器）

<付篇 山口市荻崎遺跡出土土器について>

- PL. 39 (1) 荻崎遺跡とその周辺（西から 1947年9月米軍撮影 国土地理院）
(2) 荻崎遺跡遠景（南西から 2021年9月）
- PL. 40 出土遺物（土器）

挿 図 目 次

<平成11年度山口大学構内遺跡調査の概要>

Fig. 1	山口大学吉田・白石構内位置図	2
Fig. 2	山口大学小串・常盤構内位置図	3
Fig. 3	山口大学光構内位置図	4

<宇部市土地区画整理事業（柳ヶ瀬丸河内線）に伴う発掘調査>

Fig. 4	調査区位置図	5
Fig. 5	G トレンチ平面図	7・8
Fig. 6	G トレンチ土層断面図①	9
Fig. 7	G トレンチ土層断面図②	10
Fig. 8	用水路土層断面図	11
Fig. 9	土坑1 平面図・断面図	11
Fig. 10	土坑2・3 平面図・断面図	12
Fig. 11	H トレンチ平面図	13
Fig. 12	H トレンチ土層断面図	14
Fig. 13	出土遺物実測図①（土器）	16
Fig. 14	出土遺物実測図②（土器）	17
Fig. 15	出土遺物実測図③（石器・金属器・錢貨）	17

<教育学部附属光小・中学校上水道（給水管）改修工事に伴う試掘・立会調査>

Fig. 16	調査区位置図	21
Fig. 17	調査区詳細図①	22
Fig. 18	調査区詳細図②	23
Fig. 19	A・B トレンチ土層断面図	23
Fig. 20	C トレンチ第1 遺構面平面図・土層断面図	24
Fig. 21	C トレンチ SK1 断面図	24
Fig. 22	C トレンチ第2 遺構面平面図	26
Fig. 23	D・E・F トレンチ土層断面図	27
Fig. 24	G トレンチ平面図・土層断面図	28
Fig. 25	G トレンチ北区 SK1 断面図	28

Fig. 26	出土遺物実測図①（土器）	31
Fig. 27	出土遺物実測図②（土器）	32
Fig. 28	出土遺物実測図③（土器）	33
Fig. 29	出土遺物実測図④（土器）	34
Fig. 30	出土遺物拓影	35
Fig. 31	出土遺物実測図⑤（土器）	36
Fig. 32	出土遺物実測図⑥（土器）	38
Fig. 33	出土遺物実測図⑦（鉄製品）	39
Fig. 34	出土遺物実測図（土器）	46
<平成 11 年度山口大学構内の立会調査>		
Fig. 35	調査区位置図	47
Fig. 36	C 地点平面図・土層断面図	48
Fig. 37	D 地点土層断面図	49
Fig. 38	出土遺物実測図（土器）	49
Fig. 39	調査区位置図	51
Fig. 40	調査区位置図	52
Fig. 41	調査区位置図	52
Fig. 42	調査区位置図	53
Fig. 43	調査区位置図	54
Fig. 44	調査区位置図	54
<付篇 山口市荻峰遺跡出土土器について>		
Fig. 45	荻峰遺跡位置図	56
Fig. 46	出土遺物実測図（土器）	59
<山口大学構内の調査区位置図>		
Fig. 47	吉田構内地区割及び主な調査区位置図（昭和 41 年度～平成 14 年度）	83・84
Fig. 48	小串構内調査区位置図（昭和 58 年度～平成 14 年度）	85
Fig. 49	常盤構内調査区位置図（昭和 58 年度～平成 14 年度）	86
Fig. 50	白石構内（幼稚園・小学校）調査区位置図（昭和 58 年度～平成 14 年度）	87

Fig. 51 白石構内（中学校）調査区位置図（昭和 60 年度～平成 14 年度）	88
Fig. 52 光構内調査区位置図（昭和 58 年度～平成 12 年度）	89

表 目 次

<平成 11 年度山口大学構内遺跡調査の概要>

Tab. 1 平成 11 年度山口大学構内遺跡調査一覧表	1
------------------------------	---

<宇部市土地区画整理事業（柳ヶ瀬丸河内線）に伴う発掘調査>

Tab. 2 出土遺物観察表（土器）	19
--------------------	----

Tab. 3 出土遺物観察表（石器）	19
--------------------	----

Tab. 4 出土遺物観察表（金属器・錢貨）	20
------------------------	----

<教育学部附属光小・中学校上水道（給水管）改修工事に伴う試掘・立会調査>

Tab. 5 出土遺物観察表（土器）	42
--------------------	----

Tab. 6 出土遺物観察表（鉄製品）	44
---------------------	----

Tab. 7 出土遺物観察表（土器）	46
--------------------	----

<平成 11 年度山口大学構内の立会調査>

Tab. 8 出土遺物観察表（土器）	50
--------------------	----

<付篇 山口市荻崎遺跡出土土器について>

Tab. 9 出土遺物観察表（土器）	62
--------------------	----

Tab. 10 山口大学埋蔵文化財資料館運営委員会委員	65
-----------------------------	----

Tab. 11 山口大学構内の主な調査一覧表	66
------------------------	----

第1章 平成11年度山口大学構内遺跡調査の概要

山口大学の関連諸施設は、山口市（吉田・白石構内）、宇部市（小串・常盤構内）、光市（光構内）の県内各市に分散している。各構内には、縄文時代後・晩期から江戸時代にかけての複合集落遺跡として著名な吉田構内をはじめとして、旧石器時代の遺物が出土する小串構内など、周知の遺跡が埋蔵している。山口大学埋蔵文化財資料館は学内共同利用施設として、これら各構内において現状変更を伴う諸工事に対し、埋蔵文化財保護の立場から調査・研究を行っている。埋蔵文化財の調査を必要とする場合は、工事地域周辺での既往の調査結果や工事の内容、埋蔵文化財に対する影響の度合いなどを勘案し、埋蔵文化財資料館運営委員会の議を経て、事前・試掘・立会の三種の方法によって調査を実施している。

平成11年度は事前調査1件、試掘調査1件、立会調査7件の計9件の調査を実施した。事前調査は平成10年度に引き続き宇部市域土地区画整理事業（柳ヶ瀬丸河内線）に伴う発掘調査を、宇部市域遺跡発掘調査団を調査主体として、宇部市教育委員会と山口大学埋蔵文化財資料館が合同で実施した。教育学部附属光小・中学校上水道（給水管）改修工事に伴う立会調査については、同試掘調査と合わせて報告する。

Tab.1 平成11年度山口大学構内遺跡調査一覧表

調査区分	調査名	構内地図	構内地図区割	面積(m ²)	調査期間	調査担当	地図番号
事前	宇部市土地区画整理事業 (柳ヶ瀬丸河内線)	小串		818.9	5月26日～ 9月15日	村田・金子	Fig. 48 No. 23
試掘	教育学部附属光小・中学校 上水道(給水管)改修工事	光		48.7	11月15日～ 12月10日	田嶋	Fig. 52 No. 19
立会	第2学生食堂増築その他に伴う屋外電力 線路設施整備工事	吉田	O-15・36, P-14	6.6	5月10～14日	田嶋	Fig. 47 No. 218
	九田川河川底部改良工事	吉田	F・G-13, G・H-12	222	6月1日～8月9日 12月14日	村田・田嶋	Fig. 47 No. 219
	第2学生食堂北西擴張新設工事	吉田	N・O-14	43	11月25日	田嶋	Fig. 47 No. 220
	サッカー場南側防球ネット新設工事	吉田	G・H-22	3.2	3月10日	田嶋	Fig. 47 No. 221
	第1体育館・共通教育本館スロープ 新設工事	吉田	H-15, K-15・16	201.1	3月22・23・ 30日	村田	Fig. 47 No. 222
	基幹震災整備工事(外灯新設)	吉田	I-12, K・L-18, L-15, M・N-17	4	3月21・27・ 30日	村田・田嶋	Fig. 47 No. 223
	教育学部附属光小・中学校 上水道(給水管)改修工事	光		179.3	2月7・14・21・ 3月3日	田嶋	Fig. 52 No. 19

吉田構内の調査

(本部、人文・教育・経済・理・農の各学部：山口市吉田1677-1。教育学部附属養護学校：同吉田3003所在)

立会調査6件を実施した。第2学生食堂増築その他に伴う屋外電力線路施設整備工事に伴う立会調査では、C地点で遺物包含層と遺構面2面を確認し、弥生土器、古代の土師器、須恵器を主体とする遺物が出土した。また、D地点では河川埋土を検出し、古代の土師器須恵器が出土した。C・D地点で出土した古代の須恵器の多くは第2学生食堂敷地で出土



Fig 1 山口大学吉田・白石構内位置図

した遺物と様相が近似している。C地点の状況は第2学生食堂敷地で確認された遺構・遺物がさらに東側に展開していることを示し、D地点の遺物は北側に位置する第2学生食堂・農学部実験畑から廃棄された可能性が高い。

その他の立会調査では顕著な遺構・遺物は検出できなかった。

白石構内の調査

(教育学部附属山口幼稚園：山口市白石三丁目1-2、同小学校：白石三丁目1-1、同山口中学校：白石一丁目9-1所在)

当該地で掘削を伴う開発等工事は計画されなかった。

小串構内の調査

(医学部、同附属病院、医療技術短期大学部：宇部市南小串1丁目1-1)

事前調査1件を宇部市教育委員会と埋蔵文化財資料館が合同で実施した。

宇部市土地地区画整理事業（柳ヶ瀬丸河内線）に伴う事前調査では、G・Hのトレンチを設定して調査を行った。今回の調査では、水田化以前の二次堆積層からはほとんど遺物が出土せず、全体を通して古代以前の出土遺物は僅少であった。遺構は造成前の水田耕作に伴うもの



Fig.2 山口大学小串・常盤構内位置図

である。Gトレーナーは医学部構内遺跡では過去最大の調査面積であり、用水路1条・水田暗渠2条・土坑3基を検出した。用水路は木や竹で補強されており、堆積と改修が繰り返されていたが、掘削時期は不明である。また、用水路の両側には通路があり、北側の一部では水田の区画を確認した。用水路の境に水田面の高さが異なることから、用水路は近世の開作時に遡る地割を反映している可能性がある。水田床土（第3・4層）からは固化していないものを含めて、18世紀後半～19世紀の陶磁器類が多数出土した。これらは真綿川の旧河口が耕地化された時期を裏付けるものであろう。平成10年度から開始した宇部市土地区画整理事業に伴う発掘調査は終了したが、今回の調査では地域開発史に関わる成果を得ることができた。

常盤構内の調査（工学部：宇部市常盤台2丁目16-1、尾山宿倉：同上野中町2658-3所在）

当該地で掘削を伴う開発等工事は計画されなかった。

光構内の調査（教育学部附属光小学校、同光中学校：光市室積8丁目4番1号所在）

試掘調査1件・立会調査1件を実施した。教育学部附属光小・中学校上水道（給水管）改修工事に伴う試掘調査ではA～Gトレーナーを設定して行った。層序・遺構について時期別に述べる。調査の結果、Bトレーナーでは第5層から土師器片が少量出土した。詳細な時期は不明であるが、同層は古墳時代の遺物包含層と考えられる。Cトレーナーでは第6層で5世紀後半～6世紀前半の土師器、須恵器、韓式系土器が出土した。また、第7層上面でピット6基を検出した。ピットからの出土遺物は僅少であるが、第6層出土遺物から5世



Fig.3 山口大学光構内位置図

物包含層で、第6層上面では溝1条、土坑1基、ピット5基を検出した。このうちSKIからは18世紀前半～後半の磁器が出土した。これらの遺物包含層・遺構は安永年間に設置された室積会所に関連する可能性が高い。また、造成土の直下で検出されたA～Dトレンチ第4層・Gトレンチ第3層は近世～近代の遺物包含層である。Aトレンチ第4層は近代の遺構面形成層で、上面で石積を検出した。出土遺物で特に注目されるのは韓式系土器である。これらはいずれも軟質土器で甕・鉢・甕形土器がある。このうち、外面に鳥足文タキを施す甕形土器は全形がうかがえるきわめて貴重な事例である。

立会調査では、光構内で初となる近世～近代の埋甕をH地点で検出した。J-1・2地点では古墳時代と考えられるピットを3基検出した。このほか、I・K地点で古墳時代の遺物包含層を検出した。

以上の平成11年度調査の報告にあたり、既刊の年報に記載した各構内調査区位置図、平面図、調査面積、出土遺物の時期等を訂正した。

紀後半～6世紀前半と考えられる。このほか、Dトレンチ第6～16層、Eトレンチ第11層も古墳時代の遺物包含層である可能性が高い。Gトレンチでは古墳時代と考えられる不明遺構1基・土坑1基を検出した。また、第11層から縄文土器片が出土した。

Gトレンチ第4層からは縄文土器片、古墳時代・中世の土師器片が出土し、直下の第5層上面で検出されたPit1は中世の遺構と考えられる。

Cトレンチ第5層は18～19世紀の遺

第2章 宇部市土地区画整理事業（柳ヶ瀬丸河内線）に伴う 発掘調査

1 調査の経過

宇部市土地区画整理事業に伴い医学部構内に道路建設が計画されたことを受けて、埋蔵文化財調査を行うため、平成10年度に宇部市教育長を団長とする宇部市域遺跡発掘調査団が結成された。同調査団には資料館員の村田・田畠・金子が調査員として加わり、宇部市教育委員会と山口大学埋蔵文化財資料館が合同で発掘調査を実施した。¹⁾ 今回の調査は平成10年度に引き続き柳ヶ瀬丸河内線道路建設に伴うもので、同調査団が発掘調査を実施した。調査区名は平成10年度からの連番とし、建設予定道路の北辺にあたるテニスコートにGトレーニング、学友会館南側の駐車場にHトレーニングを設定した。調査期間は平成11年5月26日～9月13日で、調査面積はGトレーニング818m²、Hトレーニング71.9m²、合計818.9m²である。調査区の座標値は世界測地系（平面直角座標系第III系）で示した。

2 層序・遺構

(1) Gトレーニング (Fig. 5～10, PL. 2～7)

層序は、第1層：表土・造成土（層厚72～112cm）、第2層：水田耕土（層厚10～21cm）、第3層：水田床土I（暗黄灰褐色土・暗茶灰黃褐色土・暗灰黄色粘土・暗灰黄色粘土・暗茶灰黃褐色土等 層厚約2～15cm）、第4層：水田床土II（暗灰褐色土・暗灰黃褐色土等 層厚3～17cm）、第5～7層（層厚70cm以上）：粘土・砂による堆積層である。

造成前には水田として利用されていた。用水路を境として、北西側の水田面（第2層上面）が南東側の水田より約20cm高い。水田床土はI・IIに大別できる。第5～7層は水田化以前の堆積層である。第5層はFig. 5のA地点付近で現地表下1.05m、標高1.48m、同F地点付近では現地表下1.23m、標高1.33mで検出した。平成10年度の調

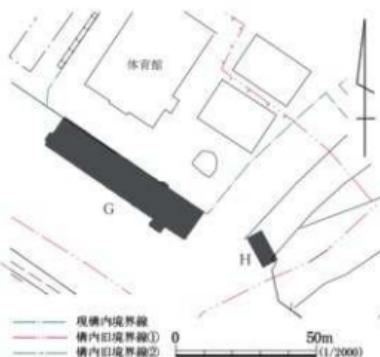


Fig. 4 調査区位置図

査では水田化以前の二次堆積層から弥生時代終末～古墳時代前期の土器を中心とする土器片が多数出土したが、今回は認められなかった。

遺構は主に造成前の水田耕作に伴うものである。以下、混乱を避けるため、遺構名は調査時のものを使用する。

用水路 (Fig. 5, PL. 5・6 (1))

造成直前まで使用されており、第1層の直下、第2・3層で検出した。土層観察箇所を除き中央部付近のみ底面まで掘削した。流路方向は東一西方向で、検出面での幅は約1.95～2.4m、延長約13.6m、検出面からの深さは約0.7～0.9mである。両岸には、直径約15～20cmの木杭が約0.7m間隔で打ち込まれていた。また、両岸下半部には杭の間に直径2cm程度の竹を横方向に設置し、同上半部では一部で板を設置して土留めを行っていた。底面には直径約9cm・長さ約48cmの木材を流路と直交して設置していた。土層断面(H-I断面)からは堆積と改修が繰り返されていることが分かるが、掘削時期は不明である。裏込土がみられる北側の約0.6～1.0m、南側の約1.5mは通路になっており、北側の一部では水田の区画を確認した。また、この水路の境に水田面の高さが異なることから、近世の開作時に遡る地割を反映している可能性がある。埋土から近世～現代の陶磁器、鉄製品等が出土した。

暗渠 (Fig. 5・8, PL. 3 (1)・PL. 5(2))

暗渠1は第3層上面で検出した。検出面での幅は約40cmで、流路方向は南東一北西方向である。直径3～8cm程度の竹を数本束ねて直径30cm程度にして埋設していた。また、上記の竹の東に対してほぼ1.5mの間隔で直径2cm程度の竹を垂直に設置していた。暗渠2は用水路南側の通路との境界部で部分的に確認した。幅約46cm、深さ約36cmで、直径約10cmの竹を埋設していた。

土坑1 (Fig. 9, PL. 6 (2)・PL. 7 (1) (2))

第5層上面で検出した。平面形はやや歪みがある長方形で、長辺約4.3m、短辺約2.3m、深さ約0.32mである。埋土は黄灰色の砂で、上面には第4層がブロック状に混じり、土坑2・3と共に通する。土師器もしくは土師質土器片が出土した。

土坑2 (Fig. 10, PL. 7 (3))

第5層上面で検出した。平面形は長方形で、長辺約4.2m、短辺約1.9m、深さ約0.7mである。埋土は土坑1・3と共に通する。土師器もしくは土師質土器片、陶器片、磁器片が出土した。

土坑3 (Fig. 10, PL. 7 (4))

土層断面図では第4b層を検出面とする。平面形は長方形で、長辺約3.7m、短辺約1.2m、

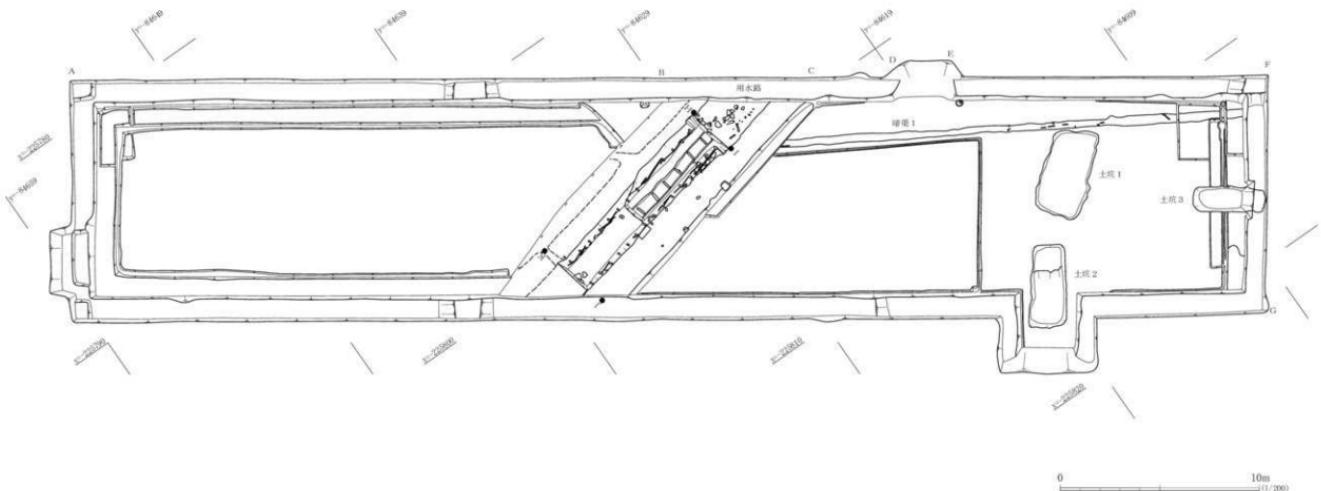


Fig.5 Gトレンチ平面図

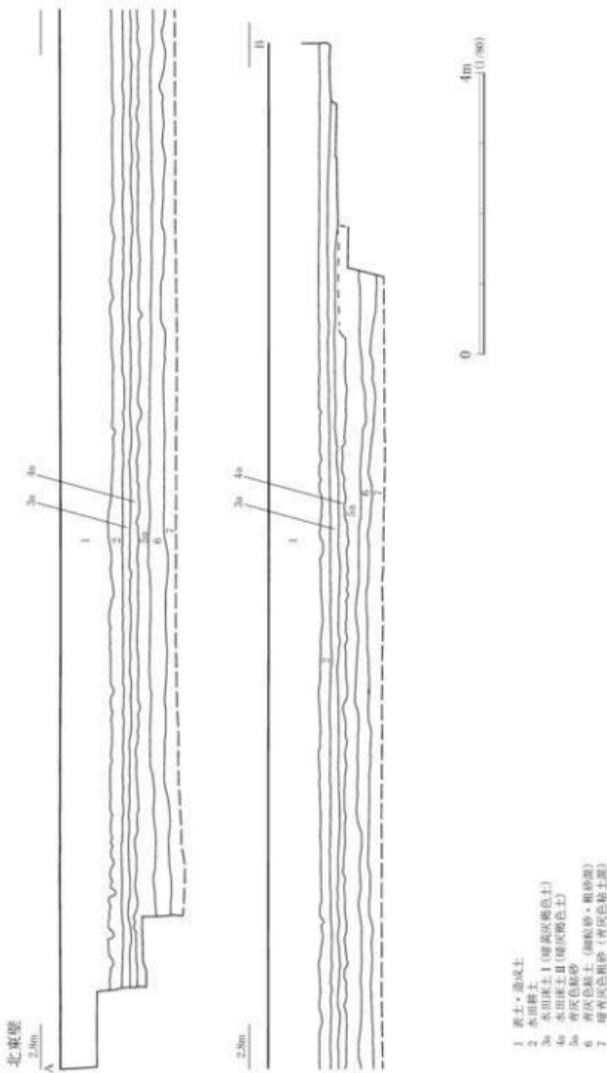


Fig.6 Gトレーンチ土層断面図①

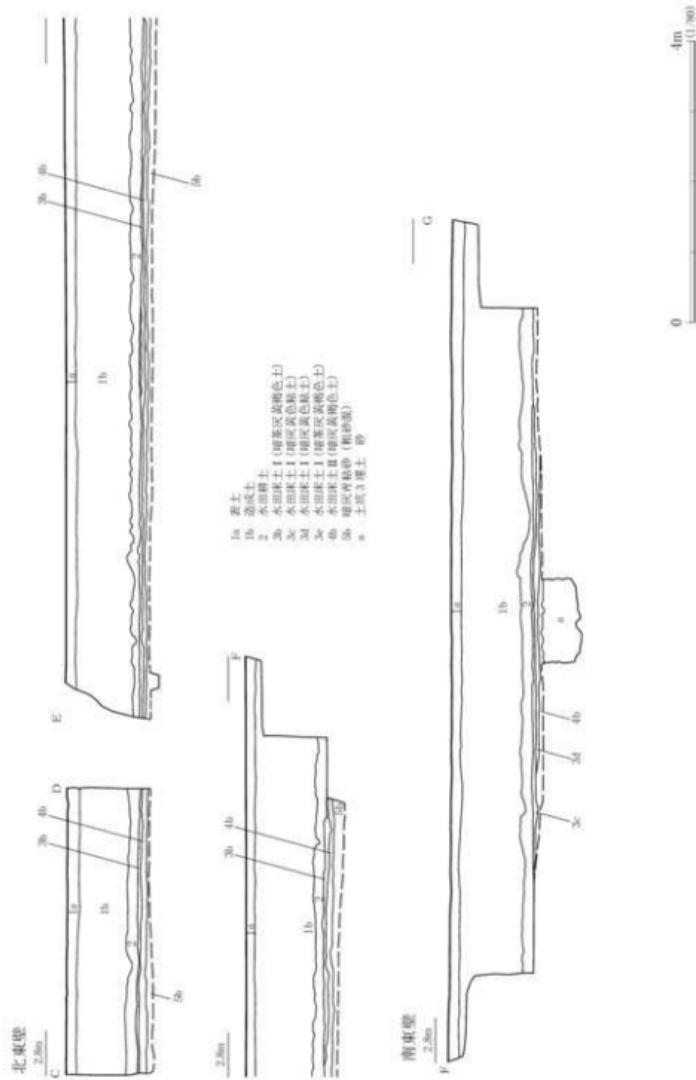


Fig.7 Gトレーンチ土層断面図②

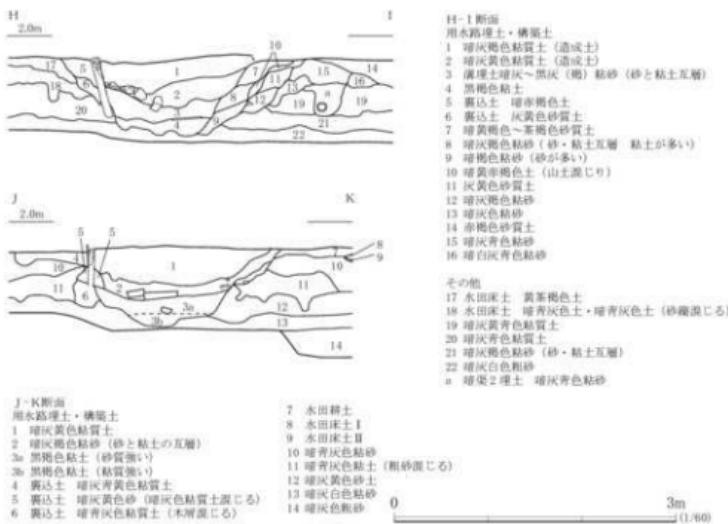


Fig.8 用水路土層断面図

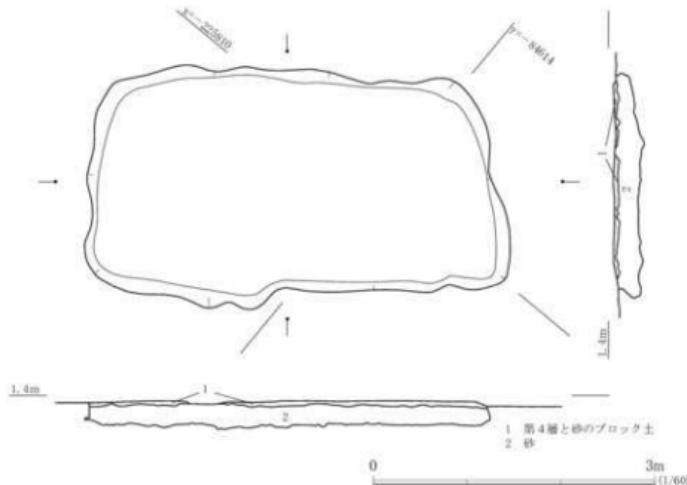


Fig.9 土坑1平面図・断面図

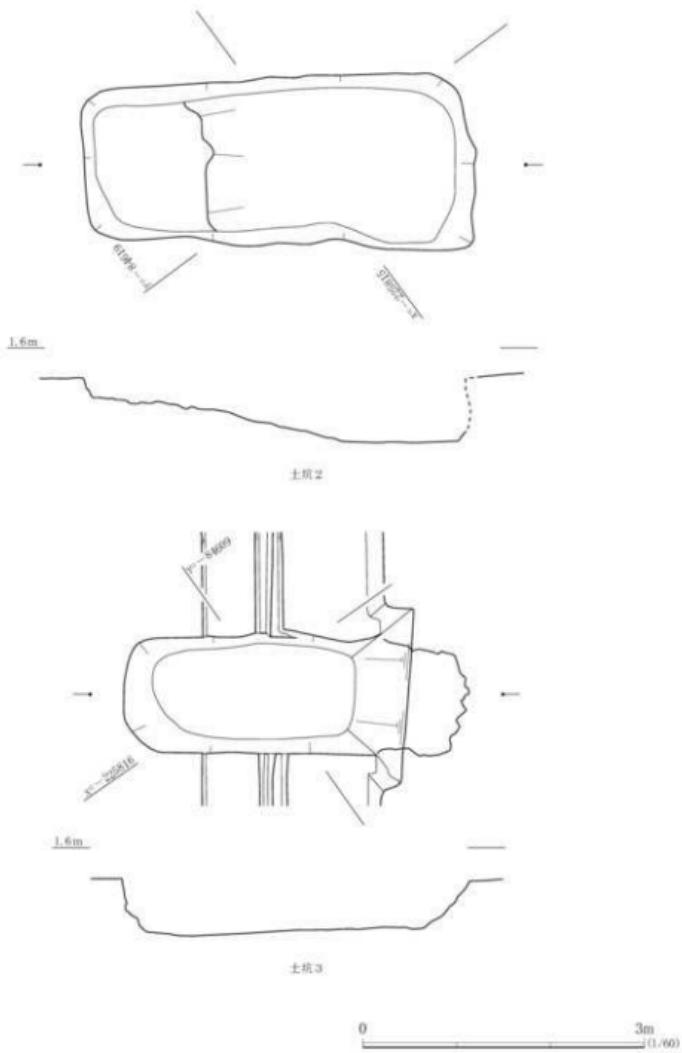


Fig.10 土坑2・3平面図・断面図

深さ約0.6mである。埋土は土坑1・2と共に通する。土師器もしくは土師質土器片が出土した。なお、完掘時の平面図は作成していない。

土坑1～3は断面形は異なるが、平面規模が近似し、埋土が共通する。また、壁面には鋸の刃先の痕跡が明瞭に残っており、掘削後すぐに埋め戻されたと考えられる。以上から、土坑1～3は粘土採掘坑であり、ほぼ同時期に掘削された可能性が高い。ただし、採掘された粘土は海成粘土であることからその用途については検討の余地があろう。土坑1～3とも出土遺物は小片かつ僅少なため時期比定は困難であるが、第4層もしくは第5層を検出面としていることから、開作時を上限とする近世に遡る可能性が高い。

(2) Hトレンチ (Fig.11, PL. 8)

造成土が厚いため、調査区南端では3段の段掘りを行った。層序は、第1層：表土・造成土（層厚116～135cm）、第2層：水田耕土（層厚8～20cm）、第3～10層：水田床土（層厚25～58cm）、第11～14層（層厚33cm以上）：粘土・砂による堆積層である。なお、床土以下については原図の一部に層序の記載がないため、調査時の写真を参考に記載した。

Gトレントの状況を参考にすると、水田床土Ⅰに第3～5層、水田床土Ⅱに第6～10層が相当すると考えられる。水田化以前の堆積層である第11層は現地表下1.8m、標高1.0mで検出した。Gトレントと比較すると、Fig.5のF地点第5層よりも約0.33m低い。遺構は検出していない。

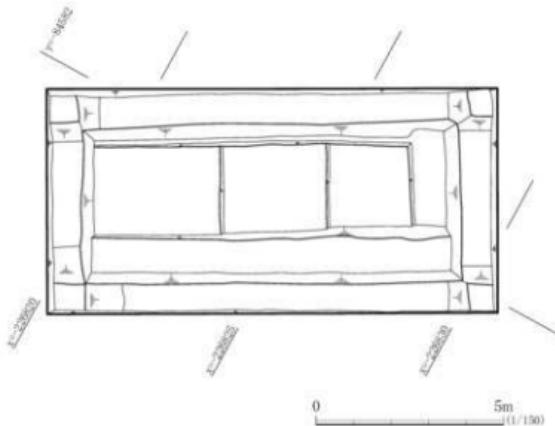


Fig.11 Hトレント平面図

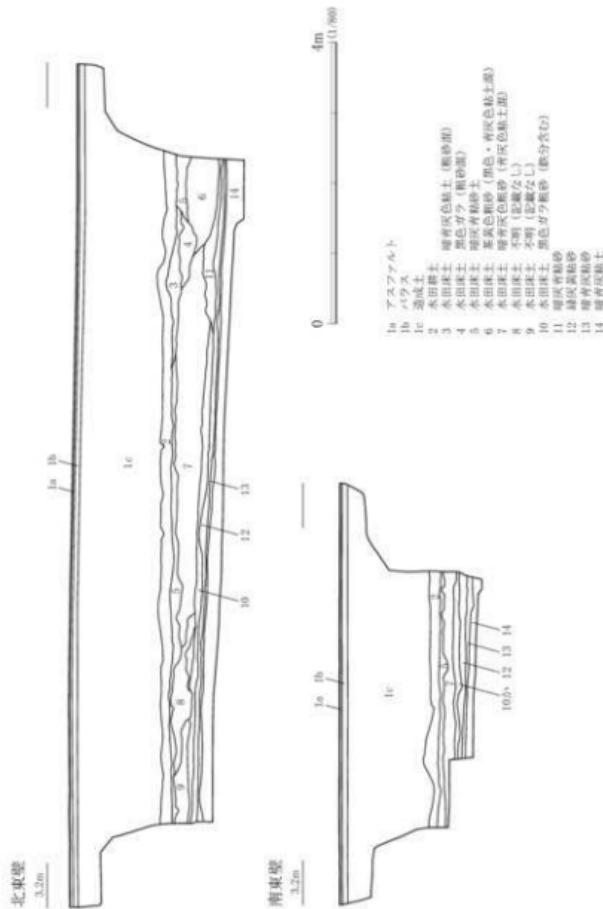


Fig.12 H-Trench 土壌断面図

3 遺物

以下で代表的な遺物を報告するが、近世以降の遺物については一部にとどめた。

(1) 土器 (Fig. 13・14, PL. 9~11)

1~5はGトレンチ用水路・同構築土出土土器。1は佐野焼（土師質土器）甕の口縁部。2は土瓶の注口部で外面に鉄軸を施釉する。3は肥前の広東碗底部。18世紀末~19世紀初頭。4は肥前系の染付小碗。外面に草花文を描く。18世紀後半~19世紀初頭。5は土師質土器のサナ。

6~23はGトレンチ第4層出土土器。6・7は瓦質土器足鍋の口縁~胴部。いずれも外面にはススが付着する。8は瓦質土器足鍋の脚部。9は瓦質土器擂鉢。内面の御目は6条である。10は土師質土器鉢の口縁~胴部。外面にスタンプ文を施す。11・12は土師質土器熔熔。同一個体の可能性がある口縁~胴部で、口縁部が内傾する。13・14は瓦質土器熔熔。13は口縁~底部。口縁部内面を肥厚させ、外面にススが付着する。14は口縁~胴部で口縁部が直立する。15は瓦質土器の底部。器種は不明。内外面にナデを施し、下地のハケが残る。16は土師質土器の底部。器種は不明。底面に糸切り痕がある。17は土師質土器・焼塩壺の蓋。内面に布目痕がある。18は産地不明の陶器碗。19世紀。形態は端反碗を意識し、木灰もしくは土灰軸と藁灰軸を施釉する。見込には胎土目跡が残る。19は萩焼鉢の口縁~胴部。19世紀。20は産地不明の磁器碗底部。19世紀。21は肥前系染付丸碗の口縁~胴部。外面に草花文を描く。18世紀後半~末。22は肥前系の紅皿。18世紀。23は肥前系の染付皿。型打ち成形で、外面に松葉文、内面に樓閣山水文を描く。19世紀。

24はGトレンチ第3・4層出土。瓦質土器火鉢の把手か。獸面を型成形し、横方向に1箇所穿孔する。

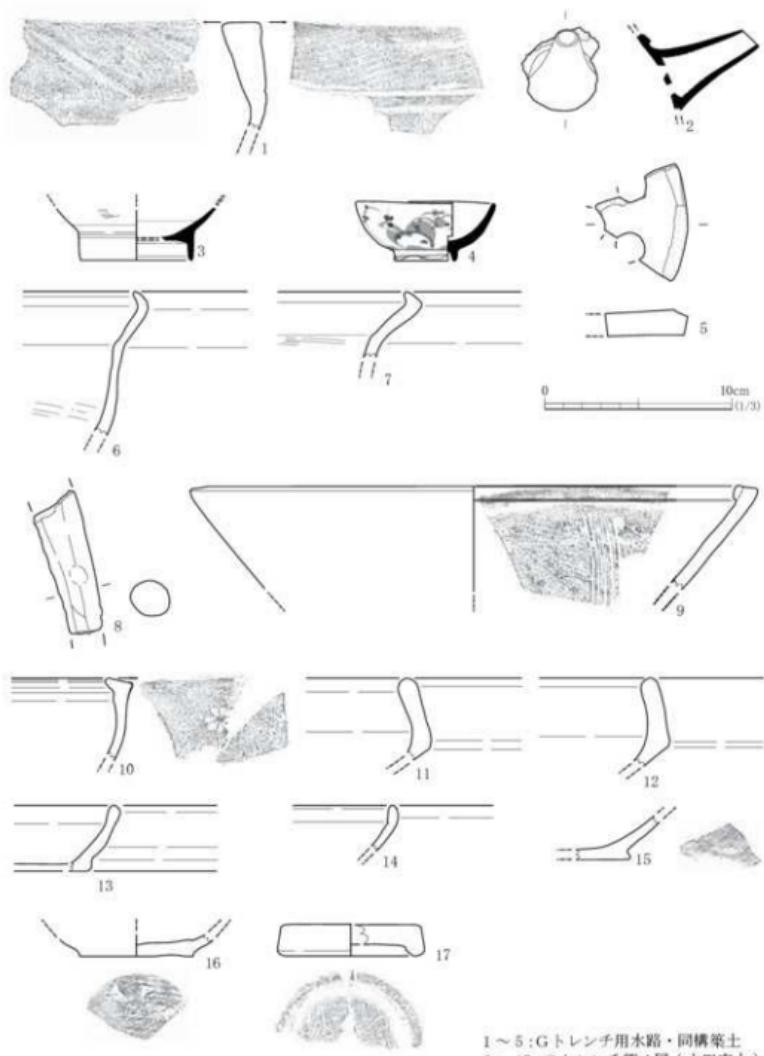
25・26はHトレンチ出土土器。25は第3~10層（水田床土）出土。産地不明の磁器碗胴部。亀甲状を呈し、灰軸を施釉する。18世紀後半以降。26は床面清掃時出土。肥前系染付皿の口縁部。外面に唐草文を描く。18世紀後半。

(2) 石器・石製品 (Fig.15, PL.11)

27・28はGトレンチ第3・4層出土。27は楔形石器。石質は黒色メノウ。28は赤色頁岩製の赤間硯片。29はGトレンチ第2層出土の剥片。石質はメノウ。以上の詳細はTab. 5を参照されたい。他にGトレンチ第3・4層からは赤色砂質頁岩の剥片が出土している(PL.11)。

(3) 銅製品・銭貨 (Fig.15, PL.11~12)

30・31は銅製の煙管。30はGトレンチ第4層出土の雁首。31はGトレンチ第3・4層出土



1～5: Gトレンチ用水路・同構築土
6～17: Gトレンチ第4層(水田床土)

Fig.13 出土遺物実測図①(土器)

遺物

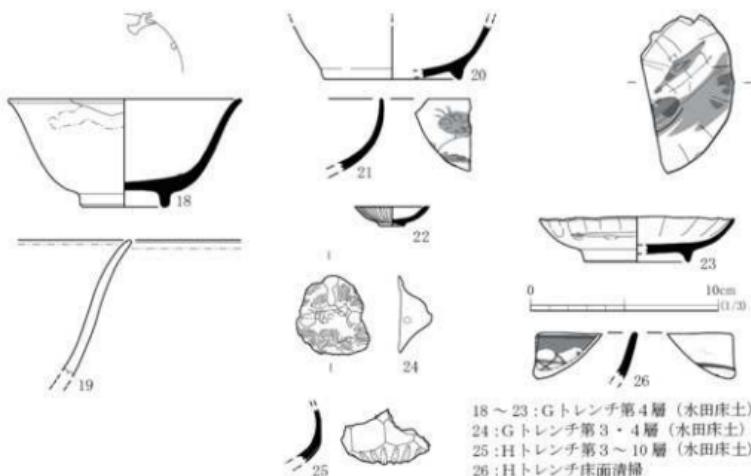


Fig.14 出土遺物実測図②(土器)

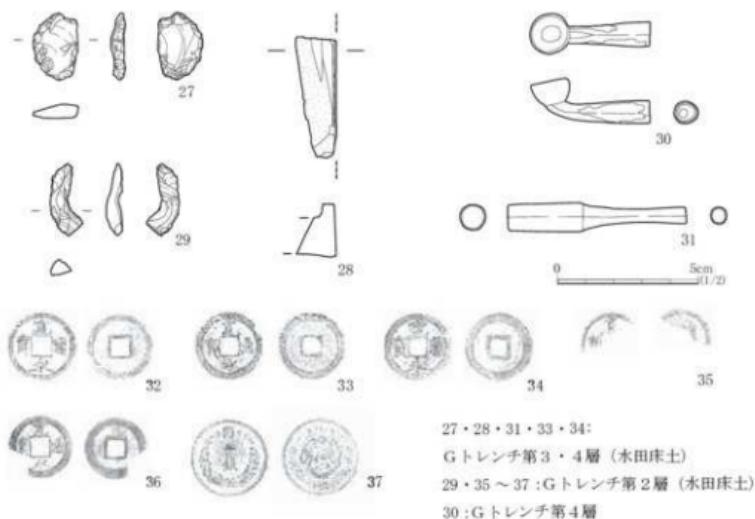


Fig.15 出土遺物実測図③(石器・金属器・銭貨)

の吸口。32～36はGトレンチ第2～4層出土の寛永通宝。欠損が多い35を除くと、34が古寛永で他は新寛永とみられる。37はGトレンチ第2層出土の竜一錢銅貨。以上の詳細はTab. 5を参照されたい。

4 小結

今回調査を行ったG・Hトレンチでは、水田化以前の堆積層からはほとんど遺物が出土しておらず、全体を通して古代以前の出土遺物は僅少であった。遺構は造成前の水田耕作に伴うものである。以上の状況はGトレンチの北側に位置する医学部体育館敷地においても確認されている。²⁾ Gトレンチは医学部構内遺跡では過去最大の調査面積であり、用水路1条・水田暗渠2条・土坑3基を検出した。用水路は木や竹で補強されており、堆積と改修が繰り返されていたが、掘削時期は不明である。また、用水路の両側には通路があり、北側の一部では水田の区画を確認した。用水路の境に水田面の高さが異なることから、用水路は近世の開作時に遡る地割を反映している可能性がある。

水田底土（第3・4層）からは図化していないものを含めて、18世紀後半～19世紀の陶磁器類が多数出土している。真締川の旧河口の耕地化は寛政11（1799）年4月に許可されたが³⁾、その直後から造成が開始されたことを裏付けるものであろう。

平成10年度から開始した宇部市土地区画整理事業に伴う発掘調査は今回の調査で終了となるが、今回の調査では地域開発史に関わる成果を得ることができた。

〔注〕

- 1) 山口大学埋蔵文化財資料館「宇部市土地区画整理事業（柳ヶ瀬丸河内線）に伴う発掘調査」「宇部市土地区画整理事業（柳ヶ瀬丸河内線・医学部西側特殊道路）に伴う発掘調査」（『山口大学構内道路調査研究年報XⅣ』、2021年）
- 2) 山口大学埋蔵文化財資料館「宇部（小串構内）医学部体育館新宮に伴う試掘調査」（『山口大学構内遺跡調査研究年報III』、1985年）
- 3) 小川国治「近世村落の成立と発展」（『宇部市史』通史編上巻、1992年）

出土遺物観察表

Tab.2 出土遺物観察表(土器)

法量()は復元値

遺物 番号	出土地名・ 遺構	層位	器種	部位	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	色・調 ①表面②内部	新 土	備 考	
1	G トレンチ 用水路	埋土・ 埴生土	土師質 甕	口縁部				①灰白色 ②灰白色	0.5~7mmの砂粒を少 量含む	佐野焼	
2	G トレンチ 用水路	H-I 断面 第12層	陶器	土瓶	口部			素地: 灰褐色 釉: 灰白色			
3	G トレンチ 用水路	埋土	罐	瓶	底部	(6.40)		素地: 灰白色 釉: 透明	精良	肥前	
4	G トレンチ 用水路	埋土	罐	瓶	口縁～ 底部	7.4	3.2	3.2	釉: 明オリ一 ブ灰褐色		
5	G トレンチ 用水路	埋土	土師質 甕	手すり			1.4	①② ②灰褐色	0.5~3mmの砂粒を少 量含む		
6	G トレンチ	第4層	瓦質土器	足鍋	口縁～ 側部			①黑色 ②灰褐色	0.5~2mmの砂粒を少 量含む		
7	G トレンチ	第4層	瓦質土器	足鍋	口縁部			①黑色 ②灰褐色	0.5~1mmの砂粒を少 量含む		
8	G トレンチ	第4層	瓦質土器	足鍋	側部			①黒褐色 ②黄褐色	0.5~3mmの砂粒を少 量含む		
9	G トレンチ	第4層	瓦質土器	楕円	口縁～ 側部	(30.2)		①灰黃褐色 ②灰色	0.5~3mmの砂粒を含 む		
10	G トレンチ	第4層	土師質 甕	井	口縁～ 側部			①酒瓶褐色 ②にぶい黄褐色	0.5~2mmの砂粒を含 む		
11	G トレンチ	第4層	土師質 甕	楕円	口縁～ 側部			①褐色 ②にぶい黄褐色	0.5~3mmの砂粒を少 量含む	12と同一か	
12	G トレンチ	第4層	土師質 甕	楕円	口縁～ 側部			①にぶい黄褐色 ②にぶい褐色	0.5~3mmの砂粒を少 量含む	13と同一か	
13	G トレンチ	第4層	瓦質土器	燈籠	口縁～ 底部			①灰白色 ②浅黄色	0.5~2mmの砂粒を含 む		
14	G トレンチ	第4層	瓦質土器	燈籠	口縁～ 側部			①浅黄色 ②灰白色	0.5~2mmの砂粒を含 む		
15	G トレンチ	第4層	瓦質土器	底部				①灰白色 ②灰褐色	0.5~2mmの砂粒を少 量含む		
16	G トレンチ	第4層	土師質 甕	底部		(6.1)		①② にぶい黄褐色	0.5~1mmの砂粒を含 む		
17	G トレンチ	第4層	土師質 甕	塊状 壺	天井～ 口縁部			①② にぶい褐色	0.5~3mmの砂粒を少 量含む		
18	G トレンチ	第4層	陶器	瓶	口縁～ 底部	(12.30)	(4.30)	3.8	素地: オリーブ色 釉: 浅黄色	精良	
19	G トレンチ	第4層	陶器	鉢	口縁～ 側部			素地: オリーブ色 釉: 灰色		萩燒	
20	G トレンチ	第4層	罐	瓶	瓶～ 底部		(7.2)	素地: 灰白色 釉: 浅黄色	精良		
21	G トレンチ	第4層	罐	瓶	口縁～ 側部			素地: 灰白色 釉: 透明	精良	肥前系	
22	G トレンチ	第4層	罐	紅皿	口縁～ 底部	4.0	1.2	1.1	素地: 灰白色 釉: 灰白色	精良	肥前系
23	G トレンチ	第4層	罐	蓋	口縁～ 底部	(10.4)	(3.7)	2.45	素地: 灰白色 釉: 透明	精良	
24	G トレンチ	第3・4層	瓦質土器	火鉢	把手付			①灰白色 ②浅蓝色	精良		
25	H トレンチ	第3～10層	罐	瓶	側部			生地・釉: 灰白色 釉: 透明	精良		
26	H トレンチ	床面清掃	罐	蓋	口縁部			素地: 灰白色 釉: 透明	精良	肥前系	

Tab.3 出土遺物観察表(石器)

遺物 番号	出土地名・ 遺構	層位	器種	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	石質	備 考
27	G トレンチ	第3・4層	楔形石器	2.4	1.63	0.5	2.76	黒色メノウ	
28	G トレンチ	第3・4層	鏡	4.0	1.48	1.9	13.29	赤色頁岩	
29	G トレンチ	第2層	劍片	2.58	0.97	0.54	1.13	メノウ	

Tab.4 出土遺物観察表(金属器・錢貨)

遺物番号	出土地区・遺構	層位	器種	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	備考
30	G1-レシ-チ	第4層	銅製 縮管	4.3			4.89	火薙径1.4cm 小口径0.8cm
31	G1-レシ-チ	第3・4層	銅製 縮管	6.4			7.57	先端部径1.0cm、喉口部径0.6cm
32	G1-レシ-チ	第4層	銅錢 「寛永通宝」	直径2.43	孔径0.67		2.65	
33	G1-レシ-チ	第3・4層	銅錢 「寛永通宝」	直径2.43	孔径0.62		2.55	
34	G1-レシ-チ	第3・4層	銅錢 「寛永通宝」	直径2.46	孔径0.68		2.7	
35	G1-レシ-チ	第2層	銅錢 「寛永通宝」				0.76	
36	G1-レシ-チ	第2層	銅錢 「寛永通宝」	直径2.46	孔径0.63		1.82	
37	G1-レシ-チ	第2層	壺一枚銅鏡	直径2.8			6.68	摩滅の著しい

第3章 教育学部附属光小・中学校上水道（給水管）改修工事に伴う試掘・立会調査

第1節 試掘調査

1 調査の経過

教育学部附属光小・中学校上水道（給水管）改修工事が計画された。工事は、正門から附属小学校運動場を経由して校舎に至るルートと校舎周辺で給水管の新設を行うものである。上記について埋蔵文化財資料館運営委員会が審議した結果、試掘調査が必要との判断が下された。上記を受け、埋蔵文化財資料館が平成11年11月15～12月10日に試掘調査を実施した。調査はAトレンチ（5.7m²）、Bトレンチ（5.7m²）、Cトレンチ（8.2m²）、Dトレンチ（6.5m²）、Eトレンチ（6.1m²）、Fトレンチ（4.6m²）、Gトレンチ（11.9m²）を設定して行った。総調査面積は48.7m²である。Fig. 16～18では試掘調査区と立会調査区を掲載した。

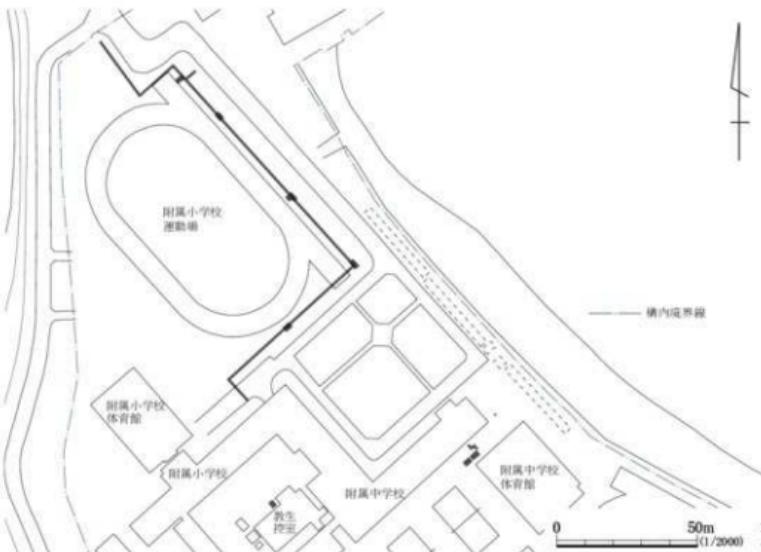


Fig.16 調査区位置図

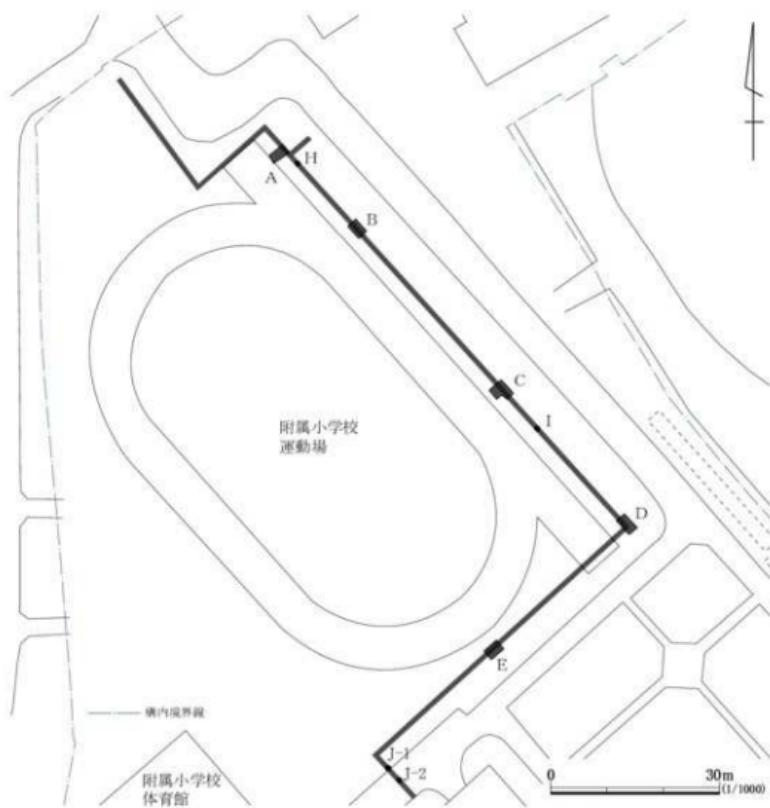


Fig.17 調査区詳細図①

2 層序・遺構

(1) Aトレンチ (Fig.17・19, PL.14)

以下の各トレンチの平面図で示した方位は磁北を示す。また、土層断面図に記載にある層序については、埋土に含まれる礫など、記載の一部を省略する。Aトレンチの層序は、第1～3層：表土・造成土（層厚50～70cm）、第4層：近代遺構面形成層（明黄褐色（2.5Y7/6）粗砂（層厚5～16cm）、第5層：近代遺構面形成層か（褐色（10YR4/4）粗砂（層厚9～25cm））、第6～11層（明黄褐色（10YR6/6・7/6・2.5Y7/6）礫・にぶい黄褐色（10YR5/3）礫・黄褐



Fig.18 調査区詳細図②

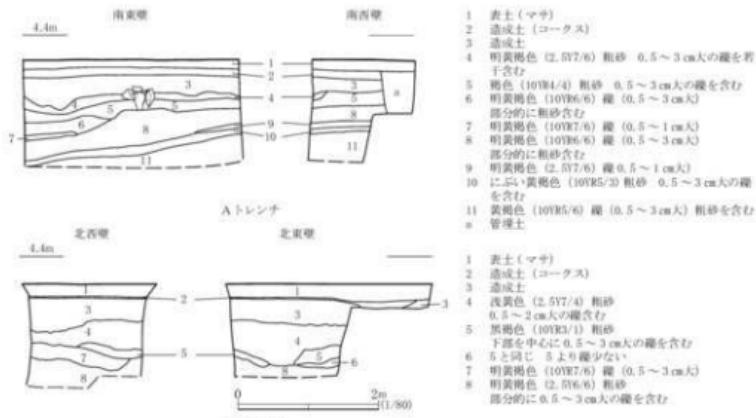


Fig.19 A・Bトレンチ土層断面図

色 (10YR5/6) 磨 (層厚84cm以上) である。南東壁第4層上面で近代の石積を確認した。また、第4層から土器片が少量出土した。

(2) Bトレンチ (Fig.17・19, PL.15)

層序は、第1～3層：表土・造成土（層厚52～69cm）、第4～8層：古墳時代以前の堆積層か(浅黄色 (2.5Y7/4) 粗砂・黒褐色 (10YR3/1) 粗砂・明黄褐色 (10YR7/6) 磨・明黄褐色 (2.5Y6/6) 粗砂 層厚94cm以上) である。造構は検出していない。第4層・第5層から土器片が出土した。

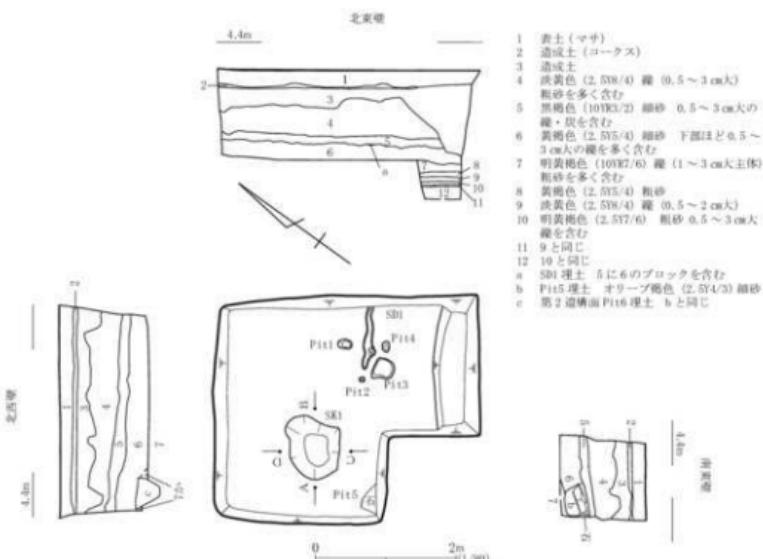


Fig.20 Cトレーニチ第1造構面平面図・土層断面図

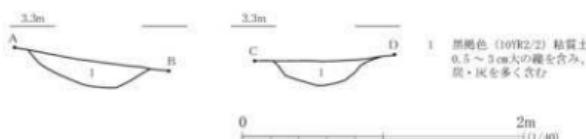


Fig.21 Cトレーニチ SK1 断面図

(3) Cトレーニチ (Fig.17・20～22, PL.16～21)

層序は下記の通りである。第1～3層：表土・造成土（層厚35～122cm）、第4層：近世～近代の堆積層（淡黄色（2.5Y8/4）礫 層厚9～57cm）、第5層：近世の遺物包含層（黒褐色（10YR3/2）細砂 層厚7～20cm）、第6層：第1造構面（近世）形成層・古墳時代の遺物包含層（黄褐色（2.5Y5/4）細砂 層厚12～41cm）、第7層：第2造構面（古墳時代）形成層（明黄褐色（10YR7/6）礫 層厚10～18cm）、第8～12層：古墳時代以前の堆積層（黄褐色（2.5Y5/4）粗砂・淡黄色（2.5Y8/4）礫・明黄褐色（2.5Y7/6）粗砂 層厚40cm以上）。第4層から陶磁器片・鉄製品等、第5・6層から土師器、須恵器、韓式系土器、陶磁器片、鉄製品

が出土した。

第5・6層は厳密に分けて掘削を行うことが困難であった。また、第6層上面が近世の遺構面であるため若干の遺物の混在がある。第6層上面の第1遺構面で近世の溝1条、土坑1基、ピット5基を検出した。また、多数の遺物が出土し、遺物は調査区外にも分布することが確実視されたため、調査区の西側を拡張した(PL.16・PL.17(1))。第7層上面の第2遺構面では古墳時代のピット6基を検出した。

第1遺構面 SD1 (Fig.20, PL.16 (2)・PL.17 (1) (2)・PL.18 (2))

最大幅16cm、長さ90cm以上、深さは1.8~5.5cmである。埋土は第5層に第6層のブロックを含む。埋土から韓式系土器(竈形土器 Fig.29-37)と同一個体とみられる破片が1点出土した。

第1遺構面 SK1 (Fig.20・21, PL.16(1) (2)・PL.17 (1) (2)・PL.18(1) (2) (4))

不整形で平面形89cm×72cm、深さは17cmである。埋土は黒褐色(10YR2/2)粘質土に0.5~3cm大の礫・炭・灰を多く含んでいた。埋土から礫と磁器碗(Fig.27-1~2)、磁器皿(Fig.27-3)のほか、土師器竈形土器片、陶器片、磁器片、瓦片、鉄製品等が出土した。

第1遺構面 Pit1~5 (Fig.20, PL.16 (2)・PL.17 (1) (2)・PL.18 (2) (4))

Pit1は平面形14×20cm、深さ19cm、Pit2は平面形8×9cm、深さ2cm、Pit3は平面形27cm×80cm、深さ4cm、Pit4は平面形11×17cm、深さ約5cmである。Pit5は断面図で確認した。断面幅42cm、深さ33cmで、上面に根石とみられる石が据えられていた。埋土はPit1~4がSD1と同じで、Pit5がオリーブ褐色(2.5Y4/3)細砂であった。このうちPit1から鉄釘(Fig.33-70)のほか土師器片が出土し、Pit2から摩滅が著しい須恵器甕口縁部片、土師質土器片が出土した。

第2遺構面 Pit1~6 (Fig.22, PL.19 (1) ~ (4)・PL.20 (1))

Pit1~6のうち、Pit6は第6層下部に礫が多く含まれていた関係で遺構面を明確に判断できなかつたが、第7層から掘り込まれたと考えられる。

Pit1は平面形24×28cm、深さ7cm、Pit2は平面形17×18cm、深さ5cm、Pit3は直径35cm、深さ10cm、Pit4は平面形28cm×34cm、深さ8cm、Pit5は平面形44×46cm、深さ16cm、Pit6は平面形25cm以上×42cm、深さ33cmである。埋土はPit1・2が、黒褐色(10YR3/2)細砂(0.5~3cm大礫・炭を少量含む)であった。以下、Pit3が褐灰色(10YR6/1)細砂(0.5~3cm大礫・炭を少量含む)、Pit4が黒褐色(10YR3/1)細砂(0.5~3cm大礫を含む)、Pit5が黄褐色(10YR4/3)細砂(0.5~3cm大礫・炭を少量含む)、

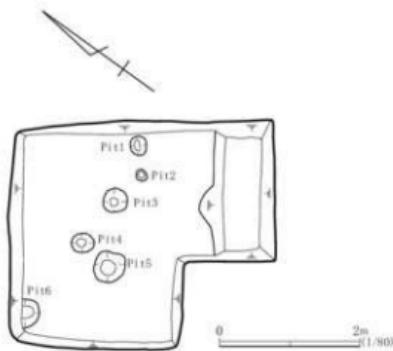


Fig.22 Cトレーンチ第2遺構面平面図

Pit 6 がオリーブ褐色 (2.5Y4/3) 細砂であった。Pit 1・2・5・6 から土器器片とみられる土器片が出土した。

(4) Dトレーンチ (Fig.23, PL.22 (1))

層序は下記の通りである。第1～3層：表土・造成土（層厚52～96cm）、第4～8層：近世～近代の堆積層か(明黄褐色(2.5Y7/6)粗砂・浅黄色(2.5Y7/3)礫・オリーブ褐色(2.5Y4/4)礫・明黄褐色(2.5Y7/6)細砂・黒褐色(10YR3/1)礫(0.5～2cm大) 層厚27～37cm)、第9～17層：古墳時代以前の堆積層(明黄褐色(2.5Y6/6)粗砂・オリーブ褐色(2.5Y4/4)礫・灰黄色(2.5Y6/2)粗砂・黄褐色(2.5Y5/3)粗砂・黄色(2.5Y8/6)粗砂 層厚73cm以上)。遺構は検出していない。第4層から土器片、磁器片、第6層から磁器片、13～16層から土器片が出土した。また、第6～16層掘削時に土器片が出土した。

(5) Eトレーンチ (Fig.23, PL.22 (2))

層序は下記の通りである。第1～3層：表土・造成土・搅乱（層厚56～168cm）、第4～12層：古墳時代以前の堆積層か(明黄褐色(2.5Y6/6)粗砂・黄褐色(2.5Y5/6)礫・灰黄色(2.5Y7/2)礫・灰黄色(2.5Y7/2)礫・淡黄色(2.5Y8/4)細砂・浅黄色(5Y7/4)礫・明黄褐色(10YR6/6)礫・にぶい黄色(2.5Y6/4)礫・灰白色(10YR8/1)粗砂 層厚126cm以上)。遺構は検出していない。第11層から土器片が出土した。

(6) Fトレーンチ (Fig.24, PL.23 (1))

層序は下記の通りである。第1層：表土・造成土・管理土（層厚51～72cm）、第2～5層：

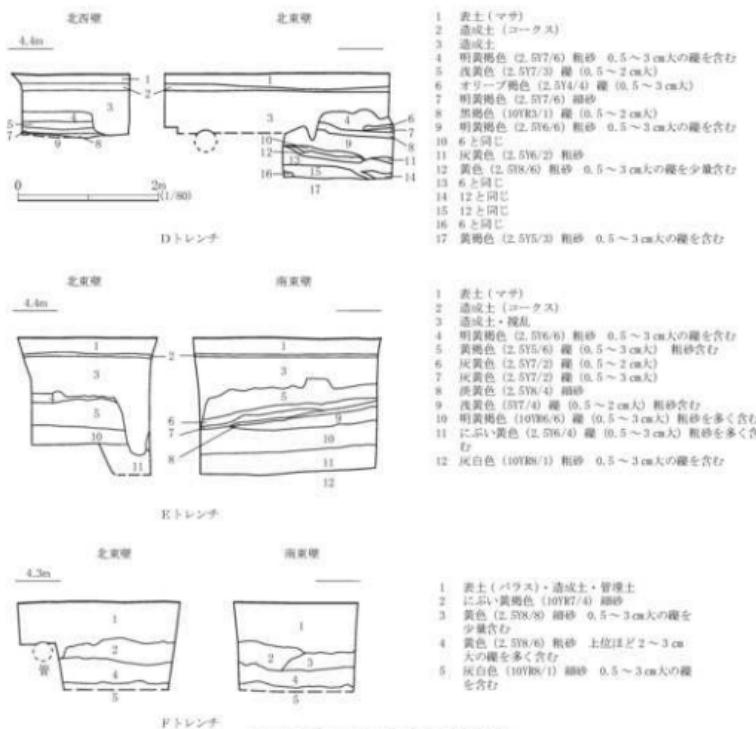
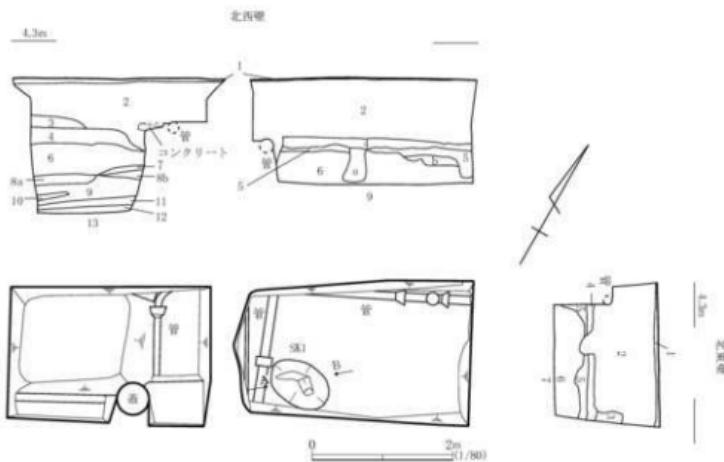


Fig.23 D・E・Fトレントチ土層断面図

古墳時代以前の堆積層か(にぶい黄褐色(10YR7/4)細砂・黄色(2.5Y8/8)細砂・黄色(2.5Y8/6)粗砂・灰白色(10YR8/1)細砂 層厚75cm以上)。遺構は検出していない。第1層から磁器片、土師器片、土器片が出土した。

(7) Gトレントチ (Fig.24, PL.23 (2)・PL.24 (1)・(2)・PL.25 (1)～(4))

各種配管により掘削が困難であったことから北東区と南西区に分割して掘削を行った。層序は以下の通りである。第1～2層：表土・造成土・管理土(層厚52～92cm)、第3層：近世～近代の堆積層(黄褐色(2.5Y5/6)細砂 層厚2～18cm)、第4層：古墳時代～中世の遺物包含層(オリーブ褐色(2.5Y4/4)粗砂 層厚22cm)、第5層：中世の遺構面形成層(暗オリーブ褐色(2.5Y3/3)粗砂 層厚2～39cm)、第6層：中世の遺構面形成層(黄褐



- 1 表土（マサ）
- 2 造成土・管理土
- 3 黄褐色 (2.5Y5/6) 磨砂
- 4 オリーブ褐色 (2.5Y4/4) 粗砂 0.5～3cm大の礫を含む
- 5 塵オリーブ褐色 (2.5Y3/3) 粗砂 0.5～3cm大の礫を含む
- 6 黄褐色 (2.5Y5/6) 磨砂 (0.5～3cm大) 2～3cm入礫主体 粗砂を多く含む
- 7 黄色 (2.5Y7/8) 細砂
- 8a・8b 明黄褐色 (2.5Y7/6) 磨砂 (0.5～1cm大)
- 9・12 7と同じ
- 10・11 8a・8bと同じ
- 13 黄褐色 (10YR5/6) 磨砂 (0.5～3cm大)
- a P111 土土 黑褐色 (2.5Y2/1) 粗砂 0.5～3cm大的礫を含む 下部では第6層をブロック状に含む
- b SK1 土土 塘オリーブ褐色 (2.5Y3/3) 粗砂 黑褐色 (2.5Y2/1) 粗砂をブロック状に含む

Fig.24 Gトレーンチ平面図・土層断面図



Fig.25 Gトレーンチ北区 SK1 断面図

色 (2.5Y5/6) 磨砂 (層厚 8~51cm)、第7~8層：古墳時代～中世の堆積層 (黄色 (2.5Y7/8) 細砂・明黄褐色 (2.5Y7/6) 磨砂 (層厚 2~20cm))、第9~10層：古墳時代の遺構面形成層 (黄色 (2.5Y7/8) 細砂・明黄褐色 (2.5Y7/6) 磨砂 層厚24~33cm)。第11~13層：古墳時代以前の堆積層 (明黄褐色 (2.5Y7/6) 磨砂・黄色 (2.5Y7/8) 細砂・黄褐色 (10YR5/6) 磨砂 層厚20cm以上)。

北東区の北西壁では第5層上面でPit1、第6層上面でSX1を検出し、北東区では第9層上面でSK1を検出した。また、第3層から陶磁器片など近世～近代の遺物が出土し、第4層から縄文土器片、古墳時代・中世の土師器片が出土した。Pit1から遺物は出土していないが、直上に堆積した第4層の遺物と遺構面形成層から中世と推測する。SX1・SK1は出土遺物と遺構面形成層から古墳時代と考えられる。第11～12層は古墳時代以前の堆積層で、第11層から縄文土器片が出土した。

Pit1・(Fig.26, PL.24 (1))

上面幅24cm、深さ48cm、埋土は黒褐色(2.5Y2/1)粗砂で、0.5～3cm大の礫を含み、下部では第6層をブロック状に含む。出土遺物はない。

SX1 (Fig.26, PL.24 (1)・PL.25 (2) (3) (4))

上面幅66cm、深さ14cm、埋土は暗オリーブ褐色(2.5Y3/3)粗砂で黒褐色(2.5Y2/1)粗砂をブロック状に含む。出土遺物はない。

SK1 (Fig.25, PL.25 (2) (3) (4))

平面形は不整形で62cm×90cm、深さ41cmである。埋土はオリーブ褐色(2.5Y4/3)細砂に0.5～3cm大の礫を少量含むほか、黄灰色(2.5Y4/1)細砂ブロックを含む。土師器の底部(器種不明)小片1点が出土した。

3 遺物

以下で、Cトレンチを中心に代表的な遺物を報告する。なお、遺構出土を除く近世以後の遺物については一部にとどめた。

(1) 土器 (Fig.26～32, PL.26～32)

Cトレンチ第1遺構面 SK1 出土土器 (Fig.26-1～3, PL.26)

1は肥前系染付碗の胴～底部。高台外面に1条の圓線を描く。また、見込に蛇の目状の釉剥ぎを行う。18世紀後半。2は肥前・波佐見の陶胎染付碗。外面に唐草文を描く。18世紀前半。3は肥前系の磁器皿底部。見込に蛇の目状の釉剥ぎを行う。18世紀後半。

Cトレンチ第6層出土土器 (Fig.26-4～Fig.32-58, PL.26～31)

第5層出土土器と接合した土器(Fig.28-35・Fig.29-37)も合わせて報告する。4～9は土師器壺。4・5は同一個体と考えられる小型丸底壺。5は胴部外面にはミガキを施す。判然としないため図示していないが、部分的に丹塗が僅かに残存する。また、焼成後に内面から1箇所穿孔を行っている。内面はナデを施す。6は小型丸底壺の口縁部。内外

面にヨコナデ・丹塗を施す。7は小型丸底壺の頸～底部。頸部外面にはヨコナデ、胴部外面にはタテハケ後にナデ・丹塗を施す。内面にナデを施し、上端付近にも部分的に丹塗が残存する。8は口縁部が直立する長胴の小型壺。外面と胴部内面下半～内底面にタテミガキ、口縁部～胴部内面内面上半にタテ・斜方向のハケを施す。9は口縁部。口唇部をヨコナデによりつまみ上げ、内外面にヨコミガキを施す。

10～20は土師器甕の口縁部と口縁～胴部。このうち、10・11・13・14・16の内面には口縁部と胴部の境界に明瞭な稜がある。10は口縁部内外面にヨコナデ、胴部内面にはケズリ後ナデを施す。11は口縁部内外面にヨコナデ、胴部外面にハケ、同内面に斜方向のケズリを施す。12は口縁部内面にヨコナデを施す。13は口縁内外面に右上がりのハケ、胴部内面にナデを施す。14は口縁部外面上半、同内面にヨコナデ、口縁部下半にタテハケ、胴部内面にケズリ後ナデを施す。15は口縁部外面にタテハケ後、ヘラ描による文様、内面にヨコナデを施す。16は胴部外面に右上がりハケ後ナデ、同内面に横ケズリ後ナデを施す。17は外面の調整不明。口縁部内面にヨコナデ、胴部内面に右上がりのケズリを施す。18は口縁部を強く折り曲げる。口縁部内外面にヨコナデ、胴部内面にヨコケズリを施す。19も口縁部を強く折り曲げ、内外面にヨコナデを施す。甕としたが、その形状から把手付鍋（ハガマ）である可能性がある。20は胴部にタテハケ後、上半はナデを施す。内面は摩滅する。

21～23は土師器坏。いずれも口縁部は内湾ぎみに立ち上がり、内外面にヨコミガキを施す。

24～27は土師器竈形土器。24は掛口～胴部。掛口は直立する。外面にタテハケ、内面にケズリを施す。底がないことから背面とと考えられる。25は掛口部で、内外面に粗いヨコナデを施す。土師器に含めたが、色調は外面が橙色、内面が明赤褐色で37に色調が近似することから韓式系統質土器である可能性がある。26は底部・炊口部。付け底で先端を欠損する。底部は接合部で剥離しており、2枚の粘土板を貼り合わせている。内外面にナデを施す。27は底部。付け底で基部が残存する。その形状から正面から見て左側の底と考えられる。接合面で剥離しており、2枚の粘土板を貼り合わせている。ヨコハケ・ナデを施す。

28～44は韓式系統質土器とその可能性が高いと考えられる土器である。内外面の色調は橙色もしくは赤褐色系が多い。28は甕。口縁部内外面にヨコナデ、胴部外面に格子目タタキ、同内面にタテナデを施す。29～34は甕もしくは鉢の胴部片。いずれも外面に格

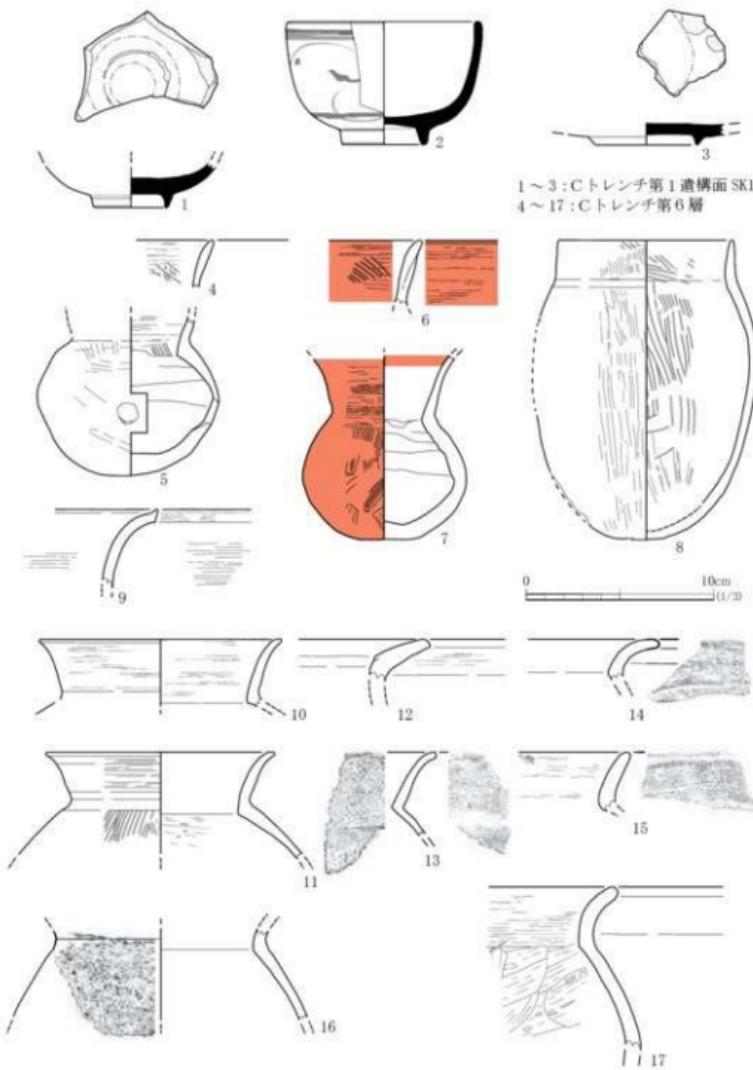


Fig.26 出土遺物実測図①(土器)

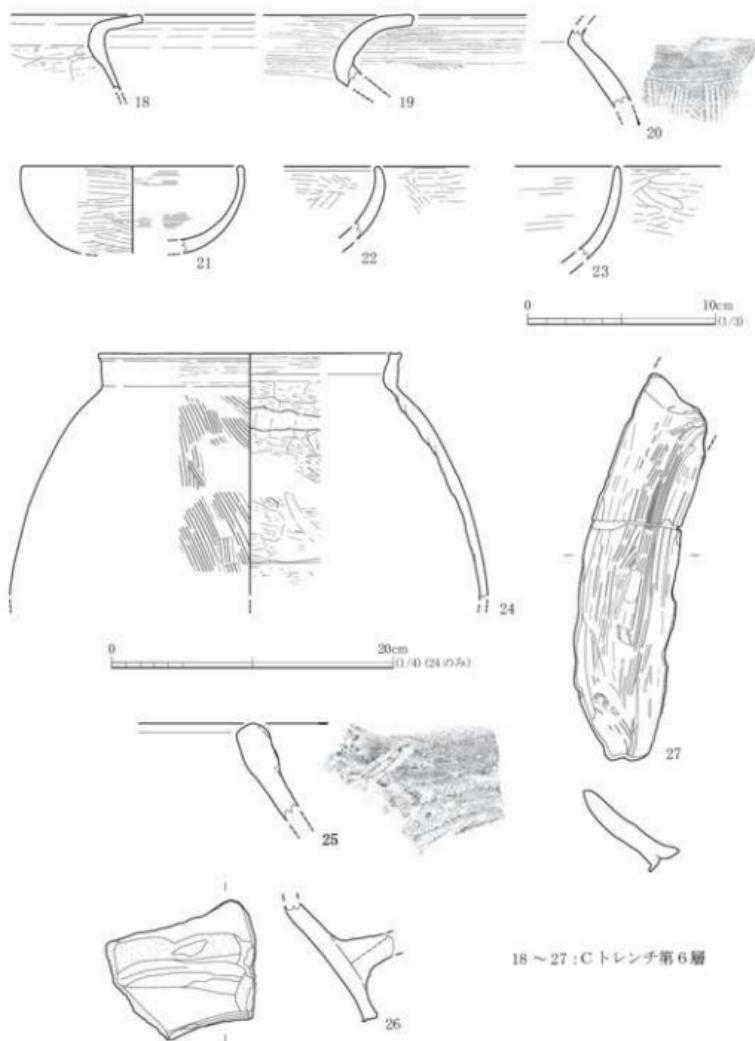


Fig.27 出土遺物実測図②(土器)

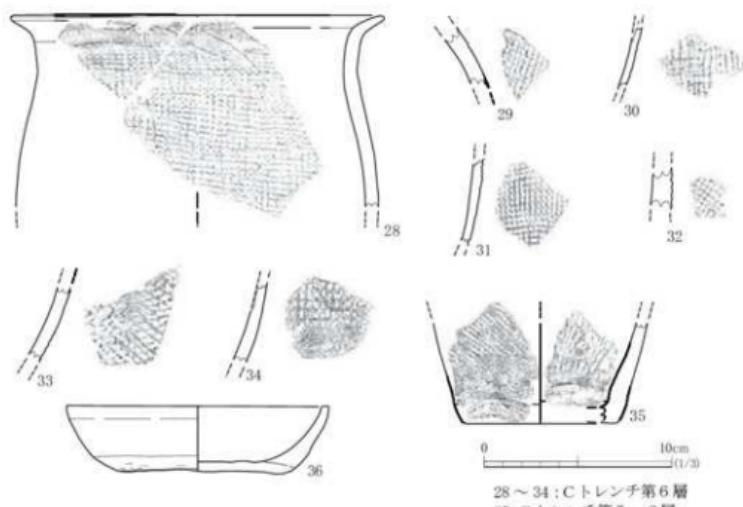


Fig.28 出土遺物実測図③(土器)

子目タタキ、内面にナデを施す。35は鉢の胴～底部。外面に左上がりのタタキを施す。内面には平行當て具痕が残る。36は鉢。平底で口縁部は直立し口唇部に面取りを行う。底部外面にヨコケズリ、他の部位にはヨコナデを施す。底部と胴部の境界に剥離痕がある。

37～44は竈形土器。このうち、色調・胎土・外面調整の鳥足文タタキから37～43は同一個体と考えられる。また、他にも接合しない同一個体とみられる破片が出土している。接合に努めたが調査区外にも破片が分布している可能性が高く、完全に接合することができなかつた。上記から今後の再検討を考慮し、石膏による復元は最小限にとどめた。

37は掛口部直下から基部まで残存する。掛口部は接合面で剥離しているが、38のような内面に突出する逆L字形状と考えられる。現状の接合状況で掛口径がおよそ24cm、器高がおよそ25cmに復元できる。外面上端から約2.5cmはヨコ・斜方向のケズリを施す。以下の外面には鳥足文タタキを施す。底は曲げ底でタタキ後に作られており、成形時のナデによってタタキが消されている。タタキは上部が左上がりで鳥足が開き、基部がほぼ水平で左に鳥足が開いている。同一個体とみられる39で外傾接合が確認できることから、倒立技法で成形されたとみられるが、上記を前提とすれば、成形時に下になる上半では右

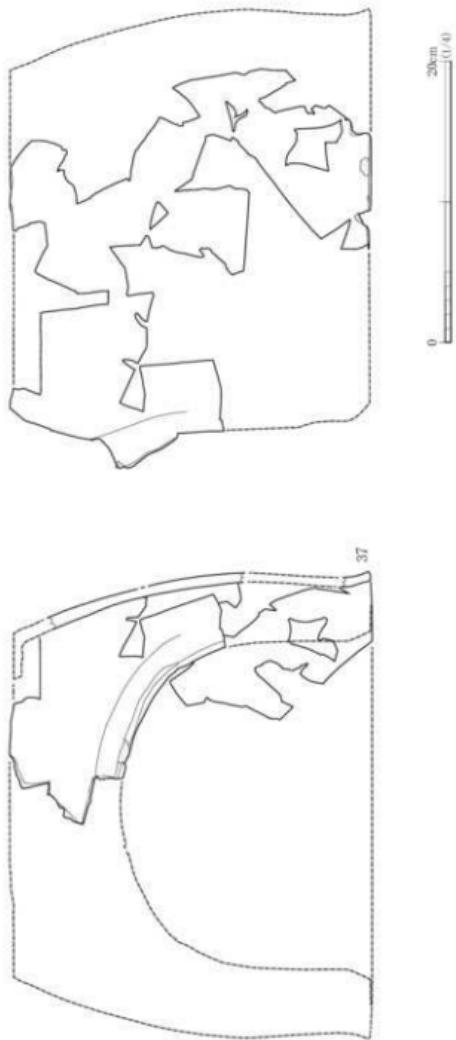


Fig.29 出土遺物実測図④(土器)

37:C トレンチ第5・6層

掛口



Fig.30 出土遺物拓影

下がりに鳥足が開き、上になる下半ではほぼ水平で右に鳥足が開くことになり、「叩き締めの円弧」の結果と解釈できる。また、鳥足は2～4本に見える箇所があるが、拓本により特徴的な箇所を見ると、基本的に同じ原体が使用されたと考えられる。内面は、上から約3cmはヨコナデ、基部内面はヨコナデ、その他の部位にはタテナデを施す。色調は外面が橙色・明赤褐色、内面が明赤褐色・赤褐色・橙色で硬質に焼成されており、内外面にススが薄く付着する。なお、把手の位置と形状は不明のため、実測図には記載していない。

38～40は掛口部。38は断面が内面に突出する逆L字状を呈し、外表面がヨコケズリ後ナデ、内面に強いヨコナデを施す。39・40は、外面上半にヨコ・斜方向のケズリ、外面上半に鳥足文タタキ、内面上半にヨコナデ、内面下半にタテナデを施す。また39は下半に外傾接合の剥離面、40は掛口部に水平な剥離面がある。41は外表面に鳥足文タタキ、内

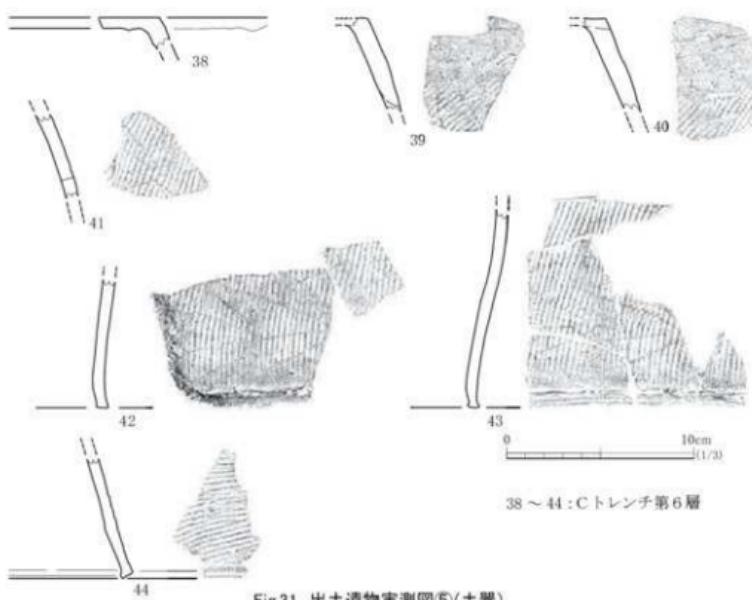


Fig.31 出土遺物実測図⑤(土器)

面にタテナデを施す。外面左端がやや盛り上がっており、断面に剥離痕があることから、把手付近である可能性がある。42・43は基部で42は炊口部も残存する。いずれも外面に鳥足文タタキ、内面上半にタテナデ、同下半の外反部にヨコナデを施し、端部に面取りを行っている。44は37～43とは別個体の基部。外面に右上がりのタタキ（1条0.5～2.5 mm 7.5 mm / 3条）、内面に斜方向のナデを施し、端部をつまみ上げている。

45～55は須恵器。45～49は壺蓋で5世紀後半～6世紀前半に位置づけられる。いずれも天井部外面は回転ヘラ削り、他の部位には回転ヨコナデを施す。48は天井部に突起状の付着物がある。50は壺の口縁部。51～55は壺の胴部。51と54は色調・胎土、タタキの原体が近似することから、同一個体である可能性がある。51は外面に平行タタキ（1条3 mm 11.5 mm / 3条）、内面にナデを施す。外面には自然釉が付着する。52は外面に平行タタキ（1条1～2 mm 11 mm / 3条）後、横方向カキメを施し、内面には同心円状の当て具痕が残る。53は外面に平行タタキ（1条1.5～2.5 mm 8 mm / 3条）後、ナデを施し、内面には同心円状の当て具痕が残る。54は外面に平行タタキ（1条2.5～3 mm 10.5 mm

/ 3 条)、内面にナデを施す。外面には自然軸が付着する、55 は、外面に格子目タタキ後ナデ、内面にヨコナデを施す。以上の土師器、韓式系土器、須恵器は 5 世紀後半～6 世紀前半に位置づけられる。³⁾

56～58 は磁器。56 は肥前系の染付碗。18 世紀後半以降。高台外面に 1 条の圓線を描く。57 は青磁の香炉。足は 1 箇所のみの残存だが、三足と考えられる。肥前系で 18 世紀中頃～後半。外面と内面上半まで施釉し、外底面中央には鉄漿をかける。58 は肥前系の染付碗。18 世紀後半。外面に草花文を描く。意図的に楕円状に打ち割られている。

Cトレンチ第5層出土土器 (Fig.32-59 ~ 66, PL.31・32)

59～61 は土師器。59・60 は小型丸底壺の口縁部で内外面にヨコナデを施す。61 は器種不明の底部。内外面にナデを施し、外面の一部にタタキが残る。

62 は瓦質土器の口縁～胴部。鍋か。口縁部は T 字状を呈し、内外面にナデを施す。口縁部上面 2 箇所で穿孔し、内外面にススが付着する。

63～65 は陶器。63 は碗。関西系の可能性が高い。19 世紀。外底面は露胎で他は灰釉を施釉する。64 は皿。産地不明。18 世紀以降。輪轤成形で底面の残存部は僅かであるが、糸切りである。口縁部外面と内面に鉄漿をかける。65 は鉢。産地不明。18 世紀後半。外底面は露胎で他は灰釉を施釉し、見込に蛇の目状の釉剥ぎを行う。

66 は磁器紅皿。肥前系で 18 世紀。

Dトレンチ第6～16 層出土土器 (Fig.32-67, PL.32)

67 は須恵器壺胴部。外面に平行タタキ (1 条 2 mm 7.5 mm / 3 条) を施し、内面に同心円状の當て具痕が残る。

Gトレンチ第6出土土器 (Fig.32-68・69, PL.32)

68 は第 11 層出土の縄文土器深鉢胴部。外面に左上がり、内面に横方向の条痕を施す。原体は二枚貝とみられるが摩滅により判然としない。縄文時代後～晩期。69 は第 4 層出土の縄文時代後期末～晩期前葉の浅鉢口縁部。摩滅が著しく調整不明だが、口縁部に 1 条の圓線がみられる。

(2) 鉄製品 (Fig.33, PL.32)

70 は C トレンチ第 1 造構面 Pit1 出土の釘。頭部と下端以外には銷が付着し、先端を欠損する。71・72 は C トレンチ第 6 層出土。71 は釘で、頭部は逆 L 字状で先端を欠損する。72 は不明切製品。欠損部が多いが断面形は円形である。

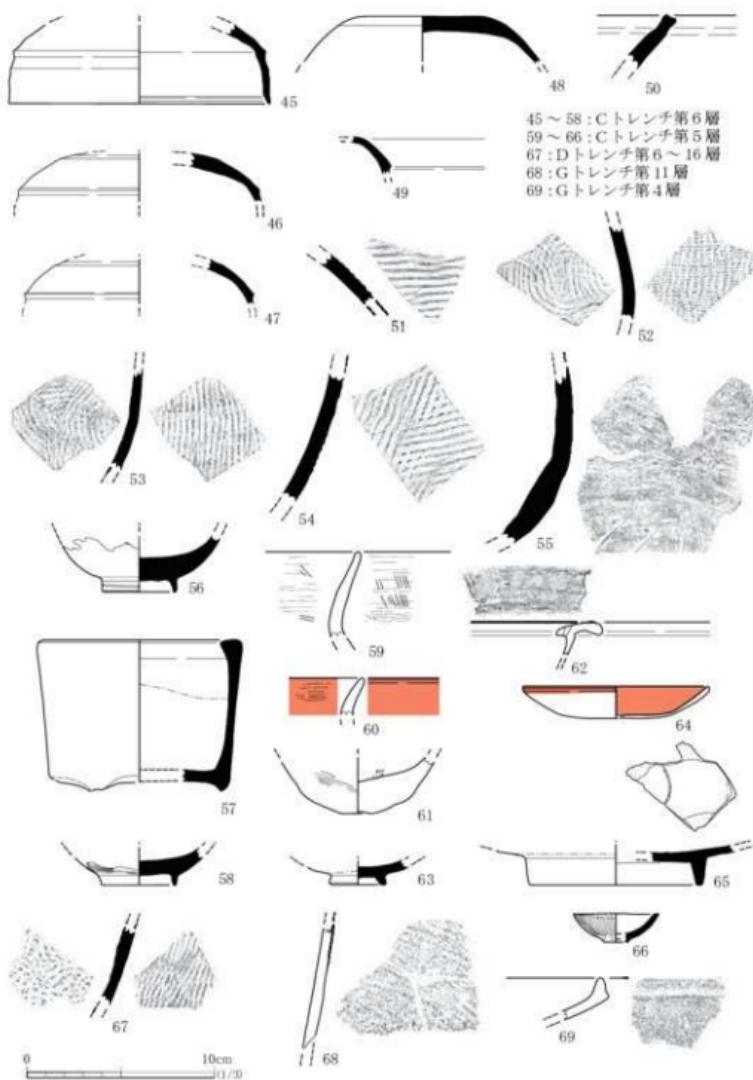


Fig.32 出土遺物実測図⑥(土器)



Fig.33 出土遺物実測図⑦(鉄製品)

4 小結

層序・遺構について時期別に述べる。

Bトレンチでは第5層から土師器片が少量出土した。詳細な時期は不明であるが、同層は古墳時代の遺物包含層と考えられる。Cトレンチでは第6層で5世紀後半～6世紀前半の土師器、須恵器、韓式系土器が出土した。また、第7層上面でピット6基を検出した。ピットからの出土遺物は僅少であるが、第6層出土遺物から5世紀後半～6世紀前半と推測される。既報告の附属小学校体育馆北東側⁴⁾・附属小学校校舎周辺⁵⁾・附属中学校武道場敷地⁶⁾で検出されている古墳時代の遺構の時期は概ね6世紀後半であり、これらより遡る。一方、光構内北部では下水道接続工事に伴う立会調査区⁷⁾で5世紀後半～6世紀前半を含む古墳時代の遺構・遺物包含層が検出されており、Cトレンチの遺物包含層・遺構との関連が考えられる。また、Gトレンチでは古墳時代と考えられる不明遺構1基・土坑1基を検出し、第11層から縄文土器片が出土した。

Gトレンチ第4層からは縄文土器片、古墳時代・中世の土師器片が出土し、直下の第5層上面で検出されたPit1は中世の遺構と考えられる。

Cトレンチ第5層は18～19世紀の遺物包含層で、第6層上面では溝1条、土坑1基、ピット5基を検出した。このうちSK1からは18世紀前半～後半の磁器が出土した。これらの遺物包含層・遺構は安永年間に設置された室積会所⁸⁾に関連する可能性が高い。また、造成土の直下で検出されたA～Dトレンチ第4層・Gトレンチ第3層は近世～近代の遺物包含層である。Aトレンチ第4層は近代の遺構面形成層で、上面で石積を検出した。

次に出土遺物について述べる。今回特に注目されるのは韓式系土器である。主にCトレ

ンチ第6層から5世紀後半～6世紀前半の土師器、須恵器とともに出土した。韓式系土器はいずれも軟質土器で甕・鉢・竈形土器がある。このうち外面に鳥足文タタキを施す竈形土器（Fig. 29-37）は全形がうかがえるきわめて貴重な事例である。Fig. 29-37は倒立技法で成形されたと考えられるが、その製作技術は大阪府四條畷市所在の藤屋北遺跡から出土した5世紀後半頃の竈形土器と関連がある。これらの竈形土器の外面には縦位平行タタキが残り、天井部が平坦である。その製作技法については「百濟の瓶の製作技法で作り上げてから、それをひっくり返し、正面に焚口を、上面に釜孔を割り抜いている。」とされ、「百濟の瓶の製作技法を応用しながらも百濟には存在しないオリジナル品」と位置づけられている。¹⁰⁾ Fig. 29-37と上記の竈形土器は掛口側面にケズリを施すことや形態が類似していることからも、同じ製作技術の系譜で捉えることができる。詳細な位置づけには、韓式系土器における竈形土器・瓶形土器の製作技術全般についての検討も必要である。

Fig. 29-37が出土した第6層は近世の遺構面形成層で上面からは近世の陶磁器も出土していることから、一定の搅乱を受けている。上記から慎重な検討が必要であるが、この竈形土器は丹塗の小型丸底蓋とともに出土している点、調査区外を含む範囲で破片が分布しているとみられる点から、祭祀に伴い破碎された可能性がある。また、Fig. 29-37は破片を全て接合できなかったため、実測図は暫定的なものである。Cトレント第7層上面で検出した遺構の分布解明と合わせ、Cトレント周辺の発掘調査を含めた再検討が求められる。

光構内の御手洗遺跡では立会調査区G地点、公共下水道接続工事に伴う立会調査区、附属中学校体育館敷地では¹¹⁾ 5～6世紀前半を主体とする土師器・須恵器が出土しており、公共下水道接続工事に伴う立会調査区からは5世紀代の韓式系土器が多数出土している。具体的にどのような施設が存在したのかが不明である点に問題があるが、室積湾は古墳時代における海上交通上の拠点であり、5～6世紀前半の光構内には①正門からCトレント周辺の構内北西部、②附属中学校体育館とその周辺を中心とする構内南東部に上記に関連する施設が存在した可能性がある。

以上の調査結果により関連部局と協議した結果、附属小学校校庭における掘削工事の深度は一部を除き70cm以内にとどめることになった。

[注]

1) 佐原眞「平瓦桶巻作り」『考古学雑誌』第58巻2号、1972年)

2) 京都大学大学院文学研究科教授 吉井秀夫氏のご教示による。

- 3) 愛媛大学埋蔵文化財調査室講師 三吉秀充氏のご教示による。
- 4) 山口大学埋蔵文化財資料館「光構内教育学部附属光小学校運動場改修に伴う発掘調査」(『山口大学構内遺跡調査研究年報X』、1992年)
- 5) 山口大学埋蔵文化財資料館「教育学部附属光小学校エレベータ昇降路他新設に伴う試掘・立会調査」(『山口大学埋蔵文化財資料館年報－平成15年度－』、2005年)
山口大学埋蔵文化財資料館「教育学部附属光学校下水道接続工事に伴う本発掘調査・立会調査」(『山口大学埋蔵文化財資料館年報－平成24年度－』、2016年)
- 6) 山口大学埋蔵文化財資料館「光構内教育学部附属光中学校武道場新設に伴う発掘調査」(『山口大学構内遺跡調査研究年報XII』、1994年)
- 7) 山口大学埋蔵文化財資料館「教育学部附属光学校下水道接続工事に伴う本発掘調査・立会調査」(『山口大学埋蔵文化財資料館年報－平成24年度－』、2016年)
- 8) 小川国治「近世のひかりー海の利用と大川の効用ー」(『光市史』、1975年)
- 9) この竈形土器の製作技法の観点に関しては、京都大学大学院文学研究科教授 吉井秀夫氏にご教示いただきいた。
- 10) 寺井誠「新たなものを生み出す渡来文化ー「百濟のようで百濟でない竈」の紹介を通じてー」(『狭山池築造1400年・平成28年度特別展 河内の開発と渡来人—藤原北遺跡の世界—』、大阪府立狭山池博物館、2016年)
大阪歴史博物館『特別展 渡来人いすこより』、2017年
- 11) 次節参照
- 12) 前掲注7文献
- 13) 福本幸夫「光市における先原史時代の遺跡」(『先原史時代の光市』、1966年)
横山成己「付篇 光市文化センター所蔵の御手洗遺跡出土遺物」(『山口大学埋蔵文化財資料館年報－平成15年度－』、2005年)

Tab.5 出土遺物観察表(土器)

遺物 番号	出土地名* 遺構	層位	器種	高さ	口径 (cm)	底径 (cm)	基高 (cm)	色調 ①表面の色調	断面 ②断面の内面	断土	法量()は復元値	
											備考	
1	Cトレンチ 第1遺構(301)		縦器 瓢	胸～ 底部	4.0			青白：灰白色 縁：透明		精良		肥前系
2	Cトレンチ 第1遺構(301)		縦器 瓢	口縁～ 底部	(10.4)	4.4	6.6	青白：灰白色 縁：透明		精良		肥前系 切削染付施
3	Cトレンチ 第1遺構(301)		縦器 盆	底部				青白：灰白色 縁：オーリーフ色		精良		肥前系
4	Cトレンチ	第6層	土師器 盆	口縁部				①底に灰い黄色	0.5～1mmの砂粒を含 る		5と同一	
5	Cトレンチ	第6層	土師器 盆	胸部～ 底部				①底に灰い黄色	0.5～2mmの砂粒を含 る	草平1箇所 4と同一		
6	Cトレンチ	第6層	土師器 盆	口縁部				①底に灰い黄褐色	0.5mmの砂粒を少量含 る			
7	Cトレンチ	第6層	土師器 盆	頭～ 底部				①底帯赤褐色	0.5～2mmの砂粒を少 量含む			丹波
8	Cトレンチ	第6層	土師器 盆	口縁～ 脚部	9.3		16.0	①褐色 ②にぶい黄褐色	0.5～7mmの砂粒を少 量含む			
9	Cトレンチ	第6層	土師器 盆	口縁部				①底褐色	0.5～1mmの砂粒を少 量含む			
10	Cトレンチ	第6層	土師器 壺	口縁部	(13.0)			①明黄褐色 ②にぶい黄褐色	0.5～2mmの砂粒を含 る			
11	Cトレンチ	第6層	土師器 壺	口縁～ 脚部	(12.2)			①底帯赤褐色	0.5～2mmの砂粒を含 る			
12	Cトレンチ	第6層	土師器 壺	口縁部				①暗灰色 ②にぶい黄色	0.5～2mmの砂粒を少 量含む			
13	Cトレンチ	第6層	土師器 壺	口縁～ 脚部				①暗灰黄色 ②灰黄色	0.5～2mmの砂粒を少 量含む			
14	Cトレンチ	第6層	土師器 壺	口縁部				①底に灰い黄色	0.5～1mmの砂粒を少 量含む			
15	Cトレンチ	第6層	土師器 壺	口縁部				①青色 ②にぶい黄褐色	0.5～1mmの砂粒を少 量含む			
16	Cトレンチ	第6層	土師器 壺	脚部				①底に灰い黄色	0.5～3mmの砂粒を含 る			
17	Cトレンチ	第6層	土師器 壺	口縁～ 脚部				①淡黄色 ②にぶい褐褐色	0.5～2mmの砂粒を少 量含む			
18	Cトレンチ	第6層	土師器 壺	口縁～ 脚部				①底褐色	0.5～2mmの砂粒を少 量含む			
19	Cトレンチ	第6層	土師器 壺	口縁部				①底に灰い黄色	0.5～2mmの砂粒を少 量含む			手付跡（ハガマ） の可能性あり
20	Cトレンチ	第6層	土師器 壺	脚部				①にぶい黄色 ②にぶい黄褐色	0.5～2mmの砂粒を含 る			
21	Cトレンチ	第6層	土師器 环	口縁～ 脚部	(11.6)			①底褐色	0.5～1mmの砂粒を含 む			
22	Cトレンチ	第6層	土師器 环	口縁～ 脚部				①オーリーフ色 ②灰褐色	0.5～1mmの砂粒を含 む			
23	Cトレンチ	第6層	土師器 环	口縁～ 脚部				①褐色 ②浅灰色・褐色	0.5～1mmの砂粒を少 量含む			
24	Cトレンチ	第6層	土師器 電	器口～ 脚部	(20.6)			①灰褐色 ②底褐色	0.5～1mmの砂粒を含 る			背面
25	Cトレンチ	第6層	土師器 電	器口部				①青色 ②灰褐色	0.5～2mmの砂粒を含 む			輪式土器軸質土器 の可能性あり
26	Cトレンチ	第6層	土師器 電	底部・ 火口部				①底に灰い黄褐色	0.5～2mmの砂粒を含 る			
27	Cトレンチ	第6層	土師器 電	底部				①底帯黄褐色	0.5～2mmの砂粒を含 る			
28	Cトレンチ	第6層 焼成土・脚 部付・脚	壺	口縁～ 脚部	(19.4)			①②褐色	0.5～1mmの砂粒を少 量含む			
29	Cトレンチ	第6層 焼成土・脚 部付・脚	壺	もじしく は跡				①底褐色	0.5～1mmの砂粒を含 む			
30	Cトレンチ	第6層 焼成土・脚 部付・脚	壺	もじしく は跡				①底褐色	0.5～2mmの砂粒を含 る			
31	Cトレンチ	第6層 焼成土・脚 部付・脚	壺	もじしく は跡				①底褐色	0.5～2mmの砂粒を含 る			
32	Cトレンチ	第6層 焼成土・脚 部付・脚	壺	もじしく は跡				①底褐色	0.5～2mmの砂粒を含 る			
33	Cトレンチ	第6層 焼成土・脚 部付・脚	壺	もじしく は跡				①にぶい褐色 ②にぶい黄褐色	0.5～2mmの砂粒を含 る			

出土遺物観察表

遺物	出土地区・ 番号	層位	器種	部位	口横 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	色調 (①外底②内面)	胎土	備考	
34	Cトレンチ	第6層	陶瓦上部 焼成土上部	乗もしく は鉢				①に(△)褐色 ②に(△)褐色	0.5~3mmの砂粒を含む		
35	Cトレンチ	第5・6層	陶瓦上部 焼成土上部	鉢				①褐色・△(△)褐色 ②褐色	0.5~2mmの砂粒を含む		
36	Cトレンチ	第6層	陶瓦上部 焼成土上部	鉢	口縁~ 底部	14.0	7.9	3.65	①②褐色	0.5~5mmの砂粒を少 量含む	
37	Cトレンチ	第5・6層	陶瓦上部 焼成土上部	壺				江褐色	0.5~2mmの砂粒を含む		
38	Cトレンチ	第6層	陶瓦上部 焼成土上部	壺	口縁部			①(△)褐色	0.5~5mmの砂粒を少 量含む		
39	Cトレンチ	第6層	陶瓦上部 焼成土上部	壺	口縁部			江褐色	0.5~5mmの砂粒を少 量含む		
40	Cトレンチ	第6層	陶瓦上部 焼成土上部	壺	口縁部			①褐色 ②に(△)褐色	0.5~5mmの砂粒を少 量含む	同一個体	
41	Cトレンチ	第6層	陶瓦上部 焼成土上部	壺	把手付 近底			①褐色 ②に(△)褐色	0.5~2mmの砂粒を含む		
42	Cトレンチ	第6層	陶瓦上部 焼成土上部	壺	系部			①(△)褐色	0.5~1mmの砂粒を僅 かに含む		
43	Cトレンチ	第6層	陶瓦上部 焼成土上部	壺	系部			①(△)褐色	0.5~1mmの砂粒を僅 かに含む		
44	Cトレンチ	第6層	陶瓦上部 焼成土上部	壺	基部			①褐色 ②に(△)褐色	0.5mmの砂粒を含む		
45	Cトレンチ	第6層	灰窓器	口縁部	(14.0)			①灰色 ②青灰色	0.5~3mmの砂粒を少 量含む		
46	Cトレンチ	第6層	灰窓器	口縁部	底付~ 口縁部			①灰色 ②青灰色	0.5~3mmの砂粒を少 量含む		
47	Cトレンチ	第6層	灰窓器	口縁部	底付~ 口縁部			①②灰色	0.5~3mmの砂粒を少 量含む		
48	Cトレンチ	第6層	灰窓器	口縁部	天井部			①灰色 ②浅黄色	0.5~1mmの砂粒を少 量含む		
49	Cトレンチ	第6層	灰窓器	口縁部	天井部			①②灰色	0.5~1mmの砂粒を僅 かに含む		
50	Cトレンチ	第6層	灰窓器	甕	口縁部			①②灰色	0.5~3mmの砂粒を少 量含む		
51	Cトレンチ	第6層	灰窓器	甕	胴部			江底オーライブ色 ②灰オーライブ色	0.5mmの砂粒を僅かに 含む	54と同一か	
52	Cトレンチ	第6層	灰窓器	甕	胴部			②灰色	0.5~2mmの砂粒を僅 かに含む		
53	Cトレンチ	第6層	灰窓器	甕	胴部			江底オーライブ色 ②灰オーライブ色	0.5~2mmの砂粒を僅 かに含む		
54	Cトレンチ	第6層	灰窓器	甕	胴部			江底オーライブ色 ②灰オーライブ色	0.5mmの砂粒を僅かに 含む	53と同一か	
55	Cトレンチ	第6層	灰窓器	甕	胴部			①江底オーライブ色	0.5~6mmの砂粒を少 量含む		
56	Cトレンチ	第6層	磁器	胸~ 底部	3.8			素地: 灰色 輪: 深赤	精良	肥前系	
57	Cトレンチ	第6層	磁器	香炉	口縁~ 底部	(10.0)		素地: 深灰色 輪: 深赤・赤褐色	精良	肥前系	
58	Cトレンチ	第6層	磁器	碗	胸~ 底部	4.6		素地: 深灰色 輪: 明暦灰褐色	精良	肥前系	
59	Cトレンチ	第5層	土器	壺	口縁部			①に(△)褐色 ②に(△)褐色	0.5~1mmの砂粒を少 量含む		
60	Cトレンチ	第5層	土器	壺	口縁部			①に(△)褐色 ②に(△)褐色	0.5~1mmの砂粒を少 量含む	丹塗	
61	Cトレンチ	第5層	土器	不明	底部			①②に(△)褐色 ②に(△)褐色	0.5mmの砂粒を少 量含む		
62	Cトレンチ	第5層	瓦質土器	壺	口縁~ 胴部			①(△)褐色	0.5~3mmの砂粒を含 む	内外面スズ付着	
63	Cトレンチ	第5層	陶器	碗	胸部~ 底部	2.9		素地: 浅黄色 輪: 深赤色	精良	關西系か	
64	Cトレンチ	第5層	陶器	皿	口縁~ 底部	(9.99)	(3.1)	1.75	素地: 深赤褐色 輪: 暗赤褐色	0.5mmの砂粒を僅かに 含む	
65	Cトレンチ	第5層	陶器	鉢	底部	(9.3)		素地: 褐色 輪: 淡白色	精良		
66	Cトレンチ	第5層	陶器	紅葉	口縁~ 底部	4.6	1.3	1.35	素地: 灰色 輪: 淡白色	精良	肥前系
67	Dトレンチ	第6~16層	灰窓器	甕	胴部			①褐色 ②暗褐色	0.5~4mmの砂粒を多 く含む		
68	Gトレンチ	第11層	鐵文土器	深鉢	胴部			①に(△)褐色 ②黃褐色	0.5~4mmの砂粒を多 く含む		

遺物番号	出土地区・遺構	層位	器種	部位	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	色・調 ①赤褐色 ②黄褐色	新土	備考
69	Gトレンチ	第4層	調文土器	浅杯	口縁部			①赤褐色 ②黄褐色	0.5~3mmの砂粒を多く含む	

Tab.6 出土遺物観察表(鉄製品)

遺物番号	出土地区・遺構	層位	器種	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	備考
70	Cトレンチ 第1層(表面)		鉗釘	4.84	0.86	0.65	7.07	
71	Cトレンチ	第6層	鉗釘	4.74	1.5	1.17	20.06	
72	Cトレンチ	第6層	不明	3.9	1.1	0.87	7.18	

第2節 立会調査

調査地区 光構内

調査期間 平成12年2月7・14・21日・3月3日

調査面積 179.3 m²

調査結果 (Fig.17・18・34, PL.33・34)

給水管新設工事に伴い、立会調査を行った。地点名は試掘調査からの連番である。以下各地点の調査結果について報告する。

H地点の層序は現地表下約60cmまでが表土・造成土、以下60~70cmが黄褐色細砂で、同層上面で佐野焼の壺を使用した埋甕 (Fig. 34-2) を検出した。検出した平面形は43cm×50cm、深さは約20cmである。埋土は貝殻を含む造成土（黒褐色土）で、同一個体とみられる口縁部 (Fig. 34-1) や胴部片が出土地した。内面に石灰質が付着することから便壺であつた可能性がある。検出面、口縁部形態から19世紀後半の遺構と考えられる。

I地点の層序は現地表下30cmまでが造成土で、以下30~64cmが淡黄色（2.5Y8/4）礫、64~84cmが黒褐色（10YR3/2）細砂、84~100cmが黄褐色（2.5Y5/4）細砂、100~120cmが灰黄褐色（10YR4/2）砂、床面が明黄褐色（10YR7/6）粗砂であった。黒褐色砂上面で近代とみられる石積を検出した。また、灰黄褐色砂から土師器片 (Fig. 34-3・4) が出土した。

J-1地点の層序は現地表下39cmまでが造成土で、以下39~113cmが暗黄褐色砂礫、110~123cmが明黄褐色砂礫、床面が淡黄色砂であった。床面から直径14cmのピットを検出した。埋土は黒褐色砂である。掘削は行っておらず遺物は出土していない。

J-2 地点の層序は現地表下 57 cm までが表土・造成土で、以下 57 ~ 116 cm が暗褐色砂礫で部分的に 93 ~ 116 cm が明黄褐色砂礫、116 ~ 160 cm が淡黄色砂、160 ~ 186 cm が灰白色砂であった。壁面を精査した結果、淡黄色砂上面から掘り込まれた Pit1(断面幅約 14 cm、深さ 70 cm) Pit2(断面幅 40 cm 以上、深さ 70 cm) を検出した。遺物は出土しなかった。

K 地点の層序は現地表下 146 cm までが表土・造成土、以下 146 ~ 190 cm が青黒色砂、190 ~ 220 cm が黄褐色砂、床面が暗オリーブ砂であった。青黒色砂から土師器竈形土器片(Fig. 34-5・6)、須恵器片(Fig. 34-7~9) が出土した。

L 地点は現地表下約 60 cm まで掘削を行ったが、既設管が錯綜した状態ですべて造成土の範囲内であった。

上記以外の地点では、造成土や近世～近代の遺物包含層等から少量の土器片、土師器片、陶器片、磁器片が出土した。

出土遺物について報告する。1・2 は H 地点埋甕に使用された佐野焼(瓦質土器)の甕。1 は口縁部。口縁部は直立し、外面を肥厚させて 1 条の沈線を施す。内面にくびれはなく内溝する。以上の特徴は上山佳彦氏による編年¹⁾では 7 ② A 型式に相当し、概ね 19 世紀に位置づけられる。2 は胴～底部。内外面にナデを施し、タタキによる凹みがある。また、内面に石灰質の付着がみられる。

3・4 は I 地点灰黄褐色砂出土の土師器。3 は甕口縁部で外面にヨコナデを施す。4 は高壺の坏～脚部。摩滅で判然としないが、内外面にミガキを施す。

5～9 は K 地点青黒色砂出土土器。5～6 は土師器竈形土器の掛口～底部。付け広で、接合面で剥離する。外面にナデを施す。7～9 は須恵器。7 は坏蓋天井部。8 は甕胴部。外面に平行タタキ(1 条 1.5 mm 7 mm / 3 条)の後、帶状にカキメを施す。内面には同心円状の当て具痕が残る。9 は短頸壺の口縁～胴部。以上の土器は 7 の形状等から概ね 6 世紀前半に位置づけられる。

立会調査では、光構内で初となる近世～近代の埋甕を H 地点で検出した。J-1・2 地点で検出されたビットは古墳時代である可能性が高い。このほか、I・K 地点で古墳時代の遺物包含層を検出したことも注目される。後者については前節も参照されたい。

[注]

1) 上山佳彦「Vまとめ4 埋甕遺構について」『東福寺・黒山遺跡(東大円・上徳田地区)』、山口県埋蔵文化財センター、2003 年)

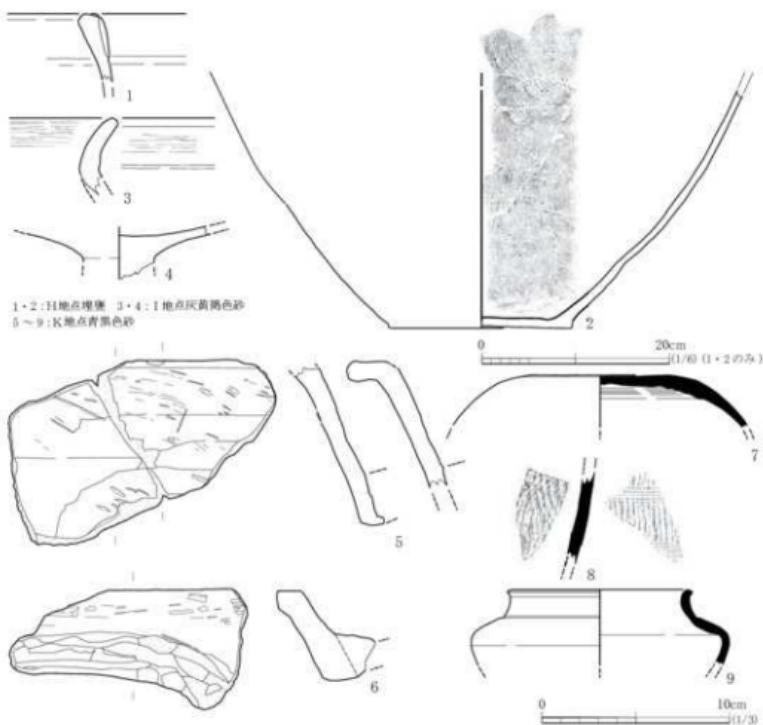


Fig.34 出土遺物実測図(土器)

Tab.7 出土遺物観察表(土器)

法量()は復元值

遺物 番号	出土地図・ 遺構	層位	器種	部位	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	色調 ①底面②内面	胎土	備考
1	H地点 理塚		瓦質土器	甕	口縁部			①②に赤~黄色 に赤~青褐色	0.5~7mmの砂粒を少 量含む	佐野焼
2	H地点 理塚		瓦質土器	甕	胴~ 底部			①赤褐色	0.5~5mmの砂粒を含 む	
3	I地点	灰黃褐色砂	土師器	甕	口縁部			①に赤~黄色 に赤~青褐色	0.5~7mmの砂粒を少 量含む	
4	I地点	灰黃褐色砂	土師器	高壺	胴~ 脚部			①赤褐色 ②に赤~青色	0.5~5mmの砂粒を少 量含む	
5	K地点	青黒色砂	土師器	甕	胴口~ ~底部			①②明赤褐色	0.5~6mmの砂粒を含 む	
6	K地点	青黒色砂	土師器	甕	胴口~ ~底部			①②明赤褐色	0.5~6mmの砂粒を含 む	
7	K地点	青黒色砂	須恵器	壺	天井部			①赤褐色	0.5~7mmの砂粒を少 量含む	
8	K地点	青黒色砂	須恵器	甕	胴部			①②灰黄色	0.5~1mmの砂粒を僅 かに含む	
9	K地点	青黒色砂	須恵器	甕	口縁~ 胴部	(9.9)		①②灰褐色	0.5~1mmの砂粒を少 量含む	

第4章 平成11年度山口大学構内の立会調査

第1節 吉田構内の立会調査

1 第2学生食堂増築その他に伴う屋外電力線路施設整備工事に伴う立会調査

調査地区 吉田構内 O-15・16

P-14

調査期間 平成11年5月10～14日

調査面積 約6.6m²

調査結果 (Fig.35～38, PL.36～38)

第2学生食堂の増築及び改修工事に関連して、周辺の屋外電力線路を整備し、ルートを変更することになった。上記工事に伴い、A～D地点で立会調査を行った。なお、C・D地点では事前に施工業者の協力の下、遺構面まで掘削を行い、調査を実施した。

A地点の層序は、現地表下52cmまでが造成土で、以下52～152cmが赤褐色の岩盤であった。B地点の層序は、現地表下20cmまでが表土・耕土で、以下20～96cmが明橙色粘土、96～174cmが赤褐色の岩盤であった。

C地点は農学部実験畑に位置する。Fig.36の方位は磁北を示す。層序は下記の通りである。第1層：耕土（層厚51～72cm）、第2層：水田耕土（明緑灰色（5G7/1）粘質土 層厚4～10cm）、第3層：水田底土（明黄褐色（2.5Y6/8）粘質土 層厚5～11cm）、第4層：遺物包含層（灰黄色（2.5Y6/2）シルト 層厚4～17cm）、第5層：第1遺構面形成層・遺物包含層（黒褐色（2.5Y3/1）粘質土 層厚3～16cm）、第6層：遺物包含層（黄褐色（2.5Y5/3）粘質土 層厚6～19cm）、第7層：弥生時代以降の遺構面形成層（明緑灰色（7.5G8/1）シルト 淡黄色（5Y8/4）淡黄色粘質土ブロックを含む 層厚約20cm）。

実験畑は統合移転前に存在した水田を埋めて利用されている。第4～6層は遺物包含層である。第4層は色調から中世の可能性が高い。土器量は少ない。第5層からは弥生土器片、土師器片、須恵器片、白磁片、土師質土器片、剥片が出土した。主体は弥生時代・古代の土器



Fig.35 調査区位置図

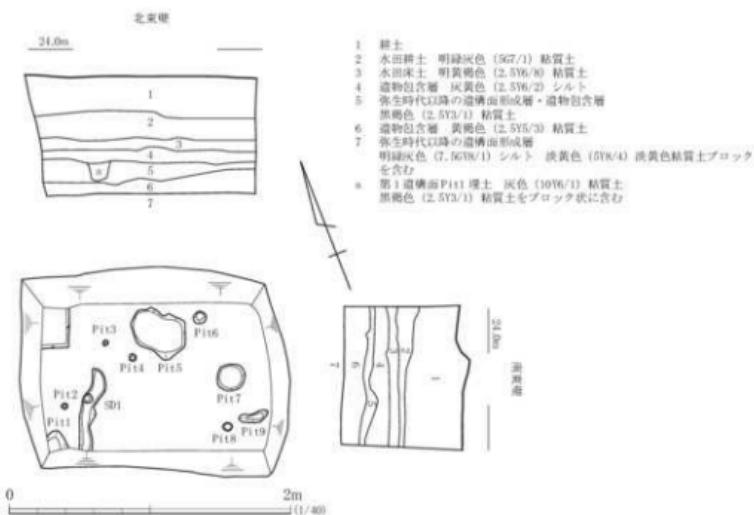


Fig. 36 C地点平面図・土層断面図

で、白磁片、土師質器片は機械掘削時の混入である可能性が高い。また北東壁では上面でPit1を検出した。第6層は遺物包含層である。第7層に近似するが、土器片、須恵器片、剥片が出土した。第7層上面の第2遺構面では溝1条、ピット9基を検出した。なお、同層の層厚は工事掘削時に確認した。

第1遺構面Pit1は断面幅16cm、深さ12cmである。出土遺物はない。第2遺構面SD1は長さ58cm以上、幅12cm、深さ3cmである。第2遺構面Pit1~9は杭の可能性があるPit2~4・8と直徑もしくは最大幅が10cm以上のPit1・5~7・9があるが、いずれも深さは6cm以内であった。埋土はPit7が暗灰黄色(2.5Y5/2)シルトと黒褐色(2.5Y3/1)シルトで、他は黒褐色(2.5Y3/1)シルトであった。SD1から土器片、須恵器片(Fig. 38-1)、Pit4・5・9から土器片が出土した。

D地点の層序は下記の通りである。第1層：造成土(層厚12~39cm)、第2層：水田耕土(緑灰色(5G7/1)シルト 層厚12~21cm)、第3~10層：河川埋土(Fig. 37参照 層厚89~97cm)。第11~12層：弥生時代以降の遺構面形成層(青灰色(10BG5/1砂礫・岩盤) 層厚21cm以上)。水田耕土以下で河川埋土を検出し、古代の土器が出土した(Fig. 38-11~14)。

出土遺物(Fig. 38)について報告する。1~10はC地点出土土器。1はSD1出土の須恵器無高台杯底部。焼成不良で摩滅する。2~9は第5層出土土器。2は弥生土器壺の底部。摩滅

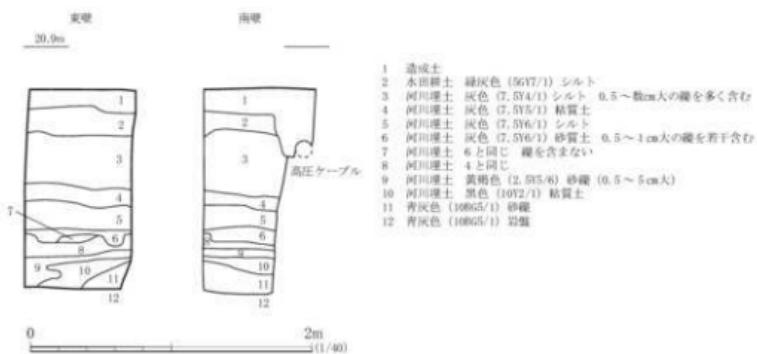


Fig.37 D地点土層断面図

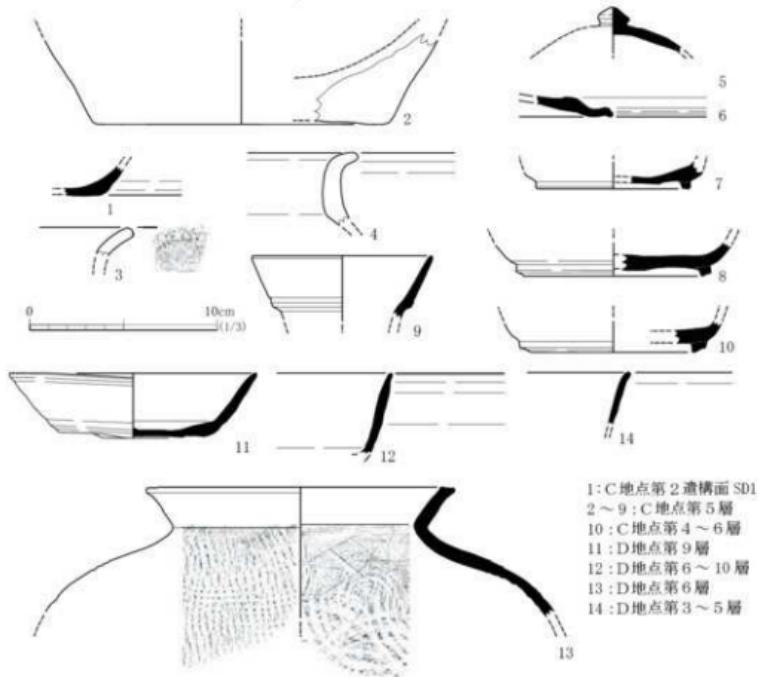


Fig.38 出土遺物実測図 (土器)

が著しい。砂粒を多く含むことから弥生時代前期～中期初頭と考えられる。3は弥生土器甕口縁部。4は土師器甕口縁部。5は須恵器壺蓋天井部。宝珠状のつまみがつく。6は須恵器壺蓋口縁部。7・8は須恵器高台付壺の胴～底部。9は須恵器壺口縁部。10は第4～6層出土の須恵器高台付壺の胴～底部。11～14はD地点河川出土土器。11は須恵器無高台壺。全体的に歪みがみられる。12・14は須恵器壺口縁～胴部。13は須恵器甕口縁～胴部。胴部外面には平行タタキ（1条2.5mm・10mm/3条）を施す。内面には同心円状の当て具痕が残る。

今回の調査ではC地点で遺物包含層と遭構面2面を確認し、弥生土器、古代の土師器、須恵器を主体とする遺物が出土した。また、D地点では河川埋土を検出し、古代の土師器、須恵器が出土した。C・D地点で出土した古代の須恵器は第2学生食堂敷地で出土した遺物と様相が近似している。C地点の状況は第2学生食堂敷地で確認された遭構・遺物がさらに東側に展開していることを示し、D地点の遺物は北側に位置する第2学生食堂・農学部実験棟から廃棄された可能性が高い。

[注]

- 1) 山口大学埋蔵文化財資料館「吉田構内第2学生食堂の増築及び改修工事に伴う発掘調査」(『山口大学構内遺跡調査研究年報 XVII』、2021年)

Table.8 出土遺物観察表(土器)

遺物 番号	出土地C・ D構造	層位	器種	部位	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	色調 (①外壁②内面)	釉土	法量()は復元値	備考
1	C地点	SBI	須恵器 壺	底部				①灰白色	0.5～1mmの砂粒を少 量含む		
2	C地点	第5層	弥生土器 甕	底部	(8.6)			①に②・黄褐色 ②西黄色	0.5～1mmの砂粒を多 く含む		
3	C地点	第5層	弥生土器 甕	口縁部				①に②・黄褐色 ②に③・黄褐色	0.5～2mmの砂粒を少 量含む		
4	C地点	第5層	土師器 甕	口縁部				①に②・黄褐色 ②に③・黄褐色	0.5～2.5mmの砂粒を 多く含む		
5	C地点	第5層	須恵器 壺蓋	天井部				①灰白色	0.5～1mmの砂粒を少 量含む		つまみ部径1.75cm
6	C地点	第5層	須恵器 壺蓋	口縁部				①青灰色 ②珊瑚紅色	0.5～2mmの砂粒を少 量含む		
7	C地点	第5層	須恵器 高台付 壺	胴～ 底部	(8.9)			①灰褐色	0.5～1mmの砂粒を少 量含む		
8	C地点	第5層	須恵器 高台付 壺	胴～ 底部				①灰白色	0.5～1mmの砂粒を少 量含む		
9	C地点	第5層	須恵器 甕	口縁部	(8.6)			①灰白色	0.5～2mmの砂粒を少 量含む		
10	C地点	第4～6層	須恵器 高台付 壺	胴～ 底部	(8.6)			①灰白色	0.5～1mmの砂粒を少 量含む		
11	D地点	第9層	須恵器 壺	口縁～ 底部	(13.0)	8.0	3.5	①青灰色 ②オーバー灰褐色	0.5～2mmの砂粒を少 量含む		
12	D地点	第6～10層	須恵器 壺	口縁～ 底部				①灰褐色	0.5～2mmの砂粒を少 量含む		
13	D地点	第6層	須恵器 甕	口縁～ 底部	(16.4)			①灰褐色 ②に③・褐色	0.5～2.5mmの砂粒を 少量含む		
14	D地点	第3～5層	須恵器 壺	口縁～ 底部				①灰褐色 ②に③・褐色	0.5～2mmの砂粒を少 量含む		

2 九田川河川局部改良工事に伴う立会調査

調査地区 吉田構内 F・G=13、G・H=12

調査期間 平成11年6月1日、8月9日、12月14日

調査面積 約222m²

調査結果

平成11年度分の工事として、長さ約111m分について、現地表下約5～6mまで掘削が行われた。調査の結果、現地表下約1.4m以下で地山（弥生時代以降の遺構面形成層）及び河川堆積土を検出した。今回の調査でも、地山の直下、現地表下1.6mで、平成9年度の調査¹⁾で地山の一部と考えられている黒褐色粘土が検出された。また、地山の直上で遺物包含層か遺構埋土の可能性がある黒褐色粘土を複数箇所で確認したが、遺物は出土しなかった。

なお、平成10～12年度の調査区の境界に誤りがあったので訂正する。上記に伴う平成10年度の調査面積は約60m²、12年度の調査面積は約617m²である。

[注]

- 1) 山口大学埋蔵文化財資料館「九田川河川局部改良工事に伴う立会調査」（『山口大学構内遺跡調査研究年報XVI・XVII』、2004年）
- 2) 山口大学埋蔵文化財資料館「九田川河川局部改良工事に伴う立会調査」（『山口大学構内遺跡調査研究年報XVIII』、2021年）
- 3) 山口大学埋蔵文化財資料館「九田川河川局部改良工事に伴う立会調査」（『山口大学構内遺跡調査研究年報XX』、2017年）



Fig.39 調査区位置図

3 第2学生食堂北西擁壁新設工事に伴う立会調査

調査地区 吉田構内 N・O-14

調査期間 平成11年11月25日

調査面積 約43m²



Fig.40 調査区位置図

調査結果 工事は第2学生食堂の増築及び改修工事に伴い、第2学生食堂の北西側に擁壁を新設するものである。削平が著しいことが予想されたが、確認のため調査を行った。調査の結果、表土直下で地山が検出され、埋蔵文化財に支障はなかった。

4 サッカーフィールド南側防球ネット新設工事に伴う立会調査

調査地区 吉田構内 G・H-22

調査期間 平成12年3月10日

調査面積 約3.2m²



Fig.41 調査区位置図

調査結果 工事は防球ネット新設に伴い、平面形約80cm×80cm・深さ約50cmの基礎を5箇所で掘削するものである。調査の結果、現地表下25～35cm以下で地山もしくは河川埋土と考えられる土層を検出したが、遺物は出土せず、埋蔵文化財に支障はなかった。

5 第1体育館・共通教育本館スロープ新設工事に伴う立会調査

調査地区 吉田構内 H-15、K-15・16

調査期間 平成12年3月22・23・30日

調査面積 約201.1m²

調査結果

工事は共通教育本館と第1体育館の北側にスロープの新設を行うものである。調査の結果、共通教育本館北側では現地表下約40～76cmで統合移転前の水田耕土を検出した。第1体育館北側は既設管による搅乱が著しかったが、現地表下約70cm前後の掘削底面付近で統合移転前の水田耕土と水田床土を検出した。

共通教育棟本館ではその後の改修工事に伴う調査¹⁾で、弥生時代前期から古墳時代前期の遺物を含む河川が検出されている。今回調査区にも延長部分が存在する可能性が高く、埋蔵文化財の保護に引き続き注意を払う必要がある。

[注]

1) 山口大学埋蔵文化財資料館「教育総合研究センター改修Ⅱ期工事に伴う予備発掘調査」(『山口大学埋蔵文化財資料館年報－平成17年度－』、2007年)

山口大学埋蔵文化財資料館「教育総合研究センター改修Ⅱ期工事に伴う立会調査」(『山口大学埋蔵文化財資料館年報－平成18年度－』、2010年)



Fig.42 調査区位置図

6 基幹環境整備工事（外灯新設）に伴う立会調査

調査地区 吉田構内 I-12、K・L-18、L-15、M・N-17

調査期間 平成12年3月21・27・30日

調査面積 約4m²



調査結果

吉田構内で基幹環境整備の一環として、7箇所で外灯が新設されることになり、立会調査を行った。工事では、現地表下約70～140cmまで掘削が行われた。調査の結果、正門南東側、事務局1号館南側の地点は全て造成土の範囲内であった。その他の地点では統合移転前の水田耕土・水田床土や地山を検出したが、遺構はなかった。図書館南東側の地点からは、水田耕土から須恵器壺胴部が1点出土した。

Fig.43 調査区位置図



Fig.44 調査区位置図

付篇

山口市荻崎遺跡出土土器について

田畠 直彦

1 はじめに

荻崎遺跡は山口市下宇野町荻崎に位置する弥生～古墳時代の遺跡である。小野忠熙氏による『山口県の考古学』では、「花崗岩丘の頂からその南東の丘麓にかけて立地する弥生中期（II期からIII期）の集落遺跡である」とされ、調査履歴についても簡潔にまとめられている。また、山頂付近は弥生時代の高地性集落であり、『高地性集落跡の研究 資料篇』にも記載されている。¹⁾しかし、これまで出土遺物については未公表であった。当館は小野忠熙氏らにより荻崎遺跡で採集された土器を保管している。本稿では、既往の調査地点・内容を整理した後、当館所蔵資料を紹介し、荻崎遺跡の位置づけについて考察する。

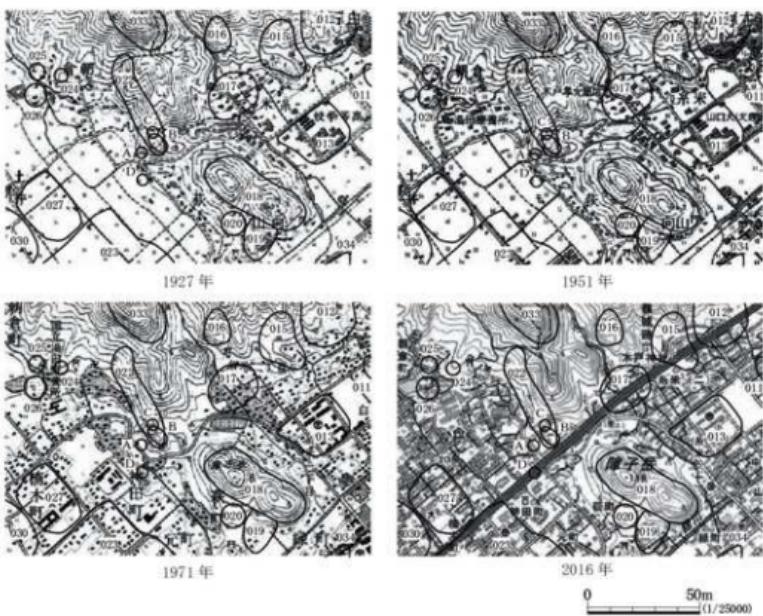
2 既往の調査地点と調査区

荻崎遺跡とその周辺は地形の改変が著しいため、現況と比較して旧地形を理解することが困難である。このためFig. 45では、最新のほか旧番地図（測量年：1927年・1951年・1971年）で周辺遺跡を含めた遺跡の範囲・荻崎遺跡の調査地点を示した。荻崎遺跡の指定範囲は大部分が小起伏山地で、北部の一部が砂礫台地上に位置する。²⁾

（1）三宅宗悦氏報告地点及び宮本光胤氏・山本博氏調査地点

荻崎遺跡に関する最初の記録は三宅宗悦氏によるものである。三宅氏は山口高等学校内（糸米庁川遺跡）の発掘調査報告の際、文末に遺跡一覧表を掲載した。その中に「山口町荻崎」で「獣生式土器（鉢形底部）」の記載がある。また、同氏が提示した「2 周防國吉敷郡大字上宇野町糸米山口高等學校遺物包含地実測圖」に出土地点が記載されている。図を拡大して確認すると出土地点は標高50m付近に位置する（Fig. 45-A 地点）。1927年の地図ではこの付近に崖面がある。また、米軍撮影写真（PL. 39 (1)）でも崖面が確認できる。

宮本光胤氏・山本博氏もA地点を調査し、その結果を報告した。³⁾同報告によると、層厚約1m前後の包含層が崖面に露出しており、宮本氏・山本氏は弥生土器のほか、磨製石斧、砥石、敲石を採集した。筆者の編年觀では、採集された弥生土器は中期II～IVに位置づけられる。



番号	名称	時代	番号	名称	時代
011	糸米五反田遺跡	中世	022	萩崎遺跡	弥生・古墳
012	鴻ノ峰墳墓群	古墳	023	湯田条里跡	弥生・中世
013	糸米広川遺跡	縄文・中世	024	紙園ヶ森古墳	古墳
015	糸米遺跡	弥生・古墳	025	朝倉大歳遺跡	弥生～中世
016	木戸神社古墳	古墳	026	朝倉遺跡	弥生、古墳
017	糸米上野遺跡	弥生	027	湯田楠木町遺跡	弥生、古墳
018	隣子ヶ岳城跡	中世	030	赤妻遺跡	弥生、中世
019	隣子ヶ岳南遺跡	弥生・古墳	033	兄弟山城跡	中世
020	權現山古墳	古墳	034	中込田遺跡	縄文、弥生、中世

- A 三宅宗悦氏報告地点（三宅 1927）及び
宮本光胤氏・山本博氏調査地点（宮本・山本 1937）
B 小野忠熙氏らによる調査地点（小野編 1979）
C 山口県教育委員会調査区1（森江・辻田 1974）
D 山口県教育委員会調査区2（山口県教育委員会 1975）

※遺跡番号・遺跡名・時代・
遺跡範囲は山口市教育委員会
2016による

Fig.45 萩岬遺跡位置図

(2) 小野忠熙氏による調査地点

小野忠熙氏は『山口県の考古学』で、「昭和二十六（一九五一）、村田益男氏が花崗岩丘の麓の土取場で竪穴跡と弥生土器や炭化したドングリを発見し、著者らが探査の結果丘の頂

にも土器が出土することを明らかにした。」と記載している。『高地性集落跡の研究 資料篇』では位置・地形の特色として、「山口盆地の北部一帯につらなる丘陵の1つの頂上に立地し、盆地の主要部を見渡すことができる。四方は急崖をなし、登り降りは極めて困難。」と記載し、頂部を中心とする範囲を遺跡範囲としている(Fig. 45-B 地点)。1970年代には遺跡とその周辺の土取りがかなり進行しており、1971年の地図で上記の状況が看取できる。なお、『同 資料篇』では遺跡の標高110m、比高50mとしているが、1971年の地図では最高地点が約60m、破壊前の1927年、1951年の標高は約80mである。また、後述するD地点の遺構面から、比高は約61mである。

村田益男氏による調査については『島田川』掲載の「山口縣先史時代遺跡遺物発見地名表」に記載がある。¹⁰⁾ 上記の記載内容は下記の通りである。遺跡の種類：「堅穴・包」遺跡及び遺跡地の現況：「標高30～60m。比高14.9～44.9m。堀地～山林、山麓鞍部斜面」、遺物の種類：「彌土(破、30)」、発見年月日：26. 10. 8、保管場所及び保管者：「山口大学」、備考：「附近に土師器散布、中期」。

上記と小野氏による記載「花崗岩丘の頂からその南東の丘麓にかけて立地」から、村田氏の調査地点はB地点南部とその南東側であったと考えられる。前述の米軍撮影写真にと1951年の地図には、B地点南東側に土取場に該当するとみられる崖面がある。

(3) 山口県教育委員会調査区1

1973年4月24日に内部に人骨を残す石棺1基が発見され、同年5月1～3日に山口県教育委員会により発掘調査が行われた。¹¹⁾ 調査区の位置は注10文献図1の縮尺が小さいため判然としない。しかし、「標高約59m、水田からの比高約34mの丘陵の頂上近くに位置しているが、丘陵の周辺が削り取られたり、市道の開さくなどによって独立丘のような地貌をなしている」との記載、注10文献図版1・2で示された写真、1971年の地図から、當時残されていた山地部(Fig. 45-C 地点)であったと考えられる。

発掘調査では、最初に発見された石棺(1号石棺)ともう1基石棺(2号石棺)が検出された。1号石棺(内法幅約40cm・長さ240cm前後)は棺内全面に赤色顔料が塗布されており、頭骨を除いた1体分の人骨と鉄鏃1点が出土した。2号石棺(内法幅35～40cm、長さ約175cm)は棺内全面に赤色顔料が塗布されており、棺内から1体分の頭骨が出土した。石棺の時期は人骨を除く遺物が鉄鏃1点のみであるため、詳細は不明である。しかし、報告で山口市乗ノ尾石棺(乗ノ尾石棺群)、象頭山石棺(象頭山墳墓群)、茶臼山石棺(茶臼山墳墓群)、美祢市内川石棺(内川古墳)¹²⁾と立地・規模・構造が類似することが指摘されている。上記の

石棺は弥生時代終末期～古墳時代前期とみられることから、萩岬遺跡1・2号石棺も弥生時代終末期～古墳時代前期と考えられる。なお、A～C地点はその後削平され、現在はスカパーJSAT株式会社スーパーバード山口ネットワーク管制センター敷地となっている。

(4) 山口県教育委員会調査区2

国道9号線・山口バイパスの建設工事に伴い、1974年9月11～10月18日に山口県教育委員会によって発掘調査が実施された。^[4]調査区は山麓の傾斜面に存在した水田である(Fig. 45-D地点)。調査の結果、標高約18.5～18.7mで古墳時代の土壌1基(KP-1)と弥生時代の重複した土坑5基の土壌群(YP-2)、ドングリ(イチイガシ・アラカシの堅果)多数を含む弥生時代の土壌(YP-1)が検出されたと報告されている。筆者の編年観では、KP-1出土土器は弥生時代終末期～古墳時代前期、YP-1出土土器は弥生時代前期・弥生時代中期(中期II～III)、YP-2出土土器は弥生時代中期(中期I～II)、弥生時代終末期である。YP-1出土の弥生時代前期の土器は混入であろう。

ドングリピットであるYP-1以外の土壌の性格は不明であるが、混入とみられる弥生時代前期の土器を除くと、主体となる時期は弥生時代中期(中期II～III)、弥生時代終末期～古墳時代前期である。

3 出土土器

当館で保管されている萩岬遺跡出土土器の多くには注記がある。以下で紹介する土器の日付には1953(昭和28)年5月3日・6月10・15・17・29日・11月12日がある。また、5は注記に「南斜面」の記載があるので、B地点南側の出土と推測される。一方、推測したものを含めてA・C・D・I地区の記載がある。詳細な出土地点は不明であるが、小野氏が記載した内容と遺跡分布から、山頂部を含むB地点内の複数箇所から出土した土器と考えられる。

1～10は弥生時代中期の土器である。1は壺の口縁部。口唇部をやや肥厚させる。2は壺の胴部。外面に2条の貼付突帯、内面にミガキを施す。外面は摩滅するが突帯はその形状から逆M字状であった可能性が高い。須玖式系であろう。3は甕の口唇部。面取りを行い全面に刻目を施す。4・5は甕の口縁～胴部。4は口唇部に面取りを行う。外面にタテハケ、口縁部内面にヨコハケ・胴部内面にタテナデを施す。外面にはスヌが付着する。5は口唇部を丸くおさめる。摩滅により内外面とも調整は不明。6・7は甕の胴部。6は外面に1条の刻目突帯を施す。刻目はO字状であるが、摩滅により原体は不明。内面にはヨコミガキを施す。7も外面に1条の貼付突帯を施す。内外面ともナデを施す。8は甕の口縁～胴部。口縁部は「く」

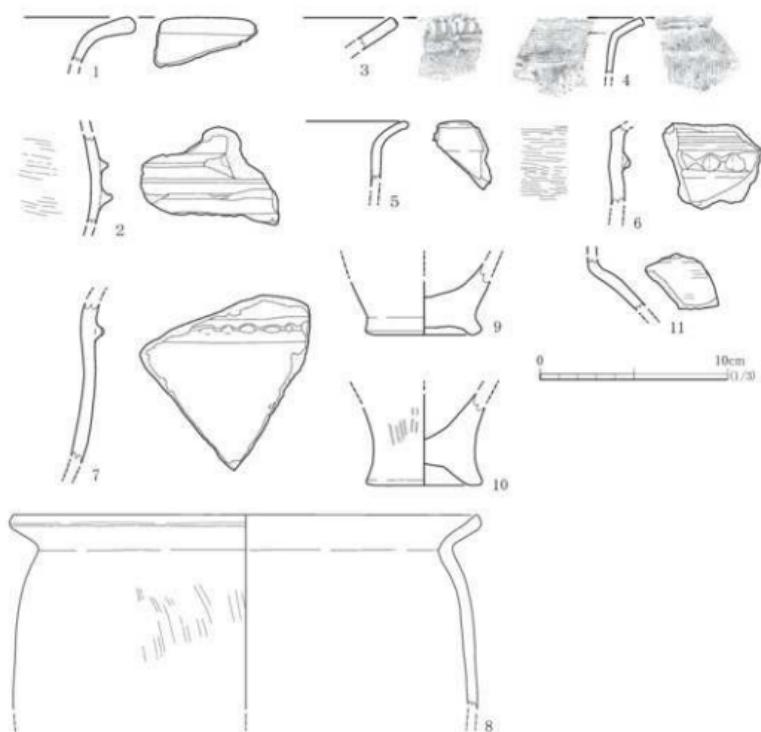


Fig.46 出土遺物実測図(土器)

字状に外反し、胴部がやや張り出す。口縁部内外面はヨコナデ、胴部外面はタテミガキを施す。胴部内面の調整は摩滅で判然としないが、タテハケ後ナデとみられる。9・10は壺の底部。いずれも底部がやや張り出し、上げ底である。以上の土器は、1・3～8が中期II～III、2が中期III～IV、9・10が中期II～IVの時期幅で捉えられる。主体は中期II～IIIである。

11は弥生時代終末期～古墳時代前期の小型壺の胴部で、外面にヨコミガキ、内面にはナデを施す。この他、図化していないが内外面にミガキを施す壺胴部片(PL. 39)がある。時期の断定はできないが、弥生時代中期の可能性が高い。注記は「ogi D 28.11.12」である。

4 考察

以上の検討結果から、各地点・調査区については下記のようにまとめることができる。A地点では時期不明の鉢の底部、石器（磨製石斧・砥石・敲石）、中期II～IVの土器、山頂部を含むB地点では弥生時代中期（中期II～IV）の土器が採集された。またB地点南部から南東側においても弥生時代中期の土器が採集され、B地点南東側では竪穴も確認された。発掘調査では、C地点で弥生時代終末期～古墳時代前期の石棺2基、D地点では、弥生時代中期（中期II～III）の土壙1基、弥生時代中期（中期I～II）・弥生時代終末期の重複した土壙5基、弥生時代終末期～古墳時代前期の土壙1基が検出された。

B地点出土土器から、山頂部に集落が存在したのは中期II～IVと考えられる。荻岬遺跡の南西約1kmには、中期IIの環濠集落である朝田墳墓群第II地区⁽¹⁷⁾、北西約1kmには環濠が存在したとされる龜山遺跡（中期II～IV）がある。B地点の山頂部付近から南東側の山口市大内方面は障子ヶ岳により見通せないが、南西側では朝田墳墓群第II地区、さらにその先の当時は海であったとみられる新山口駅北側、北東側では龜山遺跡を見通すことができた。一方、龜山遺跡からは山口市大内の一部と新山口駅北側の一部を見通せるが、障子ヶ岳により朝田墳墓群第II地区を見通すことができない。上記を踏まえれば、荻岬遺跡は山口盆地の構野川右岸における情報伝達・物流上の拠点的な集落であった可能性がある。一方、D地点でも中期II～IIIの土器を出土した遺構が検出されていること、詳細な時期は不明だがB地点南部から南東側でも弥生時代中期の土器が採集されていることから、中期II～IIIには山頂部と山麓部に集落が存在したと考えられる。なお、龜山遺跡の東の麓に位置する松柄遺跡⁽²⁸⁾でも弥生時代中期の土器が出土し、朝田墳墓群第II地区の南西約130mの地点でも弥生時代中期～終末期の土器が出土していることから、同様な状況を両遺跡でも想定できる。ただし、いずれも資料が少ないと、実年代幅からこれらの高地性集落と山麓部の集落が同時期に存在した可能性については断定困難である。

上記を検討する上で参考となるのが府防市大崎遺跡の状況である。同遺跡では丘陵頂部に中期II～IIIの環濠集落があり、穂積みされた状態の稲が出土している。また、低地部には中期II～IIIの小規模な集落と水田に間連するとみられる中期以降の用水路が検出されている。上記から、周防の高地性集落には単独で存在せず、その麓には小規模な集落と水田などの生産域が存在する類型が想定できるので、今後の発掘調査を踏まえた検討を待ちたい。

なお、荻岬遺跡のYP-1の花粉分析では、アカガシ亜属の花粉が優占でイネ科の花粉はきわめて少ないとなどから、「YP-1形成当時の荻岬遺跡周辺は森林密度のいちじる

しく高いカシ・シイ林で被われていたことを示している」と分析されている¹¹⁾。上記からD地点に存在した集落は小規模であり、関連する水田等の生産域は湯田楠木町遺跡や湯田条里跡が位置する南西側に存在したと推測する。

弥生時代終末期～古墳時代前期については情報が少ないが、C地点及びその周辺に墓地が存在したほか、B地点の土器、村田氏の調査から集落も存在した可能性がある。

5 おわりに

本稿では、荻崎遺跡の既往の調査地点・内容の整理と当館所蔵資料の紹介を行い、荻崎遺跡の位置づけについて考察した。その結果、荻崎遺跡には弥生時代中期（中期Ⅱ～Ⅲ）に山頂部と山麓部に集落が存在したこと、山頂部の標高・比高は修正が必要であることを指摘した。また、山頂部～山麓部に存在した集落は、山口盆地における根野川右岸の情報伝達・物流上の拠点的な集落であった可能性を考えた。先行研究との関連や山口盆地全体の集落遺跡の動向等については、別稿で改めて検討を行いたい。

本稿はJSPS科研費（20K01074）の研究成果の一部を含む。

[注]

- 1) 小野忠熙『山口県の考古学』、吉川弘文館、1985年
- 2) 小野忠熙編『高地性集落跡の研究 資料篇』、学生社、1979年
- 3) Fig. 45では下記の地図を使用した。測量年：1927年（陸地測量部1930年発行 25000分の1地形図「山口」）、1951年（地理調査所1954年発行 25000分の1地形図「山口」）、1971年（国土地理院1973年発行 25000分の1地形図「山口」）、2016年（国土地理院2016年発行 25000分の1地形図「山口」）
- 4) 遺跡の地形分類は山口県環境生活部環境政策課の快適環境づくりシステム地理情報システム（<https://eco-gis.pref.yamaguchi.lg.jp/>）による。
- 5) 三宅宗悦「周防國吉敷郡山口町糸米山口高等學校構内土器包含地發掘調査報告」（山口高等學校歴史教室『山高郷土史研究會考古學研究報告書－台覧記念號』、1927年）
- 6) 宮本光胤・山本博1937「山口市吉敷附近の彌生式遺跡」（『考古学雑誌』第27卷10号、1937年）
- 7) 田畠直彦「周防・長門における弥生時代前期から古墳時代前期前半の土器編年をめぐる研究史と今後の課題」（『山口大学埋蔵文化財資料館年報－平成22年度－』、2014年）
- 8) 前掲注1文献
- 9) 前掲注2文献

- 10) 小野忠熙編「山口縣先史時代遺跡遺物発見地名表」(『島田川 周防島田川流域の遺跡調査研究報告』、1953年)
- 11) 前掲注1文献
- 12) 森江直紹・辻田耕次「萩崎石棺」(『山口県文化財』第4号、1974年)
- 13) 山口県教育委員会『内川古墳・乘ノ尾遺跡』、1973年
- 14) 山口県教育委員会『茶臼山石棺群・大伴石棺調査報告書』、1978年
- 15) 前掲注13文献
- 16) 山口県教育委員会「萩崎遺跡」(『下東遺跡・萩崎遺跡』、1975年)
- 17) 山口県教育委員会『朝田墳墓群V』、1982年
- 山口県教育委員会『朝田墳墓群VI』、1983年
- (財) 山口県ひとづくり財団・山口県埋蔵文化財センター『朝田墳墓群III』、2009年
- 18) 田畠直彦「12 龜山遺跡」(『山口市史 資料編』考古・古代、2012年)
- 19) 浜田清吉『山口市後河原の遺物発見地』山口大学教育学部、1953年
- 20) 山口県教育委員会『朝田墳墓群II・鴨ノ峰1号墳』、1977年
- 21) 田畠直彦「山口県佐波川流域の弥生集落」(『古文化談叢』75、2016年)
- 22) 那須孝悌「山口市萩崎遺跡貯藏穴中の植物遺体及び花粉（予察）」(『下東遺跡・萩崎遺跡』、1975年)

Tab.9 出土遺物観察表(土器)

添量()は復元値 ●は不明

遺物番号	出土場所・遺構	層位	器種	部位	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	色調 ①外側②内面	胎土	備考
1			弥生土器 瓶	口縁部			0.5~2mmの砂粒を含む	● (25) 6.15萩崎 ● (A)		
2			弥生土器 瓶	胴部			①に赤い黄色 ②に赤い黄褐色	0.5~1.5mmの砂粒を含む 少量含む	28.6.15萩崎 (A) 吸水式系	
3			弥生土器 瓶	口縁部			①褐色 ②に赤い黄褐色	0.5~2mmの砂粒を少 量含む	28.6.10 ogl	
4			弥生土器 瓶	口縁~胴部			①灰褐色	0.5~2mmの砂粒を少 量含む	ogl (●) (D分) 28. 11.12	
5			弥生土器 瓶	口縁~胴部			①②に赤い黄褐色	0.5~4mmの砂粒を少 量含む	28.6.17 ogl (●) (I 分) 地区	
6			弥生土器 瓶	胴部			①に赤い黄褐色 ②黒灰色	0.5~1.5mmの砂粒を含む	萩崎南斜面28.5.3	
7			弥生土器 瓶	胴部			①褐色 ②淡黄色	0.5~3mmの砂粒を含 む	ogl 萩崎 (A) 28. ● (55).2	
8			弥生土器 瓶	口縁~胴部	(24.7)		①底に赤い褐色	0.5~3mmの砂粒を含 む	萩崎二八.六.二十 .No.12	
9			弥生土器 瓶	底部	6.7		①青褐色 ②赤褐色・青褐色	0.5~3mmの砂粒を含 む	萩崎No.3	
10			弥生土器 瓶	底部	(6.1)		①灰褐色	0.5~3mmの砂粒を含 む	ogl 萩崎 (A) No.1 (●) (北分) 区	
11	弥生土器 瓶	底部					①褐色 ②深褐色	0.5~1mmの砂粒を含 む	ogl C地区 (●) (25) ● 11	

山口大学構内遺跡調査要項

山口大学埋蔵文化財資料館規則

(設置)

第1条 山口大学に山口大学埋蔵文化財資料館（以下「資料館」という。）を置く。

(資料館の業務)

第2条 資料館は、学内の共同利用施設として、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 山口大学構内等から出土した埋蔵文化財の収藏・展示及び調査研究
- (2) 山口大学構内における埋蔵文化財の発掘調査並びに報告書の刊行
- (3) その他の埋蔵文化財に関する必要な業務

(運営委員会)

第3条 資料館に関する事項を審議するため、山口大学埋蔵文化財資料館運営委員会（以下「委員会」という。）を置く。

2 委員会に関する規則は、別に定める。

(館長)

第4条 資料館に館長を置く。館長は委員会の議を経て学長が委嘱する。

- 2 館長の任期は2年とし、再任を妨げない。
- 3 館長は、資料館の業務を掌理する。

(調査員)

第5条 資料館に調査員若干名を置く。

- 2 調査員は、委員会の議を経て館長が委嘱する。
- 3 調査員は、資料館の業務を処理する。

(特別調査員)

第6条 埋蔵文化財に関する特別な分野の調査研究を行うため、資料館に特別調査員若干名を置くことができる。

- 2 特別調査員は、委員会の議を経て館長が委嘱する。

(雑則)

第7条 この規則に定めるもののほか、資料館に必要な事項は別に定める。

山口大学埋蔵文化財資料館運営委員会規則

(趣旨)

第1条 この規則は、山口大学埋蔵文化財資料館規則（昭和53年規則第39号。以下「資料館規則」という。）第3条第2項の規定に基づき、山口大学埋蔵文化財資料館運営委員会（以下「委員会」という。）に関し、必要な事項を定めるものとする。

(審議事項)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 山口大学埋蔵文化財資料館（以下「資料館」という。）に関する基本的なこと。
- (2) 資料館の管理運営に関すること。
- (3) 資料館の整備充実に関すること。
- (4) 資料館の運営に要する経費に関すること。
- (5) その他必要な事項

(組織)

第3条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 資料館規則第4条第1項の館長
 - (2) 各学部の教官各1名
 - (3) 事務局長
- 2 前項第2号の委員は、それぞれの部局の推薦に基づいて学長が委嘱する。
- (任期)

第4条 前条第1項第2号の委員の任期は2年とし、再任を妨げない。

(委員長)

第5条 委員会に委員長を置き、委員の互選とする。

2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

(幹事)

第6条 委員会に幹事を置き、庶務部長、経理部長及び施設部長をもって充てる。

(委員以外の出席)

第7条 委員会が必要と認めたときは、委員以外の者を委員会に出席させることができる。

(事務)

第8条 委員会の事務は、庶務部庶務課において処理する。

(雑則)

第9条 この規則に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員会が定める。

Tab.10 山口大学埋蔵文化財資料館運営委員会委員

(平成11年度)

部局名	氏名	官職	任期	備考
人文学部	橋本義則	教授	平11.4.1～平13.3.31	
教育学部	末島浩	教授	平10.4.1～平12.3.31	
経済学部	木部和昭	講師 助教授 (平11.8.1～)	平11.4.1～平13.3.31	委員長
理学部	加納隆	教授	平11.7.16～平13.7.15	副委員長 (平11.7.16～)
理学部	福地龍郎	講師	平11.4.1～平13.3.31	
医学部	福本哲夫	教授	平10.4.1～平12.3.31	
工学部	中園眞人	教授	平11.4.1～平13.3.31	
農学部	高橋肇	助教授	平10.4.1～平12.3.31	
事務局	高石道明	事務局長	平10.4.1～平12.3.31	

山口大学構内の主な調査

Tab.11 山口大学構内の主な調査一覧表

吉田構内

調査年 度	調査名	構内地図	地点	面積 (m ²)	遺構	遺物	調査区分	備考	文献
昭和 41年	第I地区A・B区	L-N-15	1	30?	土壙・柱穴	弥生土器、土師器、須恵器	事前	調査担当 小野忠則	年報 11-11
	第II地区家畜病院新宮	R-20-21 S-T-19-20	2	2,000	溝、柱穴	弥生土器、土師器、瓦質土器、須恵器	#	#	年報 3
	第II地区		3			弥生土器、土師器	試験	#	
	第IV地区牛舎新宮	S-T-10-11	4	300	弥生溝・土壙、古墳整穴住居、中世住跡・溝	弥生土器、土師器、須恵器、瓦質土器、陶磁器	事前	#	年報 14
	第IV地区		5				試験	#	
昭和 42年	第III地区杭列区 および陸上競技場	D-19-20 E-17-19~21 F-17-18	6	1,600	杭列、弥生整穴住居	弥生土器、土師器、須恵器、瓦質土器、失板枕木板	事前	#	
	第III地区南区	G-21-23 H-22	7		河川跡、柱穴	圓文土器、弥生土器、木器、石器	#	#	①
	第III地区北区	H-20 I-19-21 J-20-21	8	1,400	整穴住居・溝、土壙、柱穴		#	#	
	第III地区東南区	G-23 H-23-24 I-J-24 K-23-24 L-23	9		弥生整穴住居	弥生土器	#	#	
	第III地区野球場		10		中世柱穴	瓦質土器	試験	#	
昭和 44年	第V地区学生食堂	J-20	11		弥生溝・古墳土壙	弥生土器、土師器	事前	#	
	第V地区		12		河川跡、柱穴、土壙	弥生土器、土師器	試験	調査担当 山口大学吉田 遺跡調査团	
	第I地区C区 大学本部新宮	K-H-14	13	600	整穴住居・溝、土壙	土師器、須恵器、瓦質 土器	事前	#	
	第V地区教育学部				河川跡	弥生土器、土師器、須恵器	試験	#	
	第I地区D区第1地点	L-13	14		近世大溝	弥生土器、木炭屑、	#	#	
昭和 46年	第I地区D区第2地点	L-13	15			弥生土器、土師器、瓦質土器、石器	#	#	年報 XIII
	第I地区D区第3地点	M-13-14	16		土壙、柱穴	弥生土器、瓦質土器	#	#	
	第I地区D区第4地点	M-N-14	17		土壙、柱穴	弥生土器、土師器、瓦質土器、石器	#	#	
	第I地区D区第5地点	L-12-13	18		弥生溝	弥生土器、土師器	#	#	
	第I地区D区第6地点	M-13	19		柱穴	弥生土器、土師器、石器	#	#	
	第I地区D区第7地点	M-N-13	20			須恵器	#	#	
	第I地区E区 第2学生食堂新宮	M-N-14-15 O-15	21	900	古墳整穴住居・土壙・溝、柱穴	弥生土器、土師器、須恵器、瓦質土器、石器、鉄製品	事前	#	年報 XII XIII
昭和 50年	第II地区					弥生土器	試験	#	①
昭和 51年	第III地区				整穴住居	弥生土器、土師器、須恵器	#	#	
昭和 53年	人文学部校舎新宮	M-N-21	22	160			#	調査担当 近藤圭一	年報 X

調査 年度	調 査 名	構内地點	面積 (m ²)	遺 構	遺 物	調査 区分	備 考	文献
昭和 54年	教育学部附属養護学校新宮	A-20・21 B-19・20 C-19	23	410 廣、土壤	調文土器、弥生土器	試掘	山口大学埋蔵文化財資料館 山口市教育委員会	年報 IX
	理学部校舎新宮	N-O-19・20	24	250			#	年報 X
	農学部動物舍新宮	P-19	25	389			#	
	本部管理棟新宮	L-14	26	740 廣、土壤、柱穴、 中世井戸、土壤板、 住居跡	弥生土器、土師器、 石製品	事前		年報 VIII
昭和 55年	経済学部校舎新宮	K-21	27	66			試掘	
	農学部農業機械実験施設新宮	P-Q-15	28	50 廣、土壤			事前	年報 X
	本部環境整備	E-14-16 F-15-16	29				立会	
	農学部環境整備	N-11 O-10-11 P-9-10	30				#	
昭和 56年	教育学部校舎新宮	H-19	31	弥生堅穴住居 土壤、廣、柱穴	弥生土器、石製品	事前		
	教育学部音楽棟新宮	H-16	32	廣			#	
	教育学部美術科・ 技術科実験室新宮	J-K-19-20	33	白河川、廣、柱穴	調文土器、弥生土器、 須恵器、土師器	#		
	正門横脚新宮	I-11	34				立会	
	時計塔埋設	I-14	35				#	
	本部構内施設取扱	K-L-13-14	36				#	年報 I
	教養部構内施設取扱	I-15-17 J-17	37				#	
	構内福岡道路統合	J-M-15 M-N-16	38				#	
	農学部中庭整備	N-O-17	39				#	
	職務施設改修	O-16	40				#	
昭和 57年	学生部文化会館新宮	M-B-9	41				#	工法等変更
	学生部馬場整備	M-N-S-9	42				#	
	附風呂施設増築	L-M-16	43	600 弥生一古墳廣、 土壤、柱穴、柱列	弥生土器、土師器、 須恵器、石器	事前		
	大学会館新宮	M-N-14-15	44	130 弥生堅穴住居、廣	弥生土器	試掘		
	教育学部附属養護 学校ブーム新宮	A-B-21	45	880			立会	
	放射性同位元素結合実験室 排水桿新宮	O-18	46	2			#	
	教養部自転車置場 恩賜口新宮	L-17	47	10			#	
昭和 58年	教養部中庭廻廊整備	J-K-16	48	150			#	
	大学会館新宮	M-N-12-13	49	2,000 古墳井戸、土壤、 柱穴、中世井戸、 壁立柱建物	弥生土器、土師器、 須恵器、輪入陶磁器 田浦陶器、瓦質土器 縄錦陶器、木擦、石器	事前		年報 II
	ラグビー場防球ネット新宮	G-H-18-19 H-19-20	50	114 弥生廣、弥生一古墳 堅穴住居、土壤	弥生土器、土師器、 石製品	#	堅穴住居は工法 変更により現地 保存	
	理学部大学院校舎新宮	M-N-20	51	409			立会	
	正門・南門二重車庫 および正門花壇新宮	I-J-12-13 H-23	52	183			#	
	学生部アーチュリー場 の台、電柱設置	N-B-9	53	33			#	
	学生部施設整備	M-T-8	54	1,6			#	

調査年	調査名	構内地図番	地点	面積 (m)	遺構	遺物	調査区分	備考	文献
昭和 58年	学生部野球場敷水栓取扱	I-21 K-22	55	1			立会		年報 III
	教養部環境整備	I-15・16 J-15 K-17・18 L-18	56	81			*		
	学生部テニスコート改修	C-18 D-17 E-15・16 F-16	57	12			*		
昭和 59年	大学会館ケーブル布設	N-12	58	160	弥生土壤、柱穴	弥生土器	事前		年報 IV
	大学会館排水管布設	J-1・13	59	180	弥生～中世遺物包含層、古墳土壤、古代～中世土壤、溝、柱穴	弥生土器、土師器、灰瓦器、青磁、白磁、瓦質土器	*		
	学生部テニスコート・フェンス改修	B-17 C-16・17 D-16 E-15	60	25	古墳以降の遺物包含層	土師器	試験		
	経済学部林木移植	K-19・21	61	8			立会		
昭和 60年	大学会館環境整備	L-14・15 M-N-15	62	592	弥生～中世遺物包含層、弥生窓穴住居、鉢窓穴、土壤、古代～近世土壤、溝、柱穴	縄文土器、弥生土器、土師器、灰瓦器、瓦質土器、輪入磁器、国産陶器器、土製品、石斧、原石、鉢器、甕壁	試験		年報 V
	経済学部環境整備(樹木移植)	K+L-20	63	5			立会		
	農学部附属農業耕作実験 圃地水灌装置改修	R-17・19	64	30	古代末～中世河川跡	須恵器、土師器、輸入陶磁器、輪口、石器、鉢形	*		
	農学部附属農業耕作改修	V-15・17	65	325			*		
	教育学部南庭園整備 (樹木移植)	I-J-19	66	430			*		
	中央ボイラー棟車止設置	O-P-16	67	2.5		須恵器	*		
	大学会館環境整備 (樹木移植)	M-15	68	9		弥生土器、土師器、須恵器、石器、瓦片	*		
	交通機械設置	J-20 N-14 P-18	69	3			*		
	農学部解剖実習施設周辺環境整備 (動物運動施設改修)	Q-18	70	16			*		
	理学部環境整備(藤棚設置)	N-21	71	4			*		
昭和 61年	農学部附属家畜病院施設	S-T-19	72	270			*		年報 VI
	国際交流会館新宮	M-22・23 N-22	73	70	弥生～古墳河川跡 中世～近世土壤	弥生土器、土師器、須恵器、瓦質土器、須恵土器、陶磁器、鉢形玉、加工板のあら削片	試験		
	山口銀行現金自動支払機設置 (電線路埋設)	J-19	74	11	包含層(河川跡か)	弥生土器	立会		
	農学部附属農業耕作整備	S-20 T-U-19	75	165	中世土壤、柱穴	土師器、瓦質土器	*	工法変更	
	農学部附属農業耕作改修(電線ポール設置)	M-10 P-15 Q-15・17	76	12			*		
	正門横(水田内)境界 机設置	J-10	77	0.25	包含層か		*		
	経済学部環境整備 (樹木移植・記念碑建立)	L-20	78	3			*		

調査 年度	調 査 名	構内地区別	地点	面積 (m ²)	遺 構	遺 物	調査 区分	備 考	文献
昭和 61年	吉田構内交通標識設置	G~23 K~9 O~22 S~20 V~17	79	3		痕跡	立会		
	市道神郷1号線および、 間田神郷線の排水管設設	H~17~18 C~18~19 D~19~20 E~20~21 F~21~22 G~22~23 H~23~24 I~J~K~24 L~23~24 M~N~23 O~22~23 P~Q~22 R~21~22 S~21 T~20~21 U~19~20 V~18~19 W~X~18	80	2,100	古墳・弥生層、古代 河川跡、弥生包含層	弥生土器、土師器、 痕跡(器物のあるもの含む)、石質土器、 製塙土器、石斧、板石	立会	山口市 教育委員会 山口大学埋蔵文化 財資料館	年報 VI
	教育部自動車機械所設 (廃機設置および駕駒廻移動)	K~L~18	81	3.5			#		
	教養部身体障害者用 スロープ取設	L~15~16	81	3			#		
	経済学部敷水線取設	L~20	83	4			#		
	吉田構内水泳プール・ 改修等	E~15 F~15~16 H~15	84	26.5	包含層		#		
	農学部附属農場 水道管理設	S~12	85	3			#		
	吉田構内污水排水管等 改修	M~18 O~15	86	15.5		土師質土器	#		
	本部身体障害者用スロープ 取設	L~14	87	12			#		
	経済学部身体障害者用 スロープ取設	K~18~20 L~18	88	78			#	工法等変更	
	附属図書館荷物搬入用 スロープ取設	L~16	89	8		弥生土器	#		
	教養部37番教室改修	K~16	90	1			#		
昭和 62年	教育学部附属教育実践 研究指導センター新宮	J~K~18~19	91	240		ブランク、容器、 植物遺体	事前		
	教養部複合棟新宮	J~K~17	92	35	埋甕土壤、漢、柱穴	土師器、毛恵器、 土師質土器、石斧	試験		
	教養部複合棟新宮	I~J~16	93	30	漢代遺構	弥生土器	立会		
	教養部複合棟新宮	J~K~17~18	94	900	落し穴、河川跡、 竪穴住居、土塙、灰、 屏風、埋甕土壤、形 立柱建物跡、谷状遺 構、柱穴	調文土器、土師器、 痕跡器、土師質土器、 痕跡質土器、陶磁器 石器、石斧、木製品	事前		年報 VII
	久田川局部改修	B~16~17 C~16	95	20			立会	山口県教育委員会 山口大学埋蔵文化 財資料館	
	国際交流会館新宮	M~N~22~23	96	195			#		
	教育学部附属養護学校 自動車運転移設	B~20	97	1			#		
	農学部附属農場E7園場 排水管設置及び E6園場進入路整備	L~N~12	98	55	中世土壤層	弥生土器、土師器、 痕跡器、輸入白磁 因縫磁器、藏石	#		
	農学部植栽	N~17	99	3			#		
	経済学部集水系取設	J~20	100	0.5			#		

調査 年度	調 査 名	構内地点	地點	面積 (m ²)	遺 構	遺 物	調査 区分	備 考	文献
昭和 63年	教養部複合施設新宮に伴う 自動車展示場移設	H-16	101	1	包含層か れ		立会		年報 Ⅷ
	国際交流会館新宮に伴う排水 管理設	N+O-22	102	35	阿川跡(廣がい)、 包含層	弥生土器、瓶底器	#		
	教養部複合施設新宮に伴う ケーブル埋設	J-18	103	1			#		
	サッカーラグビー場改修	F-19・21 G-18	104	25	性格不明	弥生土器	#		
	消防用水設置	K-M-22	105	7.5			#		
平成 元年	水道網新宮	J+L-15	106	4	古墳墓状遺構 柱穴	弥生土器、土師器、 瓶底器、六連式製塙土 器	事苗		年報 IX
	種野寮ボイラー設備改修	O-20・21	107	25			立会		
	野球場防球ネット新宮	H-22 I-21・22 J-K-21	108	7	包含層	弥生土器、土師器、瓶 底器、瓦質土器、陶器	#		
	防火水槽配管布設	K-21・22	109	15	柱穴		#		
	吉田寮ボイラー設備改修	M-8	110	4			#		
	体育施設系水管改修	G-H-16	111	50		陶器	#	工法等変更	
	大学会館南記念植樹	M-13	112	6			#		
	吉田寮ボイラー機 地下貯油槽設備改修	M-8	113	45	包含層	土師器、瓶底器、土師 質土器、陶器、瓦片、 二次加工のある削片	#		
	第2武道場排水渠新宮	G-15	114	2	渠		#		
	室内標識設置	I-14 L-18	115	0.5			#		
平成 2年	本部車庫給水管改修	L-13	116	6.5		弥生土器	#		年報 X
	大学会館南庭園整備	N-14・15	117	35	中世唐		#		
	大学会館南庭園整備	M-15	118	2			#		
平成 3年	第1学生食安設置改修	I-J-19	119	7			#		年報 XI
	教育学部附属農業講習会 室内板設置	E-20	120	1			#		
	農業学部連合駁医学科棟新宮	O-P-17	121	76	調文河川	調文土器、石器	試解		
平成 4年	農業学部仮設プレハブ倉庫設置	P-17	122	6		瓶底器	立会		年報 XII
	農業学部微生物実験室その他 機械構築設備改修	P-17	123	8			#		
	大学会館南庭園記念植樹	L-M-15	124	2			#		
	サークル棟新宮	F-14	125	1			#		
	農業学部連合駁医学科棟新宮	O-P-17	126	960	調文河川	調文土器、石器	事苗		
	交通規制標識及び バーカー設置	H-22 M-10 O-22 R-19 S-20	127				立会		
	吉田構内道路 (南門ロータリー)取設	H-23	128	40			#		
	ボイラーパイプ水管漏水補修	O-16	129	4			#		
	農業学部附属農業 ガラス室新宮	S-14	130	3.5			#		
	大学会館南庭園記念植樹	L-M-15	131	3			#		
	飛町平川郷緊急地方道路整 備工事及び山口大学吉田活 動棟整備(正門周辺)	E-11・12	132				#		
	飛町平川郷緊急地方道路整 備(信号機設置)	E-11	133	7			#		

調査年	調査名	構内地区別	地点	面積 (m)	遺構	遺物	調査区分	備考	文献
平成 5年	本部裏給水管理設 人文部・理学部 講義棟新宮	K~M-13	134	70	廻、柱穴	弥生土器、土師器 滑石製造品	事前		
	M-29	135	4				試掘		
	第2棟内運動場改修	G-H-16	136	144	廻	弥生土器、須恵器 鏡石	#		
	農学部裏給水管理設	N-P-18	137	9			#		
	瓦井整備 (屋外他水管改修)	L-15 M-17~18	138	16			立会		
	農学部連合概医学科棟新宮 電気設備	O-16	139	4			#		
	大学会館南庭バーナー設置	N-14	140	1			#		
	大学会館南庭記念植樹	L-15	141	1.6			#		
	九田川河川局改修	C-16 D-15~16	142	40			#		
	農学部電柱立替	V-17	143	0.2			#		
	農学部ガラス室設置	S-14	144	10			#		
	教育学部裏給水管理設	H-J-19	145	15			#		
	環境整備(人会館南庭)	L-14 M-13~15 N-14~15	146	140.9			#		
	環境整備(道路保存地区)	H-20 I-19~21 J-20~21	147	361			#		
	環境整備(正門周辺)	G-13 H-12	148	350			#		
平成 6年	E-20 F-21 G-18~22 H-19~20 I-21	149	600	縄文河川、弥生住居、 廻、土坑、弥生～古 墳河川、近世廻	縄文土器、弥生土器、土 師器、ガラス小玉、鏡石、 磨石、鏡石	事前	工法等変更		
	第2棟内運動場新宮	G-I-15~16	150	726	弥生～古代廻、貯蔵 穴、土坑、近世廻、 土坑	弥生土器、土師器、須 恵器、鏡石、磨石、鏡石、 劍片、酒器、瓦質土器、 土師質土器、陶器、 磁器、瓦、下駄	#		
	グランジ屋外照明施設 配線埋設	F-21 G-20~21 H-19~20	151	290	縄文河川、弥生住居、 廻、土坑、弥生～古 墳河川、近世廻	縄文土器、弥生土器、土 師器、ガラス小玉、鏡石、 磨石、鏡石	#	工法等変更	
	経済学部商品資料館新宮	K-L-21	152	97.5	河川	陶器、磁器	試掘		
	実験廃液処理施設棟新宮	H-12~13	153	2	河川		#		
	体育器具庫及び宿所新宮	G-H-17	154	60	河川		#	工法等変更	
	経済学部商品資料館 仮設電柱設置	L-22 M-22~23	155	5			立会		
	人文学部南駐車場整備	K-23 L-22~23	156	6			#		
	教育学部附属養護学校 生活排水管改修	F-19	157	2			#		
	テニスコート改修	B-17 C-16~18 D-15~17 E-15~16	158	15			#		
	教育学部附属養護学校 生活排水管改修	B-20~22 C-20	159	16			#		
	図上報場整備 (透水管設置)	C-18 D-18~19	160	200			#		
	ハンドボール場改修 (プレハブ設置)	K-22	161	30			#		

年報 XIII

年報 XIV

調査年度	調査名	構内地区別	地点	面積 (m ²)	遺構	遺物	調査区分	備考	文献
平成6年	野球場フェンス改修	H-22 I-21・22	162	3			立会		
	瓦幹環境整備 (ボイラー室配電盤設置)	O-16	163	4	河川か。		*		
	久田川河川局部改良	D-15 E-14・15	164	100			*		
	第2屋内運動場電柱設置	G-14・15	165	0.5			*		
	教養部水道管破裂修理	I-16	166	2			*		
	グランド屋外照明施設配線 理設	E-20 F-20～21 G-18・19・22 H-19・20 I-20・21	167	150			*		年報 XIV
	公共下水道接続 (教育学部附属養護学校 プール排水施設設置)	A-21	168	4			*		
	サーキル棟給水管埋設	F-14	169	1			*		
	プール新貯箱水管埋設	E-15 F-15・16	170	10			*		
	公共下水道接続 (污水管雨水併用排水施設設置)	C-18	171	6	河川	土師器	*		
	教育学部スロープ設置 (音楽棟)	H-17	172	10			*		
平成7年	農学部R1実験研究施設新宮	Q-R-17	173	75	近世窪	磁器	試掘		
	農学部R1実験研究施設新宮	Q-R-17	174	520	中世井戸、近世窪	石斧、石器、磁器、瓦器	事前		
	公共下水道接続	C-18 E-16 G-14	175	70	窪、土坑、河川跡、柱穴	寄生土器、土師器	試掘		
	公共下水道接続	C-D-18 D-E-17 F-F-16	176	240	土坑、河川跡、柱穴	寄生土器、石器、骨角器	事前		
	農学部附属農場牛舎新宮	T-30	177	22			試掘		
	独身宿舎改修	N-O-22	178	25.5	河川		試掘		
	第2学生食堂増築	N-O-15	179	48	柱穴、包含層	石器	試掘		
	第2屋内運動場外周照明施設 新設	G-15・16	180				立会		
	機器分析センター新営工事 用電柱設置	O-19～21 P-22	181				*		
	農学部附属畜産病院ノック カーボー新設	S-20	182				*		
	吉田寮可燃ゴミ置き場新設	N-10	183				*		
	農学部R1実験研究施設電 気・情報ケーブル及びガス 給排水管布設	Q-R-17	184				*		
	情報処理センタースロープ 新設	O-19	185				*		
	瓦幹環境整備(ATMネット ワークケーブル布設)	E-19・20 F-18・19 G-18	186				*		
	瓦幹環境整備(外灯新設)	I-15・16 J-20 K-19 M-18・11 N-12 O-18～18・20 P-18・19 Q-17・18	187				*		
平成8年	瓦幹環境整備(独身宿舎・国 際交流会館排水管布設)	M-23 O-22	188	22.5	河川		試掘		年報 XVI

調査年度	調査名	構内地点	地點	面積(m ²)	遺構	遺物	調査区分	備考	文献
平成8年	五幹櫻塚整備(外灯新設)	H-I-21・22	189	306	河川	調文土器、弥生土器、土師器、石器	試験		年報XVI
	農学部附属農業排水水管取替	S-10・11	190	93	包含層、壁	土師器、瓦器	試験		
	陸上競技場鉄棒取替	G-18	191	5.5	包含層		立会		
	農学部附属農業排水渠改修	R-11	192	2.2			#		
	種野寮バリアー新設	O-20・21	193	7			#		
	サッカーフィールド水管取替	H-19・20 I-19	194	12	包含層		#		
	基礎環境整備(共通教育センター(ロープ・ラバ新設)	J-K-17	195	14.5	河川	調文土器、瓦器	#		
	九田川河川局部改良	E-14	196	18			#		
	農学部附属農業道路整備	K-12・13 L-12 M-11	197	27.6	近世用水路、焼成場	弥生土器、土師器、瓦器、陶器	#		
	本部裏排水管取替	K-14	198	2			#		
平成9年	農学部附属農業家畜病院施設	S-T-19	199	1			#		年報XVII
	農学部附属農業排水渠新設	S-10	200	41.5			試験		
	農学部バイオ環境制御施設新設	Q-15・16	201	140	河川、溝	土師器、瓦器、製陶土器、石器	試験		
	カーブミラー新設	M-11 N-21	202	0.8			立会		
	五幹櫻塚整備(外灯新設)	J-K-21 K-L-22 L-23	203	23.5	包含層		#		
	共通教育棟エレベーター新設	K-16	204	42			#		
	九田川河川局部改良	E-14	205	48			#		
	本部2号館西側バリアー新設	L-13	206	0.5			#		
	教育学部附属農業講習学校時計塔新設	D-21	207	1.4	包含層	土師器	#		
	五幹櫻塚整備(教育学部附属農業講習学校排水管取替)	C-D-21	208	17	河川		#		
平成10年	五幹櫻塚整備(他社埋蔵表土き取り)	O-16	209	40			#		年報XVIII
	第2学生食文化施設の増築及び改修	N-O-15	210	967.2	堅立柱建物、溝、土坑、柱穴	調文土器、弥生土器、土師器、瓦器、陶器、石器、鉄製品	事前立会		
	教育学部附属農業講習学校給食室改修	C-21	211	12.5	調文河川、土坑、柱穴	調文土器、弥生土器	試験		
	九田川河川局部改良	E-F-14 F-13	212	60			立会		
	基礎環境整備(ロリカー新設)	H-15 I-J-20 O-16・18 L-22	213	3.4			#		
	農学部動物用便却6号改修	Q-18	214	53			#		
	五幹櫻塚整備(外灯新設)	L-17～19 M-N-18	215	4			#		
	理学部スロープ新設	M-18	216	16			#		
	ステンレス門扉モニュメント新設	M-13・14	217	27.6			#		
	第2学生食堂増築その他に伴う給水電気設備施設整備	O-15・16・P-14	218	6.6	包含層、柱穴、河川	土師器、瓦器	#		
平成11年	九田川河川局部改良	F-G-13 G-H-12	219	222			#		年報XIX
	第2学生食堂北西擁壁新設	N-O-14	220	43			#		
	サッカーフィールド防球ネット新設	G-H-22	221	3.2			#		

調査年	調査名	構内地区別	地点	面積 (m)	遺構	遺物	調査区分	備考	文献
平成11年	第1体育館・共通教育本館 スロープ新設	H-15 K-15-16	222	201.1			*		年報XX
	基礎櫛塗整備(外灯新設)	I-12 K-L-15 L-15 M-N-17	223	4		灰陶器	*		
平成12年	総合研究棟新設	Q-18 R-17-19	224	270	埋没層	土師器、須恵器	試掘		年報XXI
	総合研究棟新設	Q-R-18 R-19 S-20	225	808	埋没層、土壤	調文土器、土師器、須 恵器、製陶土器、灰質 土器、石器	事前 立会		
平成13年	廻合及び周辺施設改修	M-8	226	3.6			立会		
	架空電線取り外し埋設	O-15 P-15-16 Q-14-15-18-19 R-13-14 R-S-19 S-14	227	268	包含層	土師器、須恵器	*		
	久田川河川局部改良	H-11-12 I-10-11 J-9-10 K-L-9	228	617			*		
	山口合同ガスガーナー延新設 及びガス配管新設	O-19~22 P-18-19-22	229	313			*		
	基礎櫛塗整備 (リカバ新設)	N-22 V-17	230	0.4			*		
	あずまや新設	L-18	231	5			*		
	共通教育センター空調設備 新設	J-16	232	1.4			*		
	基礎櫛塗整備(外灯新設)	J-K-21 M-10	233	2	包含層	土師器	*		
	経済学部校舎改修 (プレハブ校舎新設)	K-21	234	40	河川	調文土器、土師器、 須恵器	試掘		
平成14年	久田川河川局部改良 (平成12年度工事追加分)	L-8-9	235	42	河川		立会		
	総合研究棟新設外配管新設	Q-18	236	60			*		
	理学部改修1期工事 屋外配管新設	M-18-19 M+N-20 N-19	237	76			*		
	久田川河川局部改良	L-8-9	238	96			*		年報XXII
	基礎櫛塗整備(外灯新設)	I-14-15 J-15 K-L-M-15 N-16 Q-T-V-17	239	15.4	河川		*		
	理学部校舎改修1期工事 ポンプ室配管新設	M-19	240	11			*		
	理学部校舎改修2期工事 自動車置場新設	N-20	241	196			*		
	第1学生食堂(イレ)改修	I-J-19	242	6			*		
	経済学部校舎改修(プレハブ 校舎新設配管新設)	L-21	243	6			*		
平成15年	農学部校舎改修(解剖実習 棟プレハブ校舎新設)	R-S-19	244	520	脇立柱跡、柱穴、 土坑、包含層、河川	土師器、須恵器(墨書 土器)、製陶土器、綠釉 陶器、瓦、輪軸、鉢底、 網底、石	事前		
	農学部附属農場実験園施設地	O-14	245				立会		
	農学部校舎改修	N-Q-17-18	246		河川	調文土器	*		
	理学部改修3期工事(薬品庫 及小板・自動車置場新設)	N-19+ M-19-20	247				*		

調査年	調査名	構内地区別	地点	面積(m ²)	遺構	遺物	調査区分	備考	文献
平成14年	東アジア研究所プレハブ校舎新宮	N-21	248				#		
	医学部校舎改修(解剖実習施設プレハブ新宮)	R+S-19	249		河川。包含層		#		
	教育部レーベ改修	I-18	250				#		

小串構内

調査年	調査名	構内地区別	地点	面積(m ²)	遺構	遺物	調査区分	備考	文献
昭和58年	医学部体育館新宮		1	260		土師器、瓦質土器、石器	試掘		年報III
	医学部図書館増築		2	4			立会		
	医学部体育館新宮		3	1			#		
昭和59年	医学部浄化槽新宮		4	44	近世廐	土師器、瓦質土器、磁器	事前		年報IV
	医学部体育館新宮		5	65		土師器、瓦質土器、磁器	#		
	医学部蒸気熱機(特高受電設備)		6	28		動物遺体(昆蟲)	試掘		
	医学部臨床講義棟 病理解剖棟新宮		7	38			#		
昭和60年	医学部附属病院 外来診療棟新宮		8	399		土師質土器、瓦質土器、陶磁器	#		年報V
	医学部基礎研究棟新宮		9	10		近世陶器	#		
	医学部看護婦宿舎改修		10	25.5		近世陶磁器	立会		
	医学部看護婦宿舎改修		11	20			#		
	医学部環境整備 (樹木移植)		12	40			#		
	医学部附属病院 外来診療棟新宮		13	5			#		
昭和61年	医学部附属病院 近畿支那等(而木様)		14	18			#		年報VI
	医学部附属病院東駐車場改修		15	6			#		
昭和62年	医学部附属病院病棟新宮		16	104		削器、ナイフ形石器 圓石刀核	試掘		年報VII
	医学部附属病院運動場整備		17	300		二次加工のある削片、 使用痕のある削片、刮 片、鐵石、礫、原石、 土師器、土師質土器、 瓦質土器、陶磁器	立会		
昭和63年	医学部附属病院病棟新宮		18	220			#		年報VIII
	医学部附属病院運動場整備								
平成元年	医学部附属病院MRI棟新宮		19	45		削器、鐵石刃、 二次加工のある削片、刮 片、石核	試掘		年報IX
平成2年	医学部附属病院動物・ RI実験棟新宮		20	40		刮片	#		年報X
平成3年	医学部臨床実験施設新宮 電気工事		21	0.5			立會		年報XI
平成4年	施設棲地監測		22				#		年報XII
平成5年	医学部附属病院系統設備 (焼却棲地新宮)		23	9			#		年報XIII
	医学部附属病院系統設備 (焼却棲地新宮)		24	6			#		

調査年度	調査名	構内地区別	地点	面積 (m)	遺構	遺物	調査区分	備考	文献
平成6年	医学部附属病院MRI-CT装備棟新設		25	300			#		年報 XIV
平成7年	医学部附属病院看護婦宿舎新設		26	40				試験	
平成8年	医療技術短期大学部屋外排水管布設		27	6			立会		年報 XVI
平成9年	医学部肥垂碑・納骨堂新設		28	15.2				試験	
	瓦幹縁壇敷佛 (看護婦宿舎化粧室壁去)		29	4			立会		年報 XVII
	医学部樹木移植		30	10			#		
平成10年	宇都宮市土地区画整理事業 (柳ヶ瀬丸井内蔵)		31	253.1	包含層。近世～近代 用水路	剝片、陶文土器、弥生土器、土師器、陶器、磁器	事務	宇都宮市教育委員会と合同調査	年報 XXI
	宇都宮市土地区画整理事業 (柳ヶ瀬丸井内蔵・医学部敷地西側跡跡道路)		32	381.1	包含層。近世～近代 廉	剝片、陶文土器、弥生土器、土師器、磁器、瓦質土器、陶器、磁器	#	宇都宮市教育委員会と合同調査	
平成11年	宇都宮市土地区画整理事業 (柳ヶ瀬丸井内蔵)		33	818.9	近世～近代用水路。 土坑	土師質土器、瓦質土器、鐵質	#	宇都宮市教育委員会と合同調査	年報 XIX
平成13年	医学部附属病院立体駐車場新設		34	229	包含層	陶文土器、弥生土器、土師器、陶器、磁器、鐵釘	試験		年報 XXI
平成14年	医学部附属病院高エネルギー 新設		35	13.25			#		
	総合研究棟新設		36	362	包含層	陶文土器、土師器、石質土器、陶器、磁器	#		

常盤構内

調査年度	調査名	構内地区別	地点	面積 (m)	遺構	遺物	調査区分	備考	文献
昭和58年	工学部校舎新設		1	70		須恵器	試験		年報 III
	工学部図書館増築		2	70			#		
昭和59年	工学部尾山宿舎 排水管布設			20			立会		年報 IV
昭和60年	工学部尾山宿舎 排水管設置			65			#		年報 V
	工学部受水槽改修		3	1.5			#		
昭和61年	工学部尾山宿舎排水管改修			6			#		年報 VI
	工学部身体障害者用 スロープ設置		4	29			#		
	情報処理センター (常盤センター) 空調設備取扱		5	30			#		
昭和63年	工学部施設即上塗新設		6	225			#		年報 VII
平成元年	工学部夜間照明装置 及び防塵ネット設置		7	2			#		年報 IX
	工学部記念植樹		8	2.5			#		
平成2年	工学部ガス管改修		9	45			#		年報 X
平成3年	大学祭展示物設置		10	7			#		年報 XI
平成4年	工学部プレハブ研究・ 実験棟新設		11	6			試験		年報 XII

調査年度	調査名	県内地区別	地点	面積 (m)	遺構	遺物	調査区分	備考	文献
平成4年	工学部・T.美短期大学部の改組再編・博士課程設置に伴う建築物等の新宮		12	40			*		年報 XII
	工学部およびT.美短期大学部職員宿舎取扱		13	9			立会		年報 XII
	大学祭展示物設置		14	7			*		
平成5年	工学部プレハブ研究・実験棟新宮		15	12			試解		年報 XIII
	工学部地域共同研究開発センター新宮		16	16			*		
平成7年	工学部国際交流会館新宮		17	8		石器	*		
平成8年	工学部国際交流会館新宮		18	352	段状遺構	ナイフ形石器、剣片	事前		年報 XVI
平成12年	工学部福利厚生棟新宮		19	38.5			試解		年報 XX
平成13年	工学部インキュベーションセンター新宮		20	60			*		年報 XXI
平成14年	総合研究棟新宮		21	13.5			*		

白石構内

調査年度	調査名	県内地区別	地点	面積 (m)	遺構	遺物	調査区分	備考	文献
昭和58年	教育学部附属山口小学校・幼稚園運動場整備		1	60	占墳堅穴住居、溝状遺構	土師器、須恵器、瓦質土器、瓦、石製品、木製品	試解		年報 III
	教育学部附属山口小学校・體水栓改修		2	1			立会		
昭和60年	教育学部附属山口中学校建設ヨード整備		3	2			*		年報 V
	教育学部附属幼稚園環境整備(樹木植樹)		4	1			*		
	教育学部山口附属学校汚水排水管布設	幼稚園・小学校部分	5	57	半世土壤か、	縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、瓦質土器、土師質土器	試解		年報 VI
昭和61年	教育学部山口附属学校汚水排水管布設	中学校部分		20	河川跡+杭列	陶磁器、不明鉄製品、石器、剣片、植物遺体			
	教育学部附属山口小学校電柱移設		6				立会		
	教育学部附属幼稚園		7	40			*		年報 VII
昭和62年	教育学部附属幼稚園遊戲室紅葉								
昭和63年	教育学部附属山口中学校加内汚水栓設置改修		8	35	包含層	土師器、磁器、剣片	*		年報 VIII
平成元年	教育学部附属幼稚園・山口小学校汚水排水管布設		9	260	弥生～古墳堅穴住居、土壤、溝、柱穴、河川跡	縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、瓦質土器、須恵質土器、黑色土器、縁器、二次加工のある剣片、使用痕のある剣片、剣片、石核、丸石	事前		年報 IX
	教育学部附属幼稚園ハレーコート支柱設置		10	0.3			立会		
	教育学部附属幼稚園・山口小学校汚水排水管布設		11	170	弥生堅穴遺構	弥生土器、土師器、打製石斧、削器、剣片、石核	*		

調査年度	調査名	構内地区別	地点	面積 (m ²)	遺構	遺物	調査区分	備考	文献
平成2年	教育学部附属山口中学校汚水排水管敷設		12	70	溝状遺構	縄文土器、弥生土器、土師器、瓦質土器、不明鉄製品、石鏡、亂石、扁平打製石斧、砾石、削片	事前	年報X	
			13	130		弥生土器、土師器、須恵器、土師質土器、瓦質土器、圓底陶磁器、扁平打製石斧、砾石	立合		
平成6年	教育学部附属山口小学校プール新設給水管設設		14	3			#	年報XXIV	
			15	7			#		
平成7年	教育学部附属山口中学校自転車置場新設		16				#		
平成10年	教育学部附属山口小学校給食室改修		17	15.8			試験立合		年報XXVII
平成12年	教育学部附属山口中学校筋床ネット新設		18	4.4			立合		年報XX
平成14年	教育学部附属山口中学校給水設備改修		19				#		
	教育学部附属幼稚園運動場整備		20		河川、柱穴	土師器	#		

光構内

調査年度	調査名	構内地区別	地点	面積 (m ²)	遺構	遺物	調査区分	備考	文献
昭和58年	教育学部附属光小学校自転車置場設置		1	6	近世~近代石垣	瓦質土器、陶磁器、瓦	試験		年報III
昭和59年	教育学部附属光小・中学校施設改修新設		2				立合		年報IV
昭和60年	教育学部附属光中学校外灯改修		3	1		土師器	#		年報V
昭和61年	教育学部附属光小学校創立記念事業(ブローニス像建立)		4	2.5		土師器、須恵器	#		年報VI
昭和62年	教育学部附属光中学校グラウンド防潮ネット設置		5	2		弥生土器、土師器、瓦質土器、土師質土器、瓦	#	手洗清採集	年報VII
昭和63年	教育学部附属光小学校遊具移設		6	10		土師器、土師質土器、陶磁器	#	手洗清採集	年報VIII
	教育学部附属光小学校屋外スピーカー設置		7	0.5		土師器、土師質土器、須恵器、瓦器、瓦質土器、陶磁器、土塊	#		
平成2年	教育学部附属光小学校運動場改修		8	15		縄文土器、土師器、須恵器、瓦質土器、旋轉陶器、磁器、土塊、削片、瓦片	試験	手洗清採集遺物含む	年報X
	教育学部附属光小学校運動場改修		9	23	土壤	土師器、須恵器、瓦質土器及土師器	事前		
平成3年	教育学部附属光中学校武道館新設		10	38	土壤、溝状遺構	土師器、磁器、陶器	試験		年報XI
	教育学部附属光小学校屋外施設設置		11	18		土師器、石塊	立合		

調査年度	調査名	佛内地IC周辺	地点	面積 (m)	遺構	遺物	調査区分	備考	文献
平成3年	教育学部附属光中学校 バックネット新設		12	0.5		土師器	#		年報XII
平成4年	教育学部附属光中学校 武道館新宮		13	500	土壤、柱穴	縄文土器、須恵器、 土師器、瓦器	事前		年報XII
	教育学部附属光中学校 武道館新宮		14				立会		
平成5年	教育学部附属光中学校 武道館新宮その他		15	6			#		年報XIII
平成6年	教育学部附属光中学校 プール新設給排水管理設		16	19			#		年報XIV
平成8年	教育学部附属光小・中学校 園地(外側フェンス・防護ネット) 取扱		17	7		陶磁器	#		年報XVI
平成10年	教育学部附属光小学校給食室 改修		18	5.2			#		年報XVIII
平成11年	教育学部附属光小・中学校 上水道(給水管)改修		19	228	古墳包含層、柱穴、 近世土坑、柱穴	土師器、須恵器、輪式系 土器、織布土器、 陶器、磁器	試験 立会		年報XIX
平成12年	教育学部附属光小・中学校 護岸石積改修		20	173	石垣	土師質土器(粘土)、 磁器、瓦	立会		年報XX
	教育学部附属光小・中学校 上水道(給水管)改修		21	23	包含層	土師器、須恵器、磁器 石錠	#		

その他構内

調査年度	調査名	佛内地IC周辺	地点	面積 (m)	遺構	遺物	調査区分	備考	文献
昭和50年	学生部ボート艇庫 合宿研修所整備	宇都宮大字小野字土井		0.5			立会		年報IV
	学生部ヨット艇庫 合宿研修所整備	吉敷郡秋穂町東字中道					#		
昭和60年	熊野莊施設機器取扱	山口市熊野町3-21		7			#		年報V
昭和61年	湯田宿舎給水管改修	山口市湯田温泉6丁目 8-29		35	机		#		年報VI
	経済学部職員宿舎 公共下水道切替	山口市鶴達町2丁目3-32		1		土師質土器	# 6号宿舎		
		山口市水の上町6-1		7		瓦	# 2号宿舎		
昭和63年	経済学部職員宿舎 公共下水道切替	山口市白石2丁目8-7		1		須恵器、土師器、土師 質土器、瓦質土器、 陶磁器	# 7号宿舎採集		年報VII
平成元年	本部職員宿舎 公共下水道切替	山口市水の上町6-1		1			# 1号宿舎		年報IX
平成2年	人文・理学部職員宿舎 公共下水道切替	山口市石鏡町1-25		1.2		陶磁器	# 7号宿舎		年報X
	経済学部職員宿舎 公共下水道切替	山口市香山町3-1		0.5			# 3号宿舎		
平成3年	湯田宿舎A棟給配水 その他改修	山口市湯田温泉6丁目		30			#		年報XI
	経済学部6号職員宿舎 電柱設置	山口市鶴達町2丁目3-32		0.5			#		
	人文・理学部職員宿舎 公共下水道切替	山口市天花932-2		1			#		

調査 年度	調 査 名	構内地點 地点	面積 (m ²)	道 構	道 物	調査 区分	備 考	文獻
平成 4年	上堅小路共同下水管布設	山口市上堅小路宇久保 7-4	7			立会		年報 XII
平成 6年	湯田宿舎公共下水道接続 及び排水施設改修	山口市湯田温泉6丁目 8-29	44			#		年報 XIV

※文献① 山口大学吉田遺跡調査『吉田遺跡発掘調査報告』(山口大学、1976年)

※昭和41年以降、吉田宿内においては、工事に際し随時継続的に調査を実施しているが、昭和52年以前の吉田遺跡調査団の開拓した調査については、

調査名をすべて把握しているわけではなく注意が必要である。

※平成12年度調査[6]の一部を修正した。

※平成10・11年度の調査区、記載内容の一部を修正した。

※平成15年度以降については既刊の『山口大学埋蔵文化財資料館年報』を参照されたい。

Summary

Ch. I: Summary of the archaeological excavations on the Yamaguchi University campuses in the 1999 fiscal year

One salvage excavation was carried out jointly by Ube City Board of Education and Yamaguchi University Archaeological Museum on Kogushi Campus. One test excavation was carried out on Hikari Campus. Six on-site inspections were carried out on Yoshida Campus and one on Hikari Campus.

Ch. II: Excavations accompanying the Ube City land readjustment project (Yanagase-Marugouchi-line)

Trench G is the largest survey area in the Kogushi Campus, and remains related to paddy fields from the early modern to modern period were discovered. Of these, an irrigation channel was reinforced with wood and bamboo, and had been deposited and repaired multiple times, but the date of excavation is unknown. In addition, there were pathways on both sides of the channel, and paddy field plots were observed in some sections of the north side. Since the height of the paddy field surface varies along the channel, this channel may reflect a land division dating back to the early modern period. A large number of ceramics from the late 18th to 19th century were discovered from the paddy base. These ceramics may support the period of cultivation of the land.

Ch. III: Test excavation and on-site inspection accompanying the renovation of the water supply (water pipe) for Hikari elementary/junior high school affiliated with the Faculty of Education

In trench C, Kofun period and early modern period remains and layers containing artifacts were discovered. A large number of Haji ware, Sue ware, and Korean-style pottery from the late 5th to early 6th century were discovered in the layer containing artifacts of Kofun period, and 6 pillar holes were discovered on the surface of the structural remains. Korean-style pottery discovered from trench C includes pots, bowls, and portable ceramic stoves with open firing hoods. A large number of 18th and 19th century pottery items were discovered in the layer containing artifacts of the early modern period, and one ditch, one earthen pit, and 5 pillar holes were discovered

on the surface of the structural remains. These are most likely related to Murozumi Kaisho. Other remains and artifacts were discovered in multiple trenches.

During the on-site inspection, one buried jar from the early modern to modern period was discovered at spot H, the first in the Hikari Campus. 3 pillar holes thought to be from the Kofun period were discovered at spots J-1 and J-2. In addition, layers containing artifacts from the Kofun period were discovered at spots I and K.

Ch. IV: On-site inspections on the Yamaguchi University campuses in the 1999 fiscal year

In an on-site inspection accompanying outdoor power line facility improvement during the extension of Cafeteria 2 and other facilities on Yoshida Campus, layers containing artifacts and two relic surfaces were discovered at spot C, and a large number of artifacts, mainly Yayoi pottery, ancient Haji ware, and Sue ware, were discovered. In addition, at spot D, a river as well as a large number of ancient Haji and Sue ware were discovered. Most of the Sue wares discovered at spots C and D are similar to the Sue wares discovered at the Cafeteria 2 site.

No archaeological remains and artifacts were found other than these at this on-site inspection and the Hikari Campus on-site inspection.

Appendix

This is a summary report by Naohiko Tabata of pottery items discovered at the Ogidao site in Yamaguchi City. He summarized the previous investigations of the Ogidao site and introduced the materials in the museum collection, and discussed the position of the Ogidao site. As a result, it was pointed out that there were settlements at the top and bottom of the mountain in the middle of the Yayoi period, and that the elevation and specific height of the top of the mountain need to be revised. He also considered the possibility that the settlements that existed at the top and bottom of the mountain were centers for information transmission and goods distribution for the right bank of the Fushinogawa River in the Yamaguchi Basin.



Fig.47 山口大学吉田横内地区割及び主な調査区位置図（昭和 41 年度～平成 14 年度）



Fig.48 山口大学小串構内調査区位置図（昭和 58 年度～平成 14 年度）

桁内旧境界線
 桁内境界線
 平成6年度以前と平成8・9・12・13年度調査区
 平成7・14年度調査区

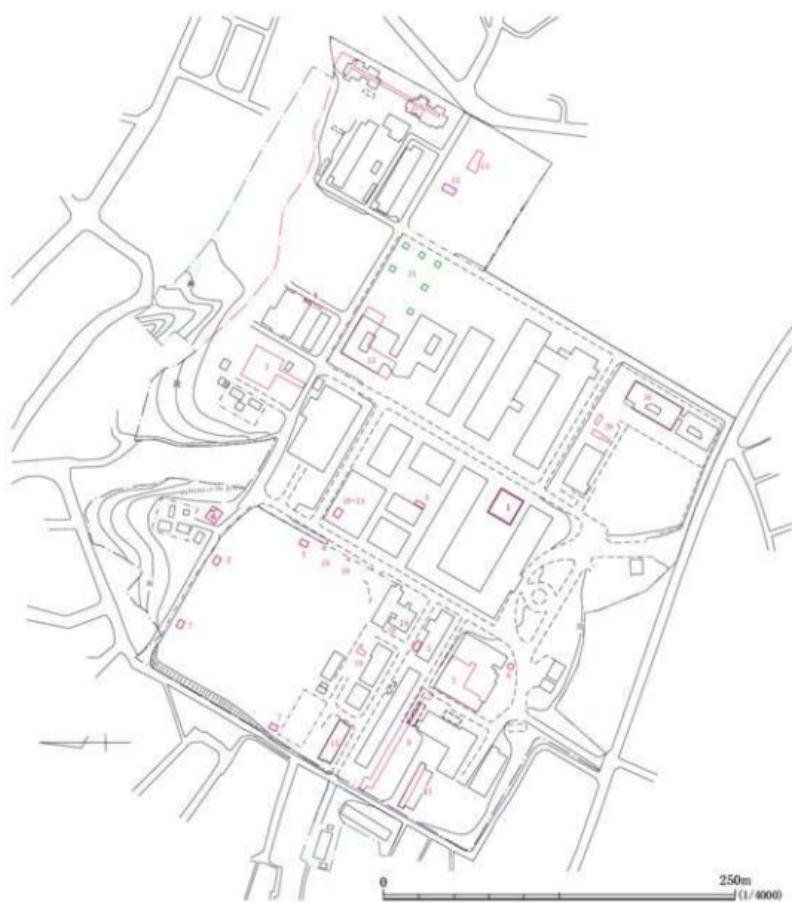


Fig.49 山口大学常盤構内調査区位置図（昭和 58 年度～平成 14 年度）

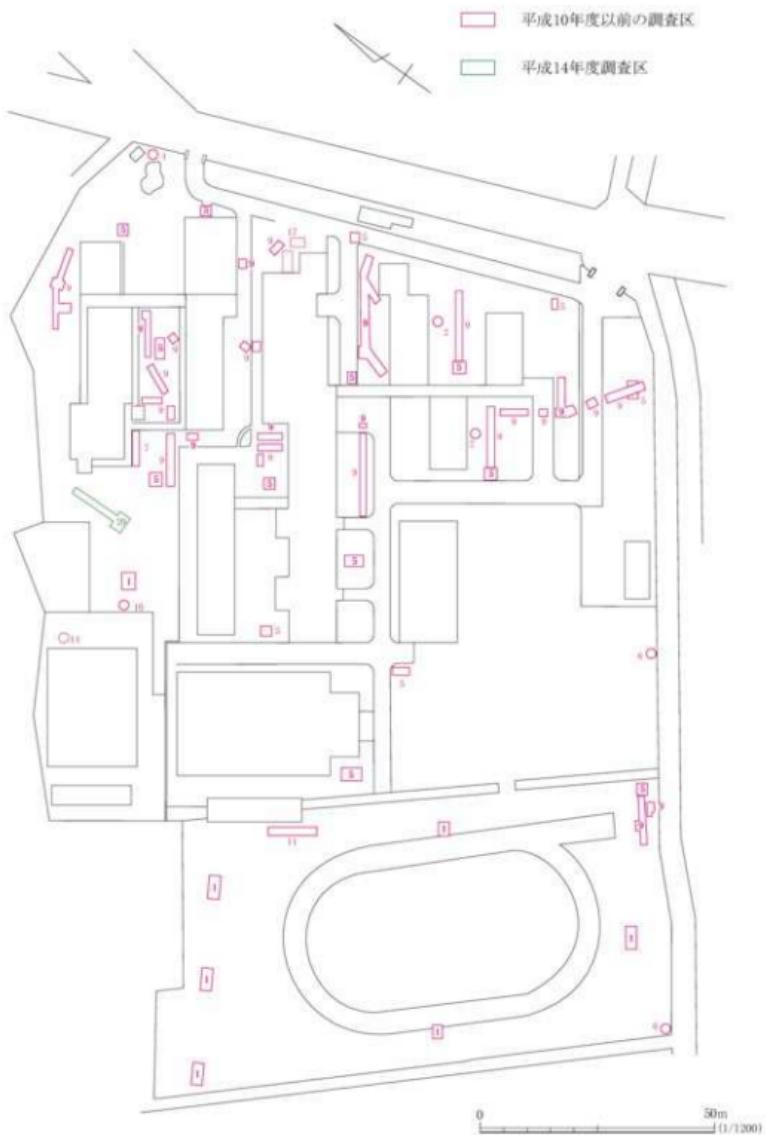


Fig.50 山口大学白石構内（幼稚園・小学校）調査区位置図（昭和 58 年度～平成 14 年度）

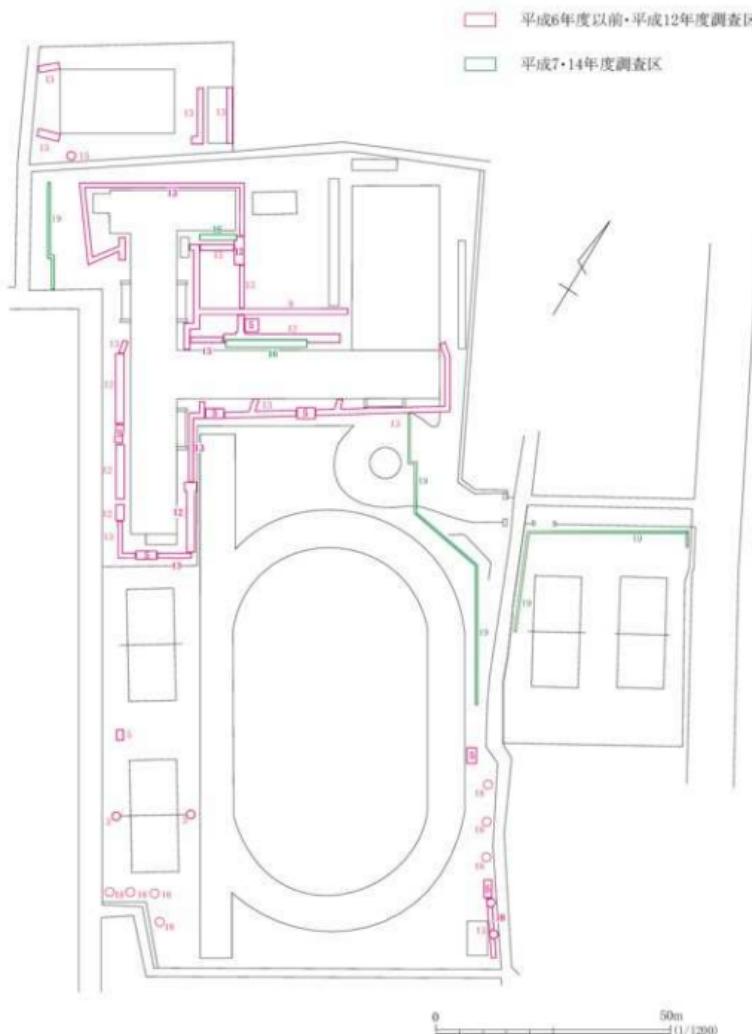


Fig.51 山口大学白石構内（中学校）調査区位置図（昭和 60 年度～平成 14 年度）

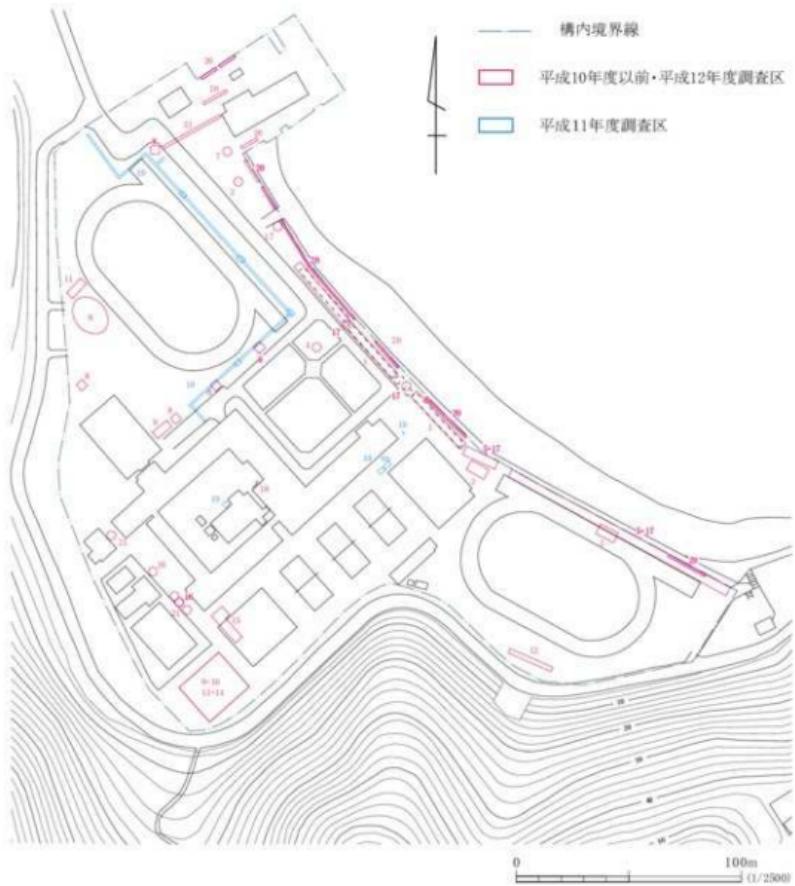


Fig.52 山口大学光構内調査区位置図（昭和 58 年度～平成 12 年度）

図 版



小堀橋内全貌(面右P)



(1) Gトレーンチ調査前全景（南東から）



(2) Gトレーンチ全景（南西から）



(1) Gトレーンチ全景（俯瞰）



(2) Gトレーンチ北東壁土層断面①(南から)

宇部市土地地区画整理事業
(柳ヶ瀬丸河内線)
に伴う発掘調査

三



(1) Gトレンチ北東壁土層断面②(西から)



(2) Gトレンチ南東壁土層断面・土坑3 (南から)



(1) Gトレーニチ用水路 (南西から)



(2) Gトレーニチ用水路H—I断面 (西から)



(1) Gトレンチ用水路JーK断面（東から）

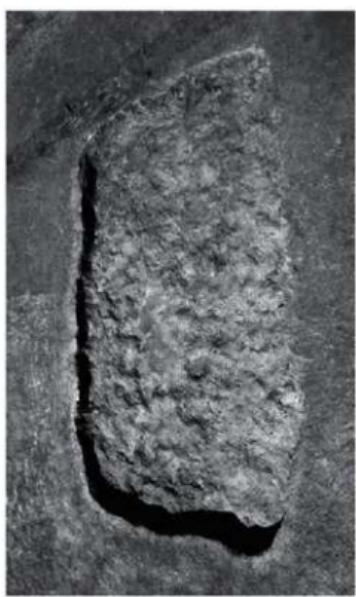


(2) Gトレンチ土坑1・2検出状況（南西から）

宇部市土地地区画整理事業
(柳ヶ瀬丸河内線) に伴う発掘調査
六



(1) G1レンチ土坑1土層断面（北西から）



(2) G1レンチ土坑1完掘状況（南東から）



(3) G1レンチ土坑2（南から）



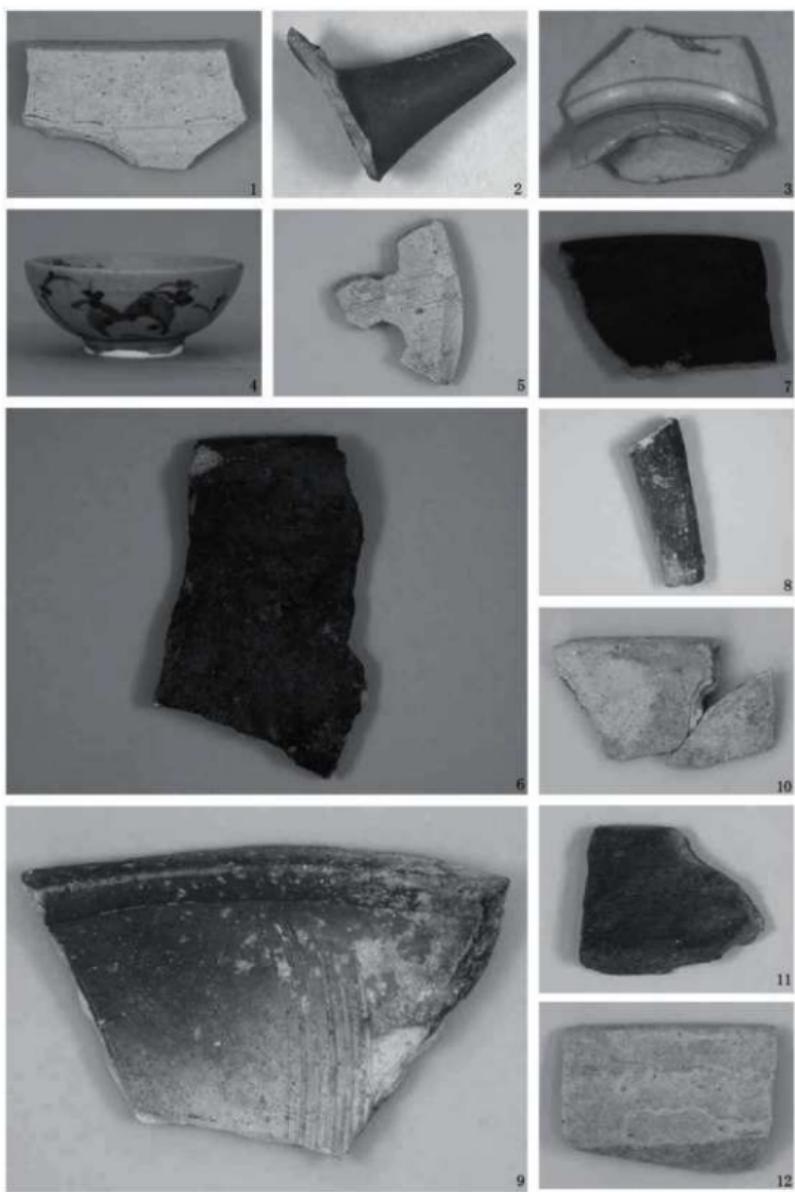
(4) G1レンチ土坑3（南東から）



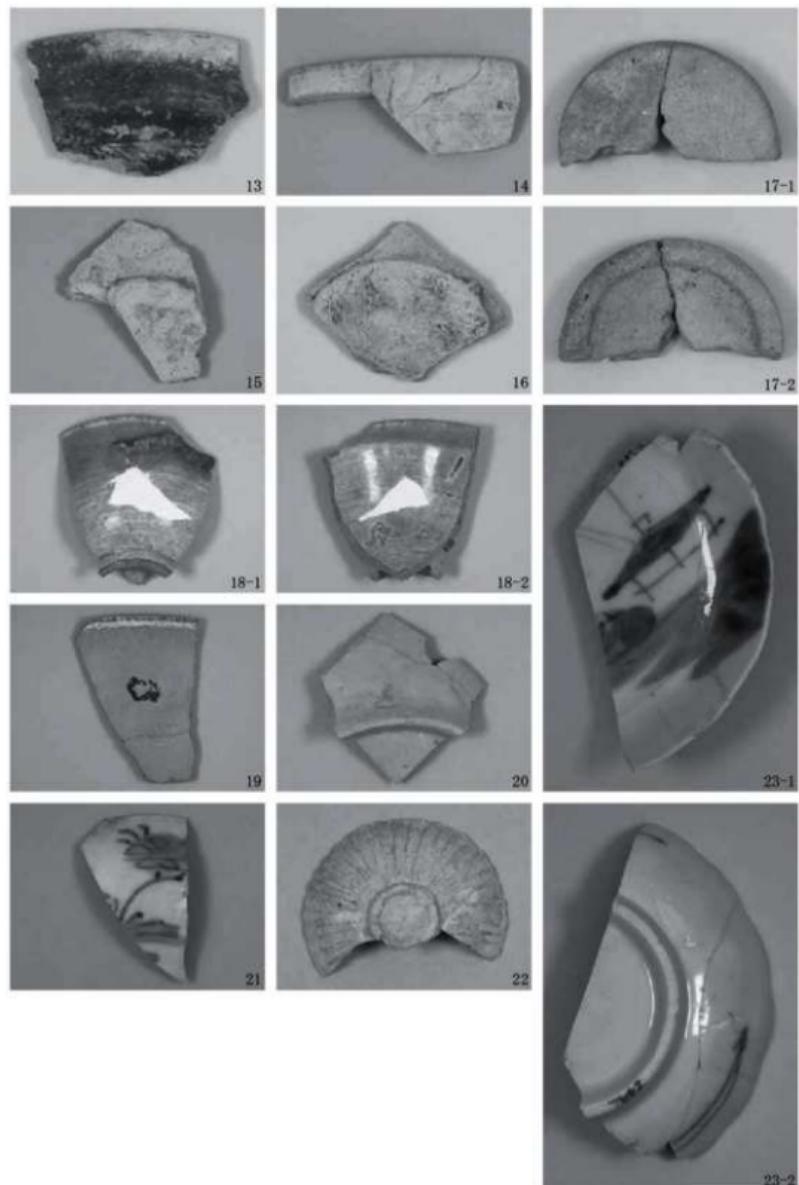
(1) Hトレンチ全景（北西から）



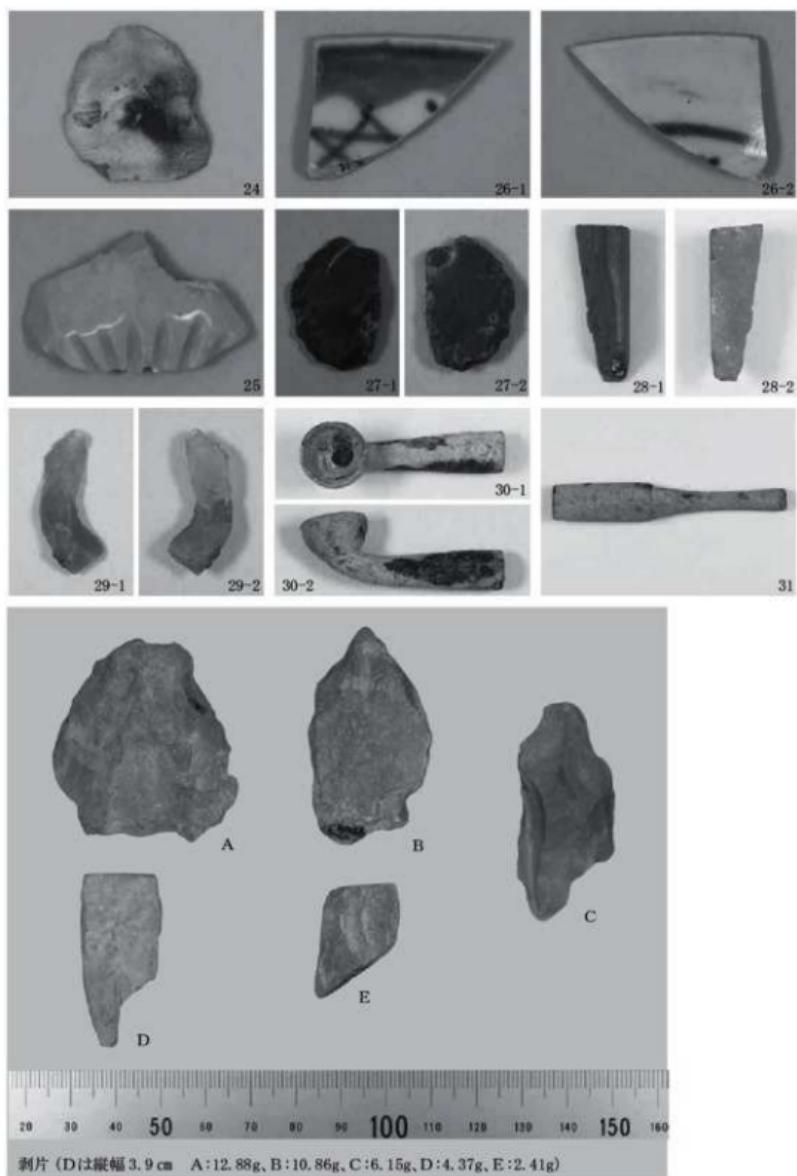
(2) Hトレンチ土層断面（西から）



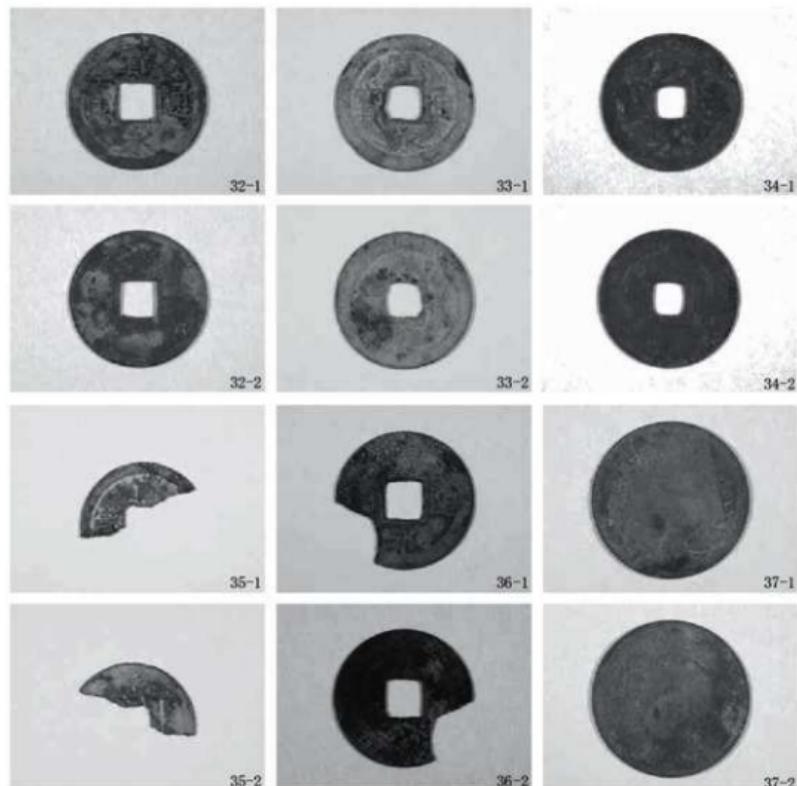
出土遺物①(土器)



出土遺物②(土器)



出土遺物③(土器・石器・金属器)



出土遺物④(銭貨)



光構内全景（南西から）



(1) Aトレーニチ全景（南西から）



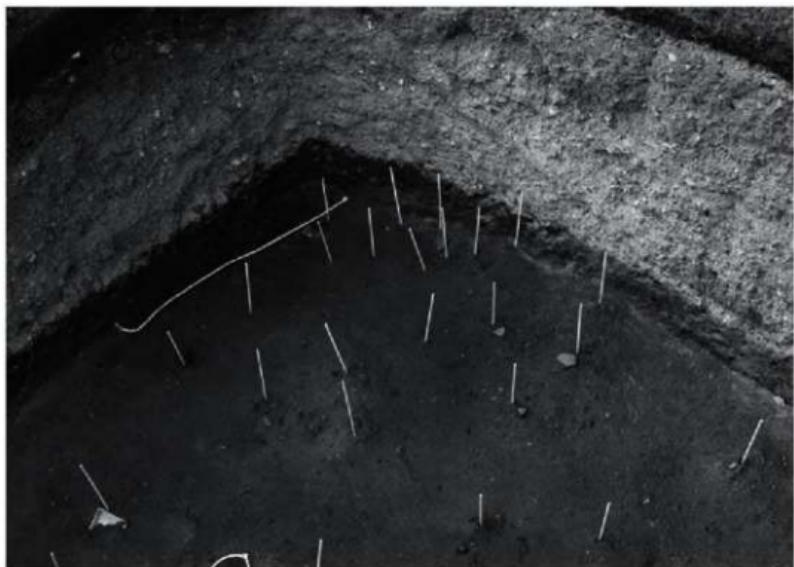
(2) Aトレーニチ南東壁土層断面（北から）



(1) Bトレンチ全景（北西から）



(2) Bトレンチ北東壁土層断面（南西から）



(1) Cトレーンチ第1遺構面遺構検出・土器出土状況（拡張前 南東から）



(2) Cトレーンチ第1遺構面遺構検出・土師器出土状況（拡張前 東から）



(1) Cトレーンチ第1遺構面遺構検出・土器出土状況（拡張後 南東から）



(2) Cトレーンチ第1遺構面完掘状況（南東から）



教育学部附属光小・中学校上水道 給水管 改修工事に伴う試掘・立会調査 六

(4) Cトレンチ第2透構面 Pit6・南西壁土管断面（北東から）



(2) Cトレンチ第2透構面透構状況（南東から）



(1) Cトレンチ第2透構面透構検出状況（南東から）



(3) Cトレンチ第2透構面透構完掘状況（南東から）



(1) Cトレーナ全景（南東から）



(2) Cレンチ北東壁土層断面（南西から）



(1) Cトレーニチ北西壁土層断面（南東から）



(2) Cトレーニチ南東壁土層断面（北西から）



(1) Dトレーンチ北東壁土層断面（南西から）



(2) Eトレーンチ南東壁土層断面（北西から）



(1) Fトレンチ北東壁土層断面（南西から）



(2) Gトレンチ全景（南西から）



(1) Gトレーニチ北西壁土層断面（南東から）



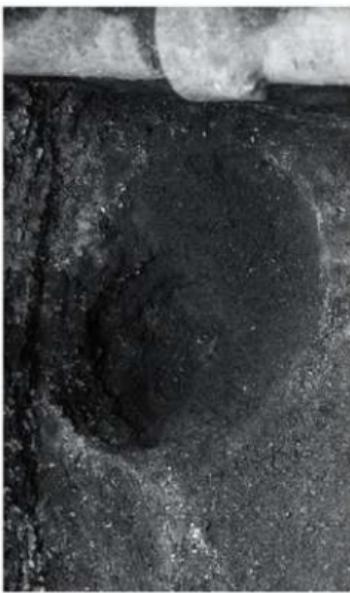
(2) Gトレーニチ北西壁・南西壁土層断面（東から）



(1) GIトレーナーSK1 土壁断面（南西から）



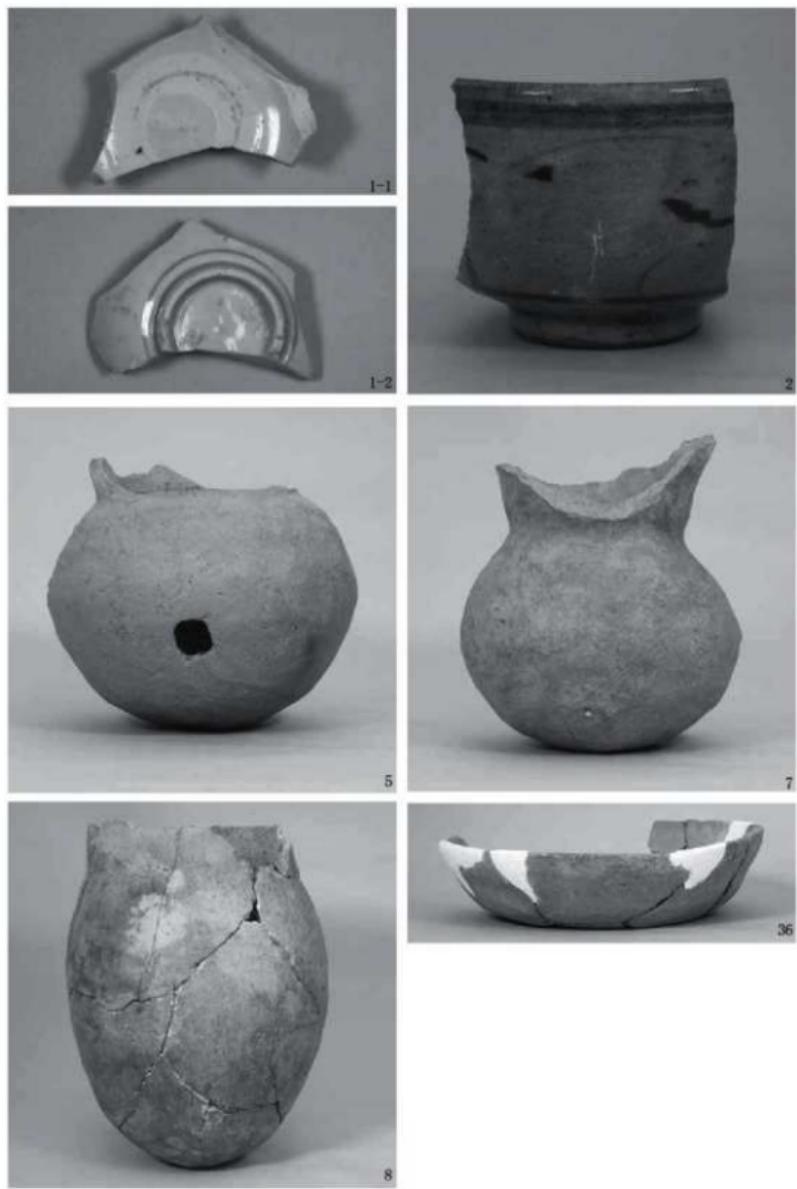
(2) GIトレーナーSK1 掘出状況（北西から）



(3) GIトレーナーSK1 土壁断面（北西から）

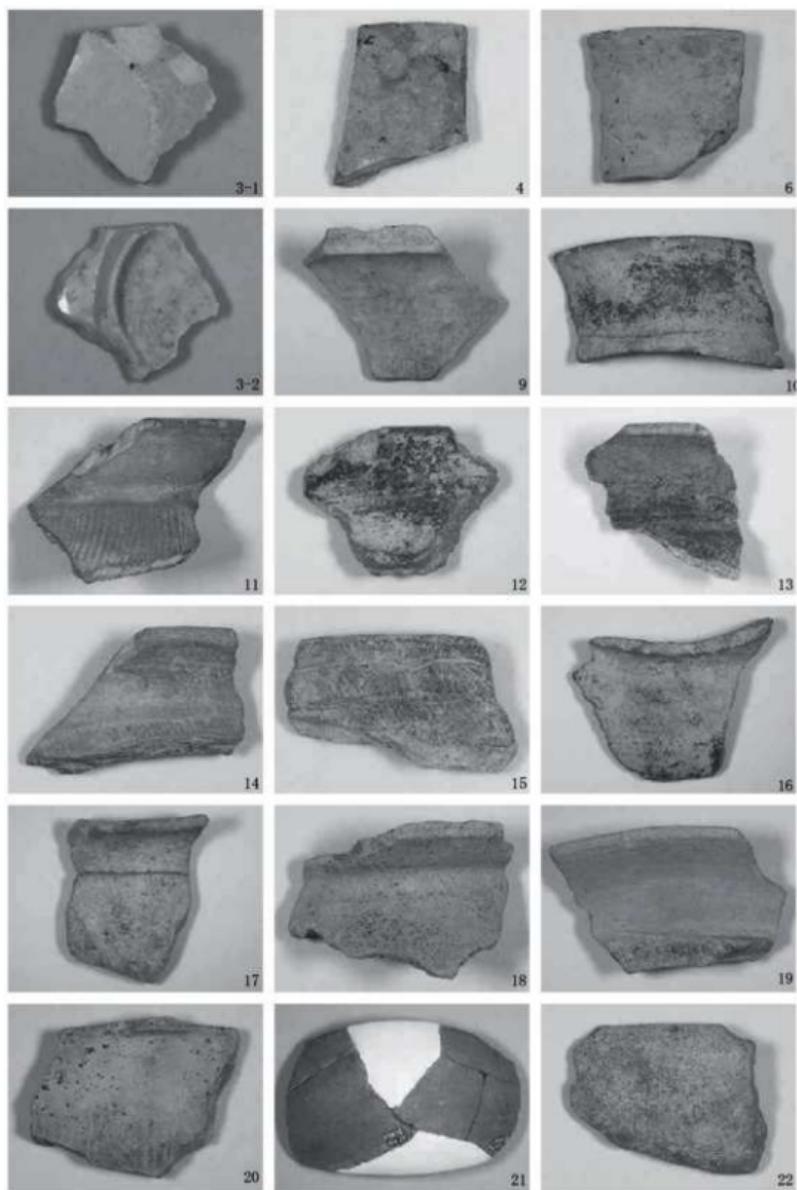
(4) GIトレーナーSK1 掘出状況（北西から）

教育学部附属光小・中学校上水道 給水管（改修工事に伴う試掘・立会調査 一二

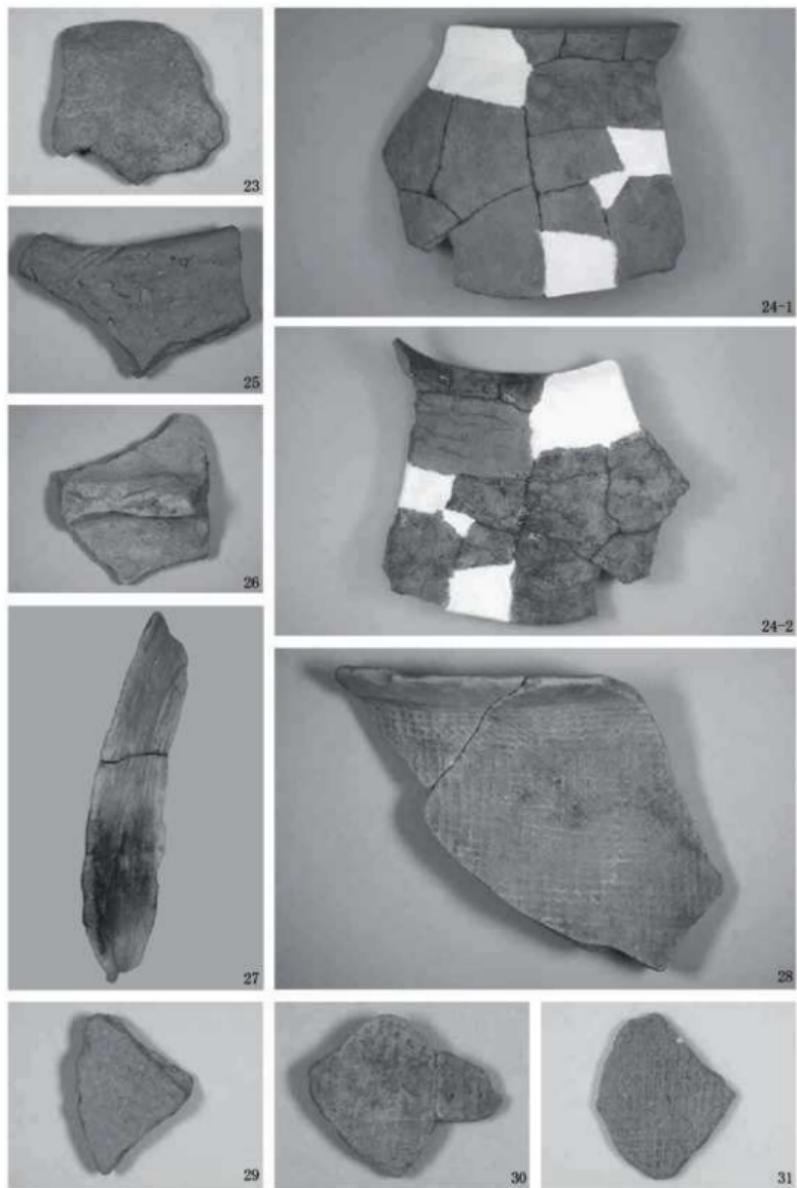


出土遺物①(土器)

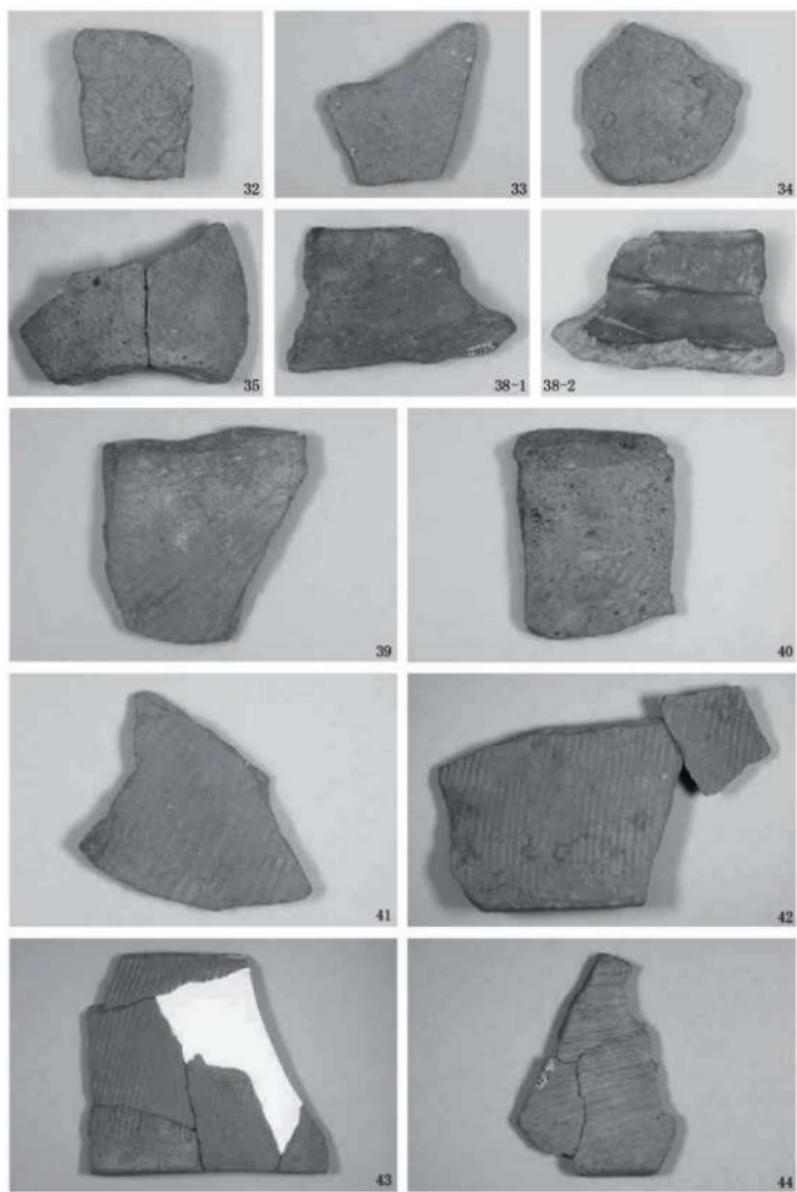
教育学部附属光小・中学校上水道（給水管）改修工事に伴う試掘・立会調査 一四



出土遺物②(土器)



出土遺物③(土器)

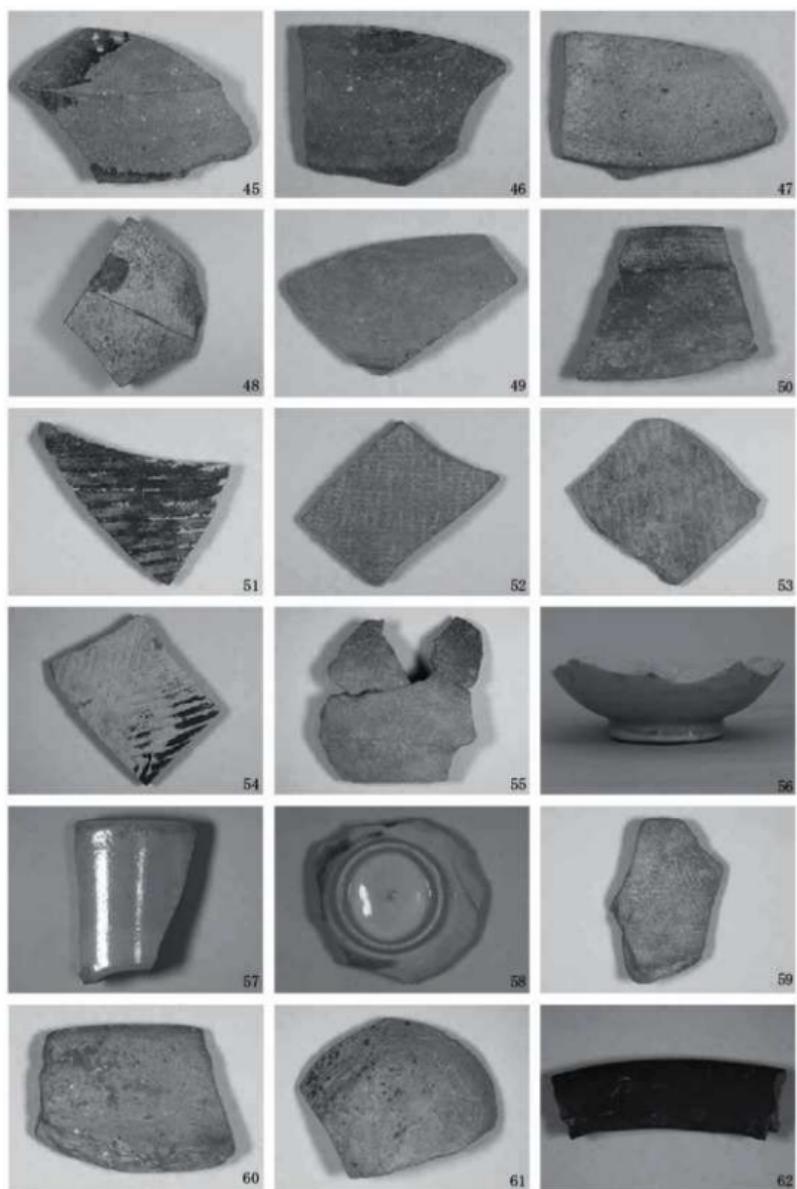


出土遺物④(土器)

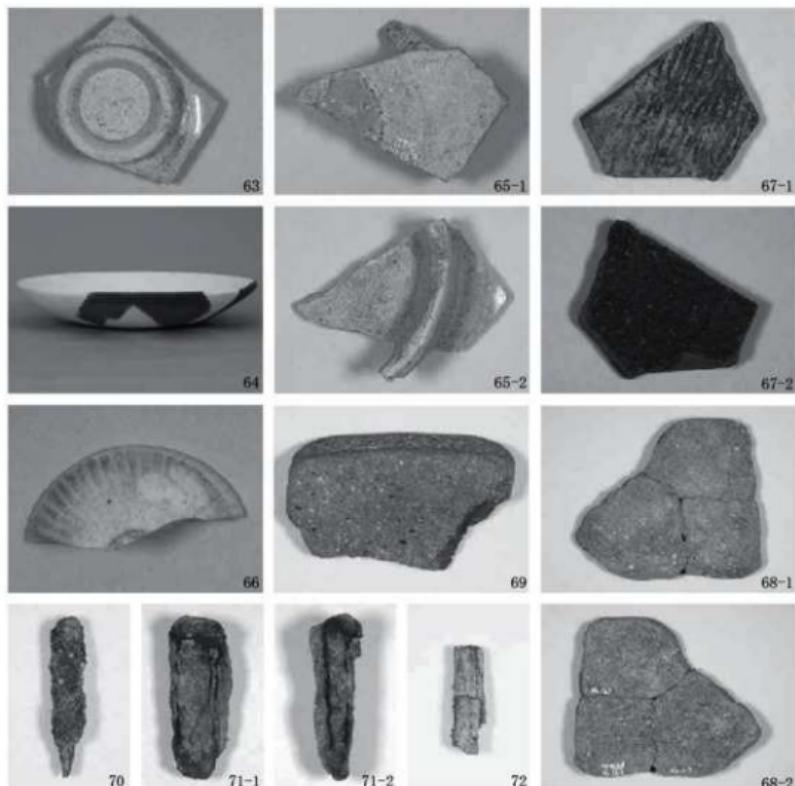


出土遺物⑤(土器)

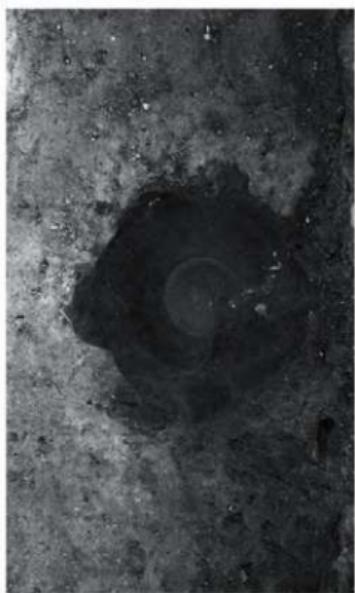
教育学部附属光小・中学校上水道（給水管）改修工事に伴う試掘・立会調査 一八



出土遺物⑥(土器)



出土遺物⑦(土器・鉄製品)





出土遺物（土器）



吉田町夜景(高台)



(1) C地点全景（北西から）



(2) C地点第5層検出状況（南から）





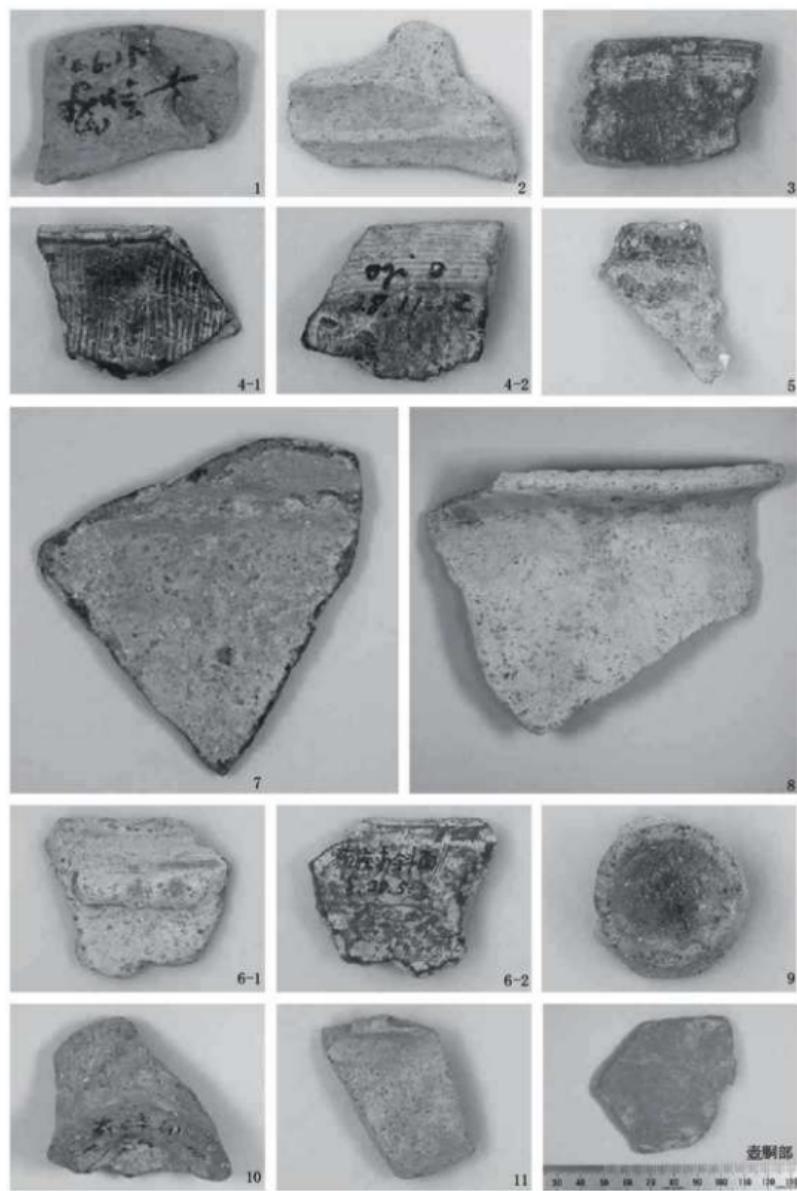
出土遺物（土器）



(1) 荻峰遺跡とその周辺（西から 1947年9月米軍撮影 国土地理院）



(2) 荻峰遺跡遠景（南西から 2021年9月）



出土遺物（土器）

報告書抄録

ふりがな	やまぐちだいがくこうないいせきちょうさけんきゅうねんぽう
書名	山口大学構内遺跡調査研究年報
副書名	
卷次	Ⅲ
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	田畠直彦
編集機関	山口大学埋蔵文化財資料館
所在地	〒753-8511 山口県山口市大字吉田1677-1 TEL 083-933-5035
発行年月日	西暦2022年（令和4年）2月28日

所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡					
山口大学医学部構内遺跡	山口県宇部市 南小串1丁目1-1	35202		33度 57分 39秒	131度 15分 03秒	19990526～ 19990913	818.9m ²	宇部市土地区画整理事業 (柳ヶ瀬丸河内線)
御手洗遺跡	山口県光市 宝積8丁目4番1号	35210		33度 55分 13秒	131度 58分 12秒	19991115～ 19991210	48.7m ²	教育部附属光小・中学校上水道 (給水管)改修工事

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
山口大学医学部構内遺跡	散布地	近世～近代	近世～近代用水路・土坑	土師質土器、灰質土器、陶器、磁器、瓦片	
御手洗遺跡	散布地・ 集落跡	古墳・近世	土坑・溝・ピット	土師器、灰窓器、韓式系土器、繩文土器、灰質土器、陶器、磁器、漆製品	

山口大学構内遺跡調査研究年報 IX

令和4年2月28日

編集 山口大学埋蔵文化財資料館

発行 山口大学

〒753-8511 山口市吉田1677-1

印刷 有限会社 三共印刷

〒759-0204 宇部市大字妻崎開作1953-8

ARCHAEOLOGICAL RESEARCHES AND STUDIES
AT YAMAGUCHI UNIVERSITY Vol.XIX

CONTENTS

Chapter

I	Summary of the archaeological excavations on the Yamaguchi University campuses in the 1999 fiscal year	1
II	Excavations accompanying the Ube City land readjustment project (Yanagase-Maruguchi line)	5
III	Test excavation and on-site inspection accompanying the renovation of the water supply(water pipe) for Hikari elementary/junior high school affiliated with the Faculty of Education	21
IV	On-site inspections on the Yamaguchi University campuses in the 1999 fiscal year	47

Appendix

Pottery items discovered at the Ogidao site in Yamaguchi City	55
Guidelines for excavations on the Yamaguchi University campuses	63
List of excavations on the Yamaguchi University campuses	66
Summary	81

Published by
Yamaguchi University Archaeological Museum
Yamaguchi, 2022